



HASSELBLAD

目次

1	はじめに	8
1.1	ようこそ	9
1.2	X1D II 50Cの特長	10
	中判カメラのメリット	10
	ハッセルブラッド ナチュラルカラーソリューション (HNCS)	10
	JPEGおよびRAWファイル	10
	デジタルレンズ補正	10
	ハッセルブラッドPhocusデジタルイメージングソフトウェア	10
	フラッシュ	10
	XCDシステムレンズ	10
	Hシステムレンズ	10
	VシステムおよびXPanシステムレンズ	10
	その他のレンズ	10
1.3	梱包内容の確認	11
1.4	X1D II技術仕様	12
1.5	システム要件	14
1.6	本バージョンに追加されたもの	14
1.7	このユーザーガイドについて	15
	インタラクティブPDF	15
	検索ツール	15
	X1D IIユーザーガイドの印刷	15
1.8	用語集	15
1.9	X1D IIカメラファームウェアの更新	15
1.10	バッテリー	16
1.11	バッテリーを充電する	17
	バッテリー充電器	17
	バッテリーを充電する	17
	USBポートから充電する	17
1.12	ショルダーストラップの取り付け方	18
2	安全のために	19
2.1	安全ガイドライン	20
	カメラ	20
	メンテナンス	20
	バッテリー	20
	FCCコンプライアンス通知	22

3	レンズ	25
3.1	XCDレンズ	26
3.2	レンズの取り外しと取り付け	27
	レンズの取り外し	27
	レンズの取り付け	28
	レンズキャップの取り外し	29
	レンズキャップの取り付け	29
	レンズシェードの取り外し	30
	レンズシェードの取り付け	30
3.3	XCDレンズのラインナップ	31
	XCD 4/21	31
	XCD 3.5/30	31
	XCD 3.5/45	31
	XCD 2.8/65	31
	XCD 4/45P	31
	XCD 1.9/80	32
	XCD 3.2/90	32
	XCD 3.5/120マクロ	32
	XCD 2.8/135 + Xコンバーター1.7	32
	XCD 3,5-4,5/35-75	33
	フィルター	33
4	機能	34
4.1	部品、コンポーネント、ボタンおよびコントロール	35
4.2	グリップボタンおよびコントロール	38
4.3	カメラボディのボタンおよびコントロール	39
4.4	モードダイヤル	40
4.5	撮影モード	41
	マニュアルモード	42
	マニュアルクイックモード	43
	MQモードの特長	43
	オート露出モード	44
	カスタムモード	45
	カスタムモードの設定方法	45
	AE-Lボタン	46
4.6	X1D IIインタラククションディスプレイ	47
4.7	タッチディスプレイの操作	48
4.8	メニュー内の移動	49

	タッチディスプレイメニュー項目の説明	49
	タッチディスプレイのメニューと設定の概要	50
4.9	タッチディスプレイメインメニュー	51
	メインメニュー	51
	メインメニューのお気に入りにショートカットを追加する	51
	メインメニューにショートカットを追加する方法	52
	メインメニューのショートカットを削除する方法	52
	メインメニューでショートカットを移動する方法	52
4.10	コントロール画面	53
	コントロール画面でロックされる露出パラメーター	53
	コントロール画面での設定	54
	セルフタイマー設定	60
	インターバル設定	61
	インターバル操作	62
	露出ブラケット設定	63
	露出ブラケット操作	64
	長時間露光画面	64
	フォーカスブラケット	65
	フォーカスブラケット設定	66
	フォーカスブラケット操作	67
	ステップサイズ	68
	DoFおよびステップサイズの視覚化	69
	固定露出補正設定	71
	露出補正/クイックアジャスト	72
	測光モード	73
4.11	動画撮影	74
	動画を撮影する方法	74
	録画した動画の表示方法	75
4.12	コネクターポート	76
4.13	メモリーカード	77
	メモリーカードを挿入する	78
	推奨されるメモリーカード	78
	SDメモリーカードを取り外す	79
	SDカードのフォーマット	80
	タッチディスプレイでメモリーカードをフォーマットする	80
4.14	ストップダウンボタン	81
	ストップダウン/被写界深度プレビュー	81
4.15	ライブビュー表示	82
	典型的なライブビューディスプレイ	82
	AF表示	83

	ライブビューオーバーレイ	84
	ライブビューでのズーム	84
4.16	フォーカシング	85
	オートフォーカス	85
	マニュアルフォーカス	87
	フォーカスピーキング	88
4.17	オートフォーカスポイントを移動する	89
4.18	オートフォーカスポイントのサイズ変更	90
4.19	タッチパッドを使用してオートフォーカスポイントを移動する	91
4.20	グリップで設定を変更する	92
	ISOおよびホワイトバランス	93
4.21	ブラウズ、プレビュー、ヒストグラム	94
	撮影画像をブラウズする	94
	タッチディスプレイでのズームインおよびズームアウト	95
	カードを選ぶ	96
	新しいフォルダーの作成	97
	標準プレビュー	98
	9枚表示モード	98
	プレビューのオーバーレイ	99
	詳細モード	99
	ヒストグラムオーバーレイを変更する方法	99
	輝度ヒストグラムモード	99
	RGB色別ヒストグラムモード	99
	ヒストグラム露出モード	100
4.22	画像のレーティング	101
	レーティング機能	101
	GPS	102

5 設定 103

5.1	カメラ設定メニュー	104
	段階設定	105
	シャッター機能設定	106
	トゥルーエクスポージャーの説明	107
	AEロック/クイックアジャスト	108
	オートISO/P/フルオート	109
	クロップと回転	110
	画像の向き	111
5.2	画像クオリティ設定	112
5.3	カメラオートフォーカス設定	113
5.4	カメラのフラッシュ設定	116

5.5	カメラ機器構成の設定	117
5.6	動画設定メニュー	119
5.7	一般設定メニュー	121
	接続設定	122
	ディスプレイ	123
	ライブビュー	124
	プレビュー	125
	タッチ	126
	カスタムボタン	127
	カスタムモード	128
	ストレージ	129
	メモリーカードをフォーマットする方法	129
	サウンド	130
	日付と時間	131
	電力	132
	水準器	133
	水準器のキャリブレーション	134
	GPS	135
	言語	136
	サービス	137
	ファームウェア更新	138
	レンズファームウェア更新	139
	ログデータ	140
	初期設定	141
	ファイルカウンターのリセット	142
	情報	143

6 Phocus 144

6.1	Phocusの概要	145
	Phocusの特長	146
6.2	パソコンに接続する	147
6.3	iPad Proに接続する	147
	Phocus Mobile 2	148
	PhocusとHasselbladの画像ファイル	149

7 アクセサリー 150

	XHレンズアダプター	151
	XVレンズアダプター	151
	トライポッドマウントリング75mm	151

	XPanレンズアダプター	152
	レリーズコードX	152
	バッテリー充電ハブ	152
7.1	オプションのHCレンズアクセサリ	153
	13、26、52mm エクステンションチューブH	153
	コンバーターH 1.7X	153
	チルト/シフトアダプターHTS 1.5X	153
7.2	オプションのアクセサリ	153
	プロシェードV/H 6095	153
	プロシェードアダプター	154
	UVスカイフィルター	154
	偏光フィルター	154
	Xカメラショルダーストラップ	154
	Xカメラブラックレザーショルダーストラップ	154
	トライポッドクイックカプリングH	154

8 付録 155

8.1	不明な言語からの変更	156
8.2	エラーメッセージ	157
8.3	センサーフィルターのクリーニング	158
8.4	レンズガラスの表面のクリーニング	158
	埃を除去する	158
	染みを除去する	158
8.5	ハッセルブラッドX1Dユーザーガイドに関する情報	159
	更新情報	159
	3D製品画像	159
	商標	159
	著作権	159

1.1 ようこそ

優れた5000万画素CMOSセンサーを搭載したX1D II 50C中判ミラーレスデジタルカメラは、Xシステムの第2世代の製品です。受賞歴のある第1世代のデザインのまま機能を新たにしたX1D II 50Cは、コンパクトな設計で中判カメラでの撮影のポータビリティを高めています。本製品のアップグレードされた電子プラットフォームには、3.6インチの大型タッチディスプレイと強化されたEVF、高速化されたリフレッシュレートのライブビュー、直感的で迅速なユー

ザーインターフェイスが搭載されています。USB-CまたはWi-Fi経由でハッセルブラッドのPhocus Mobile 2に接続すると、究極のポータブルなワークフローが可能となります。XCD、HC/HCD、XPan、Vシステムレンズなど幅広い高クオリティのレンズを利用でき、表現の可能性は無限です。



1.2 X1D II 50Cの特長

中判カメラのメリット

比類のない画像解像度を実現する大型センサー。
非常に滑らかな色とトーンの再現。
拡大した際の息をのむようなクオリティ。
浅い被写界深度。

ハッセルブラッド ナチュラルカラーソリューション (HNCS)

カメラのシステムに組み込まれたHNCSテクノロジーにより、肌の色調や製品撮影に優れた色再現性を実現し、人間の目が見ていると通りの並外れたリアルな色が得られます。

JPEGおよびRAWファイル

JPEGファイルはHNCSプロファイル化されているため、驚くべきクオリティでフォルダーから直接印刷することができます。RAWファイルは、最終的な作品のために保持されます。

デジタルレンズ補正

ファイルの編集段階で適用されるデジタルレンズ補正は、レンズ固有の色収差、歪み、光量落ちをどんなにわずかであっても識別し、自動的に最適化します。

ハッセルブラッドPHOCUSデジタルイメージングソフトウェア

Phocusは、撮影処理およびファイル管理のアプリケーションで、主にHasselblad 3Fファイルの処理を目的としています。Phocus Mobile 2は、テザー接続での撮影時、遠隔プレビューと遠隔制御を提供します。Phocus Mobile 2は、iPad ProおよびiPad Air（2019以降）に対応しAppleのApp Storeから無料でダウンロードできます。

フラッシュ

ニコン用のフラッシュ製品は、TTLモードで使用できます。詳細については13ページの"フラッシュの互換性"を参照してください。

XCDシステムレンズ

専用に設計された高性能レンズ10種がラインナップされています。すべてのレンズに、最速1/2000秒のフラッシュ同調が可能なレンズシャッターが内蔵されています。

XCD 21	XCD 30
XCD 45	XCD 45P
XCD 65	XCD 80
XCD 90	XCD 120マクロ
XCD 135 + Xコンバーター1.7	
XCD 35-75ズーム	

詳細については、25ページを参照してください。



XCD 21mm XCD 30mm XCD 45mm XCD 45P



XCD 65mm XCD 80mm XCD 90mm



XCD 120mm マクロ XCD 135mm + Xコンバーター1.7 XCD 35-75mm

Hシステムレンズ

すべてのHシステムレンズは、オプションのXHレンズアダプターと組み合わせることで使用できます（151ページを参照）。オートフォーカス機能の使用には、Hシステムレンズのファームウェアバージョン18.0.0以降が必要となります。これより古いファームウェアのレンズをAF機能対応に更新することはできません。

VシステムおよびXPANシステムレンズ

オプションのXVレンズアダプターとXPanレンズアダプターを使用することで、X1D IIでVシステムとXPanシステムのすべてのレンズを電子シャッターモードで使用できます。

その他のレンズ

X1D IIでは、電子シャッターモードで他のレンズを使用できるようにするサードパーティ製アダプターが多数用意されています。

1.3 梱包内容の確認



梱包内容

カメラボディ

同梱文書

カメラフロント保護カバー

免責事項と安全ガイドライン

レンズ (購入している場合)
レンズフード (XCD 45Pは除く)
レンズ保護キャップ×2

保証書

3400mAh充電式バッテリー

バッテリー保護キャップ

バッテリー充電器 (一部の国でのみ同梱)

USB 3ケーブルタイプA-C、80 cm

ショルダーストラップ

1.4 X1D II技術仕様

カメラタイプ	中判ミラーレスデジタルカメラ、オートフォーカス、自動露出、レンズ交換式
構造	アルミ削り出し三脚穴1/4"
センサータイプ	CMOS、5000万画素 (8272 × 6200ピクセル、5.3 × 5.3μm)
センサーサイズ	43.8 × 32.9mm
画像サイズ	静止画：RAW 3FRファイル106MB平均。JPEG：最大22MB、TIFF 8ビット：154MB 動画：2.7K (2720 × 1530)、HD (1920 × 1080)、最大 29:59分/収録
ファイル形式	Hasselblad 3FR RAW、フルサイズ JPEG。動画：H.264圧縮 (29.97fps)、4:2:0 8ビット
撮影モード	シングルショット、動画、連写、セルフタイマー、インターバルタイマー、露出ブラケット、およびフォーカスブラケット
階調	16ビット、14ストップダイナミック レンジ
ISO 感度	ISOオート、100、200、400、800、1600、3200、6400、12800、25600
記録媒体	UHS-II対応 SDカードデュアルスロットまたはMacおよびPCへのテザー撮影。最大1TB。SDカードは、オーバーフロー（順次記録）モードまたはバックアップ（同時記録）モードで使用できます。推奨カードは 78 ページにリストされています。
カラーマネジメント	ハッセルブラッド ナチュラルカラーソリューション (HNCS)
保存容量	64GBカードの場合、RAW平均600枚またはJPEG高画質画像平均6000枚
キャプチャーレート	最大2.7枚/秒 (RAW)
ユーザーインターフェイス	スワイプ、スクロール、ピンチ/スプレッドでのズームなどを含むタッチインターフェイス。ボタンとコントロールホイール付きのカメラグリップ。テザー接続したコンピューターまたはテザー/Wi-Fi接続したiPad Pro/iPad Air (2019)から多数のカメラ機能をコントロール可能
ディスプレイ	3.6インチTFTタイプ、24ビットカラー、236万画素、タッチ機能：フルサポート
ライブビュー	カメラまたは接続したコンピューター、高フレームレート対応
ビューファインダー	OLED、369万ドットの電子ビューファインダー (EVF)。視野率：100% 倍率：0.87x
ヒストグラムフィードバック	対応、リアディスプレイおよびEVFのブラウズモード時
IRフィルター	センサー前面にマウント
音響フィードバック	あり
ソフトウェア	Phocus (Mac用とWindows用) Adobe Photoshop Lightroom®およびAdobe CameraRaw®と互換性 USB-Cを介したテザー接続のサポートを含むPhocus Mobile 2
対応するソフトウェア環境	Mac：OS Xバージョン10.12.2以降。PC：XP/Vista/Windows 7 (32ビットおよび64ビット) /8/10以降。
iOSデバイスのサポート	iPad ProまたはiPad Air (2019以降)
ホスト接続タイプ	USB 3.0 (5Gbit /秒) Type-Cコネクタ。
その他の接続	オーディオ入出力
動作温度	-10～45°C。 14～113°F。
Wi-FiとGPS	802.11 b、g、n、a、ac (aおよびacは地域によって異なります)。GPS内蔵。

次ページに続きます。

レンズ	Hasselblad XCDレンズ：電子制御によるシャッター、絞り内蔵 オートフォーカスまたはマニュアルフォーカス（インスタントマニュアルフォーカスオーバーライド対応）。レンズシェードは、持ち運び時には反対向きに取り付け可能。 すべてのHシステムレンズと一部HシステムアクセサリがXHアダプター使用により対応 VシステムおよびXpanレンズがXVまたはXpanレンズアダプター使用により対応（電子シャッターのみ）。サードパーティ製のレンズアダプターを介して他の多くのレンズ（電子シャッターのみ）と互換性。
シャッター	最大速度1/2000秒の電子制御レンズシャッター。ストロボ全速同調。オプションの電子シャッター
シャッタースピード範囲	XCDレンズでは68分から1/2000秒。 HC/HCDレンズでは最速1/800秒または1/2000秒。電子シャッターでは68分から1/10000秒
ストロボ同調速度	ストロボはすべてのシャッタースピードで使用できます。メカニカルシャッター時のみ同調可能。
フラッシュコントロール	TTL中央重点測光システム。ニコン TM システムフラッシュに対応。対応ISO範囲100～6400。ストロボの出力は、定常光の露出補正とは独立して日中シンクロ目的で調光（-3～+3EV）できます。全速で同調。メカニカルシャッター時のみ。
フラッシュの互換性	TTLモードでは、次のNikonフラッシュ製品を使用できます。SB-300、SB-500、SB-5000、SB-700、SB-900、SB-910。 次のProfoto製品は、TTLモードで使用できます。Nikon仕様のA1、B1、B2。
フォーカシング	オートおよびマニュアルフォーカス。インスタントマニュアルフォーカスオーバーライド。コントラスト式のオートフォーカス。マニュアルフォーカスでは100%拡大表示またはフォーカスピーキング対応。最大117点の選択可能なオートフォーカスポイント。
測光	スポット、中央部重点、中央スポット
電源供給	充電式リチウムイオンバッテリー（7.27VDC/3400mAh）USBを介してカメラ内で充電、または外部充電器で充電。付属のUSB充電器での充電時間は約2時間。
寸法	XCD 45Pレンズ付きカメラ一式：148 x 97 x 102mm [幅 x 高さ x 奥行] カメラボディのみ：148 x 97 x 70mm
重量	1086g（XCD 45Pレンズ付きカメラ一式、リチウムイオンバッテリーとカード含む） 650g（カメラボディ）。766g（カメラボディ、リチウムイオンバッテリー、およびSDカード）。

1.5 システム要件

画像の保存や編集には、一定性能のコンピュータが必要になります。大きな画像は、十分なメモリー、高度なグラフィックス機能、最新のオペレーティングシステムを持つ高性能なコンピュータを必要とします。

カメラから画像を速く読み取るためにUSB3コネクタを備えたコンピュータを推奨します。SDカードから画像を転送するにはUSB SDカードリーダーも必要です。

1.6 本バージョンに追加されたもの

本ユーザーガイドでは、X1D II 50Cファームウェアバージョン1.2.0以降で使用可能な機能について説明します。

- **動画撮影**：X1D IIのイメージングオプションを拡張して、2.7K (2720 x 1530) とHD (1920 x 1080) の動画撮影機能が追加されました。動画は、4:2:0 8ビットの29.97 fpsで録画できます。2.7Kの解像度オプションを使用すると、よりディテールに富んだ撮影が可能になる他、最終的にフルHDで書き出すため、編集素材としても利用できます。ページ74とページ119を参照してください。
- **新しいレンズXCD 45P**：新しいレンズXCD 45Pがラインナップに加われました。ページ 31を参照してください。
- **フォーカスブラケット**：X1D IIの機能セットをさらに拡張するフォーカスブラケットを使用すると、撮影者はマクロまたは製品写真のように、非常に限定された被写界深度で被写体を撮影できます。これにより、それぞれわずかに異なるフォーカスポイントで選択した被写体の一連の露出を撮影してから、選択したスタッキングソフトウェアでこういった撮影をスタッキングできるようになります。撮影者は、シーケンス内のフレームの数、各撮影間のステップサイズ、およびディレイを完全に制御して、撮影時の振動を解消できます。注：XCD 45Pを除くすべてのXCDレンズに対してレンズファームウェア0.5.33以降が必要です。XCD 45Pには、ファームウェア0.1.24以降が必要です。ページ 59とページ65を参照してください。
- **画像のレーティング**：カメラ内のすべての撮影に画像のレーティングを適用できるようになりました。これにより、撮影をユーザーのコンピューターシステムに転送する際に画像をソート、選択しやすくなりました。画像再生モードの場合、撮影者は画面上に撮影の詳細がオーバーレイされた状態で、単純に星ボタンを押すか、表示された星を押すことができます。レーティングはすべて、撮影した画像のメタデータに保存されます。101ページを参照してください。
- **拡張されたホワイトバランスツール**：ホワイトバランスのプリセットのメニュー構成と選択が、各設定の色温度とティントの表示によって改善されました。ページ54を参照してください。
- **新しいホワイトバランスピッカーツール**
最も正確な色を実現できるようピッカーも追加され、撮影者は画像の無彩色の部分サンプルとして色のバランスを取ることができるようになりました。ページ55を参照してください。
- **撮影した画像に基づくオートホワイトバランス**：オートホワイトバランスは、撮影した画像に基づくようになりました。これにより、マニュアルクイックモードで撮影する際にAWBも使用できます。また、これにより、タングステン照明でフラッシュを操作する際の問題も解決されます。以前はライブビューまたは撮影した画像のどちらかで正しいホワイトバランスが表示されていましたが、今はライブビューと最終的な静止画の両方で正しいホワイトバランスが表示されます。ページ 43を参照してください。
- **EVF近接センサー設定**：EVF近接センサーの感度を調整できるようになりました。これは、眼鏡をかけたユーザーがその存在に反応するセンサーを微調整するとき特に役に立ちます。また、感度を下げることも可能です。これにより、すべてのユーザーが個人的なニーズやお気に入りの表示位置で感度を微調整できるようになります。123 ページを参照してください。
- **露出ブラケットに追加された2/3ストップ**：露出ブラケット機能のステップオプションが拡張され、既存のステップに加えて2/3ストップのステップがサポートされるようになりました。ページ 63を参照してください。
- **カスタムボタンのリセットオプション**：お気に入り画面に追加可能なメニューオプションが追加されたため、カスタムボタンを工場出荷時のデフォルトに戻すことができるようになります。ページ127を参照してください。
- **新しい言語**
言語選択に繁体字中国語が追加されました。ページ 136を参照してください。
- **統合ヒストグラムの削除**：ページ 99を参照してください。

1.7 このユーザーガイドについて

X1D IIユーザーガイドは、画面上でPDFとして読んだ場合、インタラクティブ機能と検索ツールを活用できます。

インタラクティブPDF

目次で章を選択すると、ユーザーガイドをナビゲートできます。このインタラクティブ機能は、ほぼすべてのPDFリーダー、コンピュータープラットフォーム、およびWebブラウザで利用できます。すべてのページに目次へのリンクが含まれており、ほとんどのページ参照もリンクとして機能します。

検索ツール

ほとんどのPDFリーダーでは、検索ツールを使用して特定の内容、機能、または設定を見つけることができます。

X1D IIユーザーガイドの印刷

最も一般的なA4サイズ用の紙に準拠しています。したがって、米国レターサイズまたは類似のサイズで印刷する場合は、ページ拡大縮小ダイアログで「印刷可能領域に合わせる」を選択してください。

写真出典：

Ian Lawson: 94, 95, 96, 97, 98, 101, 147, 149.

Mads Selvig: 147, 148.

Mattias Hammar: 70, 114.

Jens Karlsson: 96.

Philip Liljenberg: 117.

1.8 用語集

このユーザーガイドでは、いくつかの用語が使用されています。

タップ：これは、ディスプレイ上の数値またはアイコンを指で短くタッチすることを意味します。これは、素手、または特別なタッチディスプレイグローブが使用されている場合にのみ機能します。

ダブルタップ：ディスプレイ上の同じ場所を1秒以内にすばやくタップします。これは主に、画像またはライブビューを拡大するために使用されます。

長押し：1秒間押し続けます。

スワイプ：指でディスプレイを押したまま一方にスライドすることです。これは通常、リストから値を選択するとき、またはズームインした画像をパンするときに使用されます。

スプレッド：ディスプレイに2本の指を置き、指を開きます。通常、ズームインに使用されます。

ピンチ：2本の指をディスプレイ上に距離を置き、近づけます。通常、ズームアウトするときに使用されます。

テザー：カメラをUSBケーブルでコンピューターまたはiPad Proに接続する使用法。

1.9 X1D IIカメラファームウェアの更新

X1D IIカメラシステムは、改善および新しい機能のためにファームウェアを更新できます。

ご購入されたX1D IIカメラの使用を開始する前に、www.hasselblad.comにアクセスして、最新のX1D IIカメラファームウェアをダウンロードし、カメラシステムを更新して、最新の機能を使用できるようにしてください。

カメラファームウェアのダウンロード方法とX1D IIカメラの更新方法の詳細については、138ページを参照してください。

1.10 バッテリー

充電式バッテリー

環境的に承認されたバッテリーが、X1D IIカメラの標準電源です (1)。完全に充電された予備のバッテリーを手元に置いておくことをお勧めします。ほとんどの電池と同様、非常に低い温度で使用すると問題が発生する可能性があります。このような状況では、予備のバッテリーを例えばポケットに入れておき、体温近くの温度に保っておいてください。

バッテリーの取り外し方

- 1 カメラからバッテリーを取り外す (1) には バッテリーレバーを引きます (2)。
- 2 バッテリーの一部が外部に出ます (3)。
- 3 次に、バッテリーをカメラから完全に取り外すため、バッテリーを軽く押し込みます。
- 4 バッテリー (4) を取り外します。



バッテリーの取り付け方

- 1 接点がレンズの方向になるようにバッテリーの位置を合わせて、所定の位置にロックされるまでカメラのバッテリー収納部に押し込みます。



注!

バッテリーが挿入されると、背面のステータスLEDが点滅し現在のバッテリー充電レベルを示します。詳細については、次のページを参照してください。

1.11 バッテリーを充電する

バッテリー充電器

X1D IIには、カメラのUSBポートを介してカメラ内のバッテリーを充電するためのUSB電源アダプターが付属しています。

バッテリーを充電する

カメラの電源をオフにし、USB-Cプラグをバッテリー充電器からカメラのUSBソケット **(A)** に挿入します。バッテリー充電器を標準家庭用コンセント (100-240V/50-60Hz) に差し込みます。

USBポートから充電する

バッテリーの充電中、ステータスLED **(B)** がオレンジ色で点滅して現在の充電レベルを示します。右の図を参照してください。たとえば、バッテリーの充電レベルが約50%の場合、LEDは2回点滅した後、短時間オフになります。点滅シーケンスが繰り返されます。



152ページのアクセサリーのバッテリー充電ハブも参照してください。



-  1回の点滅 = 0%～25%。
-  2回の点滅 = 26%～50%。
-  3回の点滅 = 51%～75%。
-  4回の点滅 = 76%～95%。
-  連続点灯が4秒間 = 95%から100%



1.12 ショルダーストラップの取り付け方

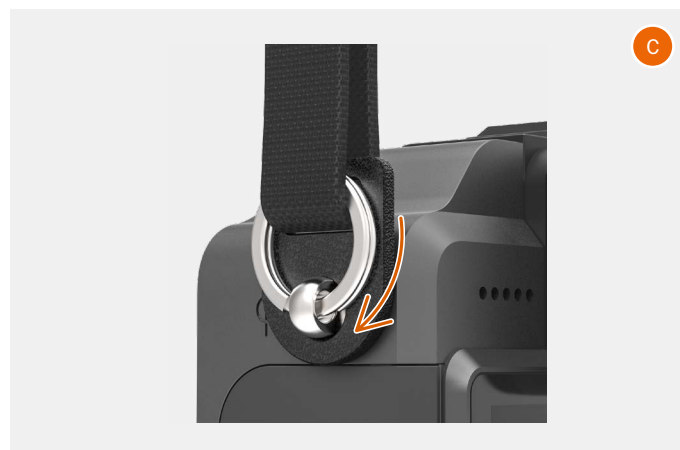
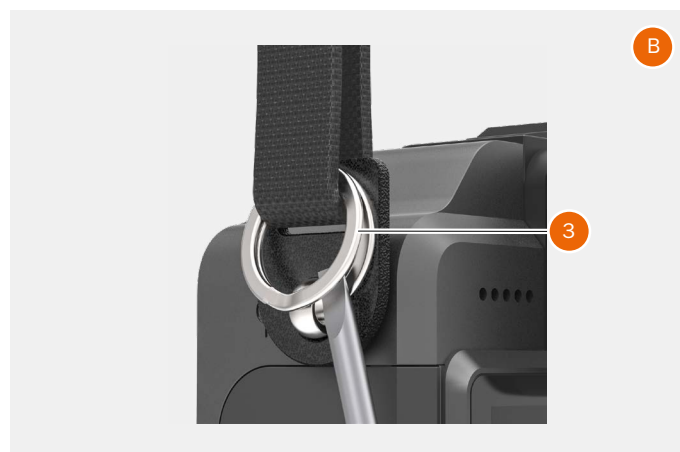
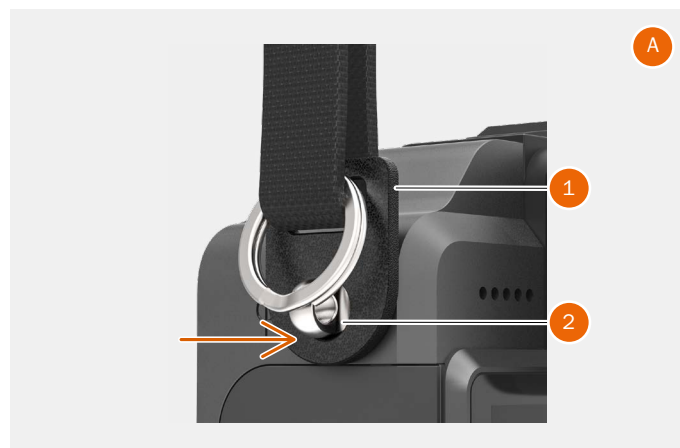
次の手順に従って、付属のショルダーストラップをカメラに取り付けます。

- A** ストラップの革の端 **(1)** を金属製ストラップ取り付け金具 **(2)** に取付けます。
- B** 鋭い工具で金属リング **(3)** を開きます。(例) ドライバーまたは小さなナイフ。カメラを傷つけないように注意してください。
- C** 金属リングの端をストラップ金具の穴に挿入します。リングを1回転させて、ストラップ金具に完全に取り付けられていることを確認します。
- D** 最後に、プラスチックの留め具 **(4)** をスライドし固定します。

カメラの反対側でこの作業を繰り返します。

注!

ストラップに強い引っ張り力がかかると、金属リングまたはストラップ自体が損傷する恐れがあります。定期的に状態を確認し、必要に応じてリングまたはストラップ全体を交換します。



2.1 安全ガイドライン

カメラ

使用方法

- カメラは平らで安定した場所にのみ置いてください。不安定な場所に置いた場合、カメラやレンズが落下し、装置に重大な損傷を与える可能性があります。
- 濡れた、煙が充満した、ほこりの多い、または可燃性のガスや物質を含む環境でカメラを使用しないでください。
- 雷雨時にはカメラを防水してください。火災の危険につながるおそれがあります。
- 温度が高すぎたり低すぎたりする場所でカメラを使用しないでください。カメラの性能に影響を及ぼす場合があります、耐用年数を減らす可能性があります。
- 煙や異臭などの異常がある場合は、ただちにカメラの電源をオフにしてバッテリーを取り外してください。サポートが必要な場合は、HasselbladまたはHasselbladの正規代理店までお問い合わせください。
- カメラの分解または改造をしないでください。保証は無効になります。
- フラッシュが発光しているときは、フラッシュの前に近づきすぎないでください。視力に一時的に影響を与える恐れがあります。
- SDカードが良好な状態かどうかを確認してください。カメラのステータスLEDが点滅しているときは、SDカードを挿入したり取り外したりしないでください。データが失われ、SDカードが破損する可能性があります。
- カメラを使用するときは、常に他者のプライバシーを尊重し、遵守してください。
- 電源供給には、必ず互換性のあるバッテリーを使用してください。
- 保管および輸送
- 湿度の高い場所では、カメラのドライボックス、湿度キャビネット、シリカゲル（乾燥剤）を使用することをお勧めします。
- 小さな子どもの手の届かない場所にカメラを保管してください。
- カメラの上に重量のある物を置かないでください。
- 環境の温度が高すぎたり低すぎたりする場所にカメラを保管しないでください。

メンテナンス

- カメラは清潔に保ち、ほこりや汚れがないようにしてください。レンズを取り外したら、フロント保護キャップをカメラ本体に取り付けてください。ほこりや汚れがセンサーに付着する可能性があります。
- 本製品は精巧です。カメラのクリーニングは、必ずユーザーガイドの指示に従って行ってください。
- カメラの清掃については、HasselbladまたはHasselbladの正規代理店にご相談ください。

バッテリー

使用方法

- バッテリーはいかなる液体類にも接触させないでください。バッテリーを水中に落とさないでください。バッテリーの内部に水分が入ると、腐食が起こり、バッテリーが引火して、さらには爆発につながるおそれがあります。
- 液漏れしたり損傷したバッテリーを絶対に使用または充電しないでください。バッテリーに異常がある場合は、HasselbladまたはHasselbladの正規代理店にご連絡ください。
- バッテリーは、-10〜40°Cの範囲で使用する必要があります。50°Cを超える環境でバッテリーを使用すると、火災や爆発につながる可能性があります。-10°C以下でバッテリーを使用すると、回復不能な損傷につながる可能性があります。
- いかなる方法でもバッテリーの分解や穴あけを行わないでください。バッテリーの液漏れ、発火、爆発が起こるおそれがあります。
- バッテリーの電解液は非常に高い腐食性があります。電解液が皮膚に触れたり、目に入ったりした場合は、直ちに流水で患部を15分以上洗い流してから、すぐに医師の診察を受けてください。
- 衝突や激しい衝撃を受けた場合は、バッテリーを使用しないでください。
- 電子レンジや高圧容器内にバッテリーを入れないでください。
- 緩んだセルをポケットやバッグ、引き出しに入れないでください。他のものに接触したり、バッテリー端子が相互に押し付けられたりすると、ショートするおそれがあります。
- バッテリーを落としたり、叩いたりしないでください。
- バッテリーや充電器の上に重量のある物を置かないでください。
- バッテリー端子は、清潔な乾いた布で拭いてください。

バッテリー充電

- 可燃物の近くや、カーペットや木などの燃えやすい物の上でバッテリーを充電しないでください。
- バッテリーを5〜40°Cの温度範囲外で充電すると、液漏れ、過熱、バッテリーの損傷に至るおそれがあります。理想的な充電温度は15〜25°Cです。
- 使用しないときには、バッテリーを充電器から取り外してください。充電器を定期的に点検して、コード、プラグ、本体、その他の部品に損傷がないかチェックしてください。損傷した充電器を使用しないでください。

バッテリーの保管

- 幼児やペットの手の届かないところにバッテリーを保管してください。
- 長期間保管する場合は、カメラからバッテリーを取り外してください。バッテリーを30%～60%の電力レベルまで放電し、バッテリーを室温で保管してください。バッテリー残量は、カメラのタッチスクリーンで確認できます。
- 直火やヒーターなどの熱源の近くにバッテリーを放置しないでください。暑い日にバッテリーを自動車内に放置しないでください。
- バッテリーは乾燥した状態で保管してください。バッテリーを水中に落とさないでください。
- バッテリーを落としたり、叩いたり、突き刺したり、手動でショートさせたりしないでください。
- バッテリーが損傷している場合は、地域の法規制に従って、適切なリサイクル用のゴミ区分として廃棄してください。損傷したバッテリーは持ち運びしないでください。
- バッテリーを完全に放電した状態で、長期間保管しないでください。バッテリーが過放電され、バッテリーセルに回復不能な損傷を及ぼすことがあります。
- バッテリーが長期間空の状態で保存されている場合、休眠モードに入ります。バッテリーを再充電すると、休眠状態から回復します。

バッテリーの廃棄

- バッテリーは、完全に放電した後で適切なリサイクル用のゴミ区分として廃棄してください。通常のゴミにバッテリーを入れないでください。バッテリーの廃棄とリサイクルに関する現地の規制を厳守してください。

バッテリーのメンテナンス

- バッテリーを良好な状態に保つために、3か月に1回はバッテリーを完全に充電したあと放電してください。
- 温度が45°Cを超える環境や0°Cを下回る環境にバッテリーを保管しないでください。バッテリーを飛行機内に持ち込む前に、バッテリーは30%未満の電力レベルまで放電しておく必要があります。バッテリーの放電は耐火性の場所でのみ行ってください。

FCCコンプライアンス通知

この装置はFCC規則パート15に適合しています。動作は以下の2つの条件に従います。(1)この装置は、有害な干渉を引き起こさず、かつ、(2)好ましくない動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信した干渉を受け入れなければなりません。コンプライアンスに責任のある当事者による明示的な承認がなされていない変更や改造があった場合、この機材を操作するユーザーの権限が無効になることがあります。

この機材は、FCC規則パート15に従って試験され、クラスBデジタル装置の制限に準拠していることが確認されています。これらの制限は、住宅地での有害な干渉に対する合理的な保護を提供するためです。この機材は、無線周波数エネルギーを発生、使用して、放射することがあり、指示に従って使用されない場合は無線通信に有害な干渉を発生させる恐れがあります。ただし、特定の使用場所において干渉が生じないという保証はありません。この機材から無線やテレビ受信に有害な干渉が発生する場合（機材をオン/オフすることで確認が可能）には、以下の一つ以上の措置によって干渉を解決することが奨励されています。

- 受信アンテナの向きや場所を変える。
- 機材と受信機との距離を離す。
- 受信機が接続されている回路とは異なる回路のコンセントに接続する。
- 販売店や経験のあるラジオ/テレビ技術者に相談する。

高周波曝露情報

このデバイス (X1D MARK II; モデル: X1D MARK II) は、制御されていないFCC曝露限界についてSARに準拠しており、IEEE1528およびIEC 62209で指定された測定方法および手順に従ってテストされています。本機器は、目の近くでの操作時は、放射器と顔との間の最小距離を1 cmにして据付・操作する必要があります。手持ち操作時は、放射器と身体との間の最小距離は20 cmです。このデバイスとそのアンテナは、他のアンテナや送信機と同じ場所に設置したり、一緒に使用したりしないでください。

ISED警告

このデバイスには、カナダイノベーション・科学・経済開発省 (Innovation, Science and Economic Development Canada) のライセンス免除RSSに準拠したライセンス免除送信機/受信機が含まれています。動作は以下の2つの条件に従います。(1)このデバイスが、有害な干渉を引き起こさないこと。(2)このデバイスが、デバイスの好ましくない動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信した干渉を受け入れること。

L'émetteur/récepteur exempt de licence contenu dans le présent appareil est conforme aux CNR d'Innovation, Sciences et Développement économique Canada applicables aux appareils radio exempts de licence. L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes : (1) L'appareil ne doit pas produire de brouillage; (2) L'appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement.

INFORMATIONS SUR L'EXPOSITION RF

Ce dispositif (X1D MARK II; modèle X1D MARK II) est conforme aux normes SAR pour les limites d'exposition ISED non contrôlées et a été testé conformément aux méthodes et procédures de mesure spécifiées dans IEEE1528 et IEC 62209, cet équipement doit être installé et fonctionner avec une distance minimale de 1 cm entre le radiateur et votre visage lorsque le fonctionnement est proche de l'œil. Et distance minimale 20 cm entre le radiateur et votre corps lors de l'opération manuelle. Cet appareil et son (ses) antenne (s) ne doivent pas être co-localisés ou fonctionner en conjonction avec une autre antenne ou émetteur.

KCC警告メッセージ

“해당무선설비는 운용 중 전파혼신 가능성이 있으므로 인명안전과 관련된 서비스는 할 수 없습니다.”
“해당 무선설비는 운용 중 전파혼신 가능성이 있음”

NCC警告メッセージ

低功率電波輻射性電機管理辦法
第十二條 經型式認證合格之低功率射頻電機，非經許可，公司、商號或使用者均不得擅自變更頻率、加大功率或變更原設計之特性及功能。
第十四條 低功率射頻電機之使用不得影響飛航安全及干擾合法通信；經發現有干擾現象時，應改善至無干擾時方得繼續使用。前項合法通信，指依電信法規定作業之無線電通信。低功率射頻電機須忍受合法通信或工業、科學及醫療用電波輻射性電機設備之干擾。

EU適合宣言

VICTOR HASSELBLAD AKTIEBOLAGは、このデバイスが指令2014/53 / EUの必須要件およびその他の関連規定に準拠していることを宣言します。
EUの連絡先アドレス: Utvecklingsgatan 2, 41756 Göteborg, Sweden.

DECLARACIÓN DE CUMPLIMIENTO UE:

VICTOR HASSELBLAD AKTIEBOLAG por la presente declara que este dispositivo cumple los requisitos básicos y el resto de provisiones relevantes de la Directiva 2014/53/EU.

Dirección de contacto de la UE:

Utvecklingsgatan 2, 41756 Göteborg, Sweden

EU-VERKLARING VAN OVEREENSTEMMING:

VICTOR HASSELBLAD AKTIEBOLAG verklaart hierbij dat dit apparaat voldoet aan de essentiële vereisten en andere relevante bepalingen van Richtlijn 2014/53/EU.

Contactadres EU: Utvecklingsgatan 2, 41756 Göteborg, Sweden

DECLARAÇÃO DE CONFORMIDADE DA UE:

A VICTOR HASSELBLAD AKTIEBOLAG declara, através deste documento, que este dispositivo está em conformidade com os requisitos essenciais e outras disposições relevantes da Diretiva 2014/53/EU.

Endereço de contacto na UE: Utvecklingsgatan 2, 41756 Göteborg, Sweden

DICHIARAZIONE DI CONFORMITÀ UE:

VICTOR HASSELBLAD AKTIEBOLAG dichiara che il presente dispositivo è conforme ai requisiti essenziali e alle altre disposizioni rilevanti della direttiva 2014/53/EU.

Indirizzo di contatto UE: Utvecklingsgatan 2, 41756 Göteborg, Sweden

DÉCLARATION DE CONFORMITÉ UE :

Par la présente, VICTOR HASSELBLAD AKTIEBOLAG déclare que cet appareil est conforme aux principales exigences et autres clauses pertinentes de la directive européenne 2014/53/EU.

Adresse de contact pour l'UE : Utvecklingsgatan 2, 41756 Göteborg, Sweden

EU 準拠:

Hiermit erklärt VICTOR HASSELBLAD AKTIEBOLAG., dass dieses Gerät den wesentlichen Anforderungen und anderen einschlägigen Bestimmungen der EU-Richtlinie 2014/53/EU entspricht.

Kontaktadresse innerhalb der EU: Utvecklingsgatan 2, 41756 Göteborg, Sweden

環境に優しい廃棄



古い電化製品は、残留廃棄物と一緒に処分してはならず、別々に処分する必要があります。古い電化製品の所有者は、これらの収集所または同様の収集所に電化製品を持ち込む責任があります。このわずかな個人的な努力で、貴重な原材料のリサイクルと有害物質の処理に貢献します。

Umweltfreundliche Entsorgung



Elektro-Altgeräte dürfen nicht mit gewöhnlichem Abfall entsorgt werden und müssen separat entsorgt werden. Die Entsorgung an kommunalen Sammelstellen ist für Privatpersonen kostenlos. Die Eigentümer der Altgeräte sind für den Transport zu den Sammelstellen verantwortlich. Durch diesen geringen Aufwand können Sie zur Wiederverwertung von wertvollen Rohmaterialien beitragen und dafür sorgen, dass umweltschädliche und giftige Substanzen ordnungsgemäß unschädlich gemacht werden.

Tratamiento de residuos responsable con el medio ambiente



Los aparatos eléctricos viejos no pueden desecharse junto con los residuos orgánicos, sino que deben ser desechados por separado. Existen puntos limpios donde los ciudadanos pueden dejar estos aparatos gratis. El propietario de los aparatos viejos es responsable de llevarlos a estos puntos limpios o similares puntos de recogida. Con este pequeño esfuerzo estás contribuyendo a reciclar valiosas materias primas y al tratamiento de residuos tóxicos.

Mise au rebut écologique



Les appareils électriques usagés ne doivent pas être éliminés avec les déchets résiduels. Ils doivent être éliminés séparément. La mise au rebut au point de collecte municipale par l'intermédiaire de particuliers est gratuite. Il incombe au propriétaire des appareils usagés de les apporter à ces points de collecte ou à des points de collecte similaires. Avec ce petit effort personnel, vous contribuez au recyclage de matières premières précieuses et au traitement des substances toxiques.

注意! バッテリーを正しく交換しないと、爆発の危険性があります。使用済みバッテリーは指示に従って廃棄してください。

Smaltimento ecologico



I vecchi dispositivi elettrici non devono essere smaltiti insieme ai rifiuti residui, ma devono essere smaltiti separatamente. Lo smaltimento da parte di soggetti privati presso i punti di raccolta pubblici è gratis. È responsabilità del proprietario dei vecchi dispositivi portarli presso tali punti di raccolta o punti di raccolta analoghi. Grazie a questo piccolo impegno personale contribuirete al riciclo di materie prime preziose e al corretto trattamento di sostanze tossiche.

Milieuvriendelijk afvoeren



Oude elektrische apparaten mogen niet worden weggegooid samen met het restafval, maar moeten afzonderlijk worden afgevoerd. Afvoeren via het gemeentelijke inzamelpunt is gratis voor particulieren. De eigenaar van oude toestellen is verantwoordelijk voor het inleveren van de apparaten op deze of vergelijkbare inzamelpunten. Met deze kleine persoonlijke inspanning lever je een bijdrage aan de recycling van waardevolle grondstoffen en de verwerking van giftige stoffen.

Eliminação ecológica



Os aparelhos elétricos antigos não podem ser eliminados juntamente com os materiais residuais. Têm de ser eliminados separadamente. A eliminação no ponto de recolha público através de entidades particulares é gratuita. É da responsabilidade do proprietário de aparelhos antigos levá-los a estes pontos de recolha ou a pontos de recolha semelhantes. Com este pequeno esforço pessoal, contribui para a reciclagem de matérias-primas úteis e para o tratamento de substâncias tóxicas.

タイの警告メッセージ

เครื่องโทรคมนาคมและอุปกรณ์นี้ มีความสอดคล้องตามข้อกำหนดของ กทช.

メキシコの警告メッセージ

“La operación de este equipo está sujeta a las siguientes dos condiciones: **(1)** es posible que este equipo o dispositivo no cause interferencia perjudicial y **(2)** este equipo o dispositivo debe aceptar cualquier interferencia, incluyendo la que pueda causar su operación no deseada.”

ブラジルの警告メッセージ

Este equipamento opera em caráter secundário, isto é, não tem direito a proteção contra interferência prejudicial, mesmo de estações do mesmo tipo, e não pode causar interferência a sistemas operando em caráter primário

3.1 XCDレンズ

XCDレンズは、レンズシャッターを内蔵しており、最大1/2000秒のシャッタースピードが可能です。フラッシュ同調は、すべてのシャッタースピードで可能です。また、カメラの電源が入っているときにいつでも使用できるマニュアルフォーカスリングも備えています。レンズには金属製のレンズシェードが付いており、持ち運びの際には逆向きに取り付けることができます。

XCDレンズのラインアップの詳細については、31ページを参照してください。HasselbladのWebサイト、www.hasselblad.comからデータシートをダウンロードすることもできます。



3.2 レンズの取り外しと取り付け

レンズの取り外し

注！

コンポーネントのカメラからの着脱は慎重に行ってください。これによりデータバス接続部の損傷を防止できます。

注！

カメラボディに指を入れないでください。機材の損傷が生じることがあります。

- 1 片方の手でレンズ (C) を持ち、カメラボディ (A) が動かないようにします。
- 2 レンズ取り外しボタン (B) を押します。
- 3 レンズを反時計回りに回します。
- 4 レンズ (C) をカメラボディから分離します。
- 5 カメラ本体に保護カバー (D) を直に取り付けます。
- 6 損傷防止のために、取り外したレンズにレンズ保護キャップを取り付けます。
- 7 レンズは、両面にレンズ保護キャップを取り付け、レンズフードをレンズの前面 (E) ではなく逆向きにレンズに被せるように取り付けて保管します。



レンズの取り付け

注！

コンポーネントをカメラから着脱する際は注意してください。これによりデータバス接続部の損傷を防止できます。

注！

カメラボディに指を入れないでください。機材の損傷が生じることがあります。

- 1 レンズ取り外しボタン (A) を押し、カメラボディからフロント保護カバー (B) を取り外します。
- 2 レンズの赤いマーク (C) がカメラボディの赤いマーク (D) と揃うように、レンズを回転させます。
- 3 レンズ (E) をカメラボディ (E) に取り付けてから、レンズを時計回りにロック位置まで回転させます。
- 4 カメラの使用または持ち運びの前に、レンズがカメラボディにロックされていることを確認します。



レンズキャップの取り外し

- 1 親指と人差し指を窪み (A) に入れます。
- 2 窪み (A) をつまみます。
- 3 フロントレンズキャップを取り外します。



レンズキャップの取り付け

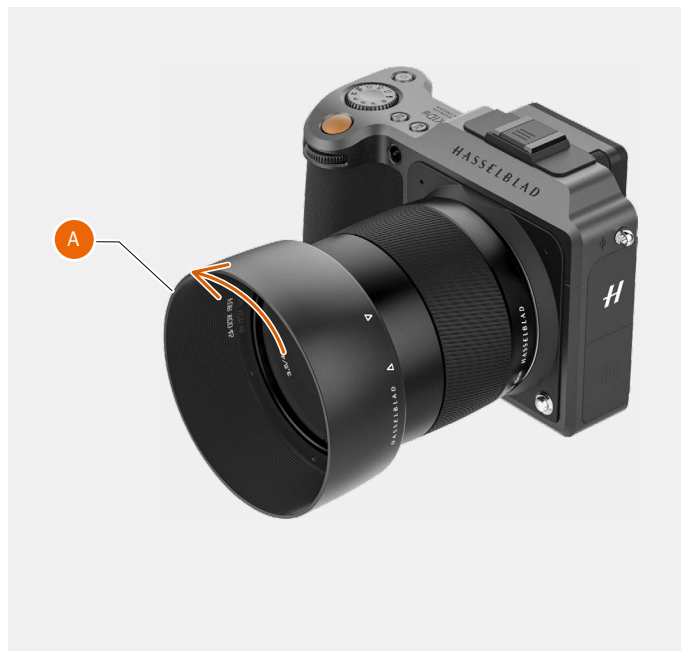
- 1 親指と人差し指を窪み (A) に入れます。
- 2 窪み (A) をつまみます。
- 3 レンズにフロントレンズキャップを、所定位置にパチンと嵌まるように取り付けます。



レンズシェードの取り外し

すべてのレンズにレンズシェードが付いており、これを逆向きに取り付ければ、運搬や保管の際、レンズの保護となります。

- 1 レンズシェード (A) を反時計回りに回します。
- 2 レンズシェード (A) を取り外します。



レンズシェードの取り付け

すべてのレンズにレンズシェードが付いており、これを逆向きに取り付ければ、運搬や保管の際、レンズの保護となります。

- 1 レンズシェードをレンズと合わせます。
- 2 レンズシェードの指標 (A) がレンズの前面の指標 (B) と揃っていることを確認します。
- 3 レンズキャップを、所定位置にパチンと嵌まるまで時計回りに回転させます。



3.3 XCDレンズのラインナップ



XCD 4/21

XCD 21は、Xシステムの超広角レンズです。焦点距離が非常に短く、フルサイズ換算の17mmに相当するため、風景写真や建築写真に最適です。



XCD 3.5/30

XCD 30は、Xシステムの広角レンズです。焦点距離は換算24mm相当の画角となり、風景、ルポルタージュ、トラベルレンズとして最適です。



XCD 3.5/45

XCD 45は、Xシステムの理想的な標準レンズです。準広角レンズの焦点距離は換算35mm相当の画角となり、汎用、トラベルレンズとして最適です。



XCD 4/45P

XCD 45Pは、Xシステムの非常にコンパクトなレンズです。レンズの焦点距離は換算35 mm相当の画角となり、汎用、トラベルレンズとして最適です。



XCD 2.8/65

XCD 65mmは、Xシステムの標準レンズです。焦点距離は、換算50mm相当の画角となります。大口径と優れた近接性能により、あらゆる撮影や複写にも最適です。

**XCD 1.9/80**

XCD 80は大口径レンズであり、非常に浅い被写界深度と美しいボケが得られます。特に、自然光のポートレート写真に役立ちます。換算63mmと同等の画角です。

**XCD 3.2/90**

XCD 90は、Xシステムの軽量でコンパクトな中望遠レンズです。適度な焦点距離により換算71mmと同等の画角が得られ、完璧なオールラウンドレンズです。

**XCD 3.5/120マクロ**

XCD 120は、X1D IIに最適なマクロレンズです。近接撮影と、長い焦点距離が必要なポートレートなどの写真の両方に適しています。撮影倍率は1:2です。換算95mmと同等の画角です。

**XCD 2.8/135 + X
コンバーター1.7**

XCD 135は、専用の1.7xコンバーターと組み合わせることで4.8/230mmレンズとなる中望遠レンズです。35mm換算での焦点距離は107および181mmです。



XCD 3,5-4,5/35-75

このズームレンズは、旅行中に持ち歩く道具を最小限に抑えたい一方で画質を犠牲にたくないというフォトグラファーに最適です。最短撮影距離は0.42mです。フルサイズ換算28-58mmと同等の画角です。

フィルター

XCDレンズは、右の表に示す直径のフィルターに対応します。

フォーカスが変わってもレンズの前面は回転しないため、フィルターも回転しません。これは、角度が重大な意味をもつPLフィルターやグラデーションフィルターの使用時に特に有用です。

レンズ	フィルター径
XCD 21	ø 77mm
XCD 30	ø 77mm
XCD 45	ø 67mm
XCD 45P	ø 62mm
XCD 65	ø 67mm
XCD 80	ø 77mm
XCD 90	ø 67mm
XCD 120マクロ	ø 77mm
XCD 135	ø 77mm
XCD 35-75	ø 77mm

4.1 部品、コンポーネント、ボタンおよびコントロール

この章に記載されている部品についてはすべて、各節で詳しく説明しています。

- 1 モードダイヤル
- 2 シャッターボタン
- 3 フロントホイール
- 4 AF補助光LED
- 5 カメラグリップ
- 6 ストップダウンボタン



- 7 AEロック (AE-L) ボタン
- 8 AF作動 (AF-D) ボタン
- 9 リアホイール
- 10 再生ボタン
- 11 □ボタン
- 12 ☆ボタン
- 13 ×/画像削除ボタン
- 14 メニューボタン

- 15 電子ビューファインダー (EVF)
- 16 スピーカー
- 17 ストラップ取り付け金具
- 18 アイセンサー
- 19 タッチディスプレイ
- 20 ステータスLED







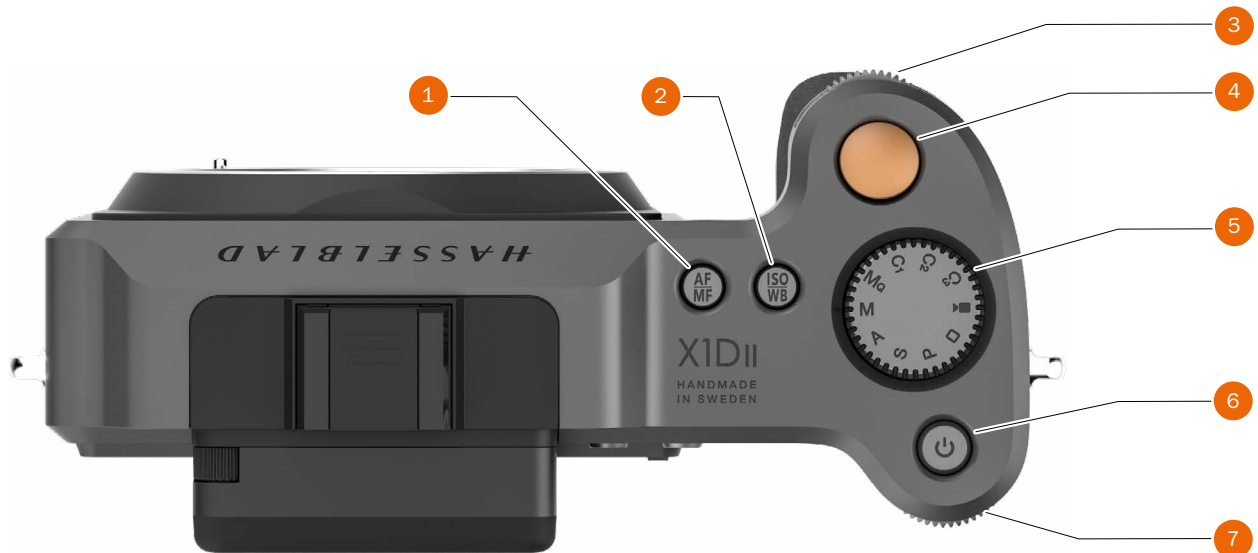
視度の調整

- 1 視度調整ホイール
- 2 視度調整ホイールを回転して、必要な設定に調整します。



- 3 三脚穴 (1/4")
- 4 バッテリー取り外しレバー
- 5 バッテリー

4.2 グリップボタンおよびコントロール



1 AF/MFボタン

AF/MFボタンは、オートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り替えます。

127ページの手順で、別機能を割り当て可能です。

2 ISO/WBボタン

このボタンを使用すると、ISOおよびWB設定に直接アクセスできます。ISO設定を変更するには、1回押します。もう1回押すと、WB設定が変更できます。

127ページの手順で、別機能を割り当て可能です。

3 フロントホイール

フロントおよびリアホイールを使用して、露出設定を変更したり、タッチディスプレイのメニュー上の移動に使用できます。また、再生画像の移動にも使われます。

4 シャッターボタン

このボタンには2つのポジションがあります。半押しすると（軽く押すと）、カメラ、オートフォーカス機能、露出計が起動します。押し下げると（強めに押すと）、シャッターが切れます。選択している場合、インターバル撮影やセルフタイマーなども起動します。

5 モードダイヤル

10個の撮影モードのいずれかを選択します。MQ、M、A、S、P、フルオートモード、動画モード、および3つのカスタムモードC3、C2、C1が選択可能です。

6 オン/オフボタン

ボタンを1秒間押すと、カメラが起動します。X1D IIのスタートアップロゴが表示された後、コントロール画面が表示されます。無操作で数秒（カスタマイズ可能）経過すると、カメラはディスプレイオフモードに切り替わります。ボタンを長押しすると、完全にオフになります（ディスプレイオフモードからでも同様）。ボタンを短く押すと、タッチディスプレイのオンとオフが切り替わります。

7 リアホイール

リアホイールは、露出設定の変更、カメラメニュー上の移動に使用できます。また、再生画像のオーバーレイ表示の切り替えにも使われます。

注!

動画モードは、今後のファームウェアリリースで実装されます。

注!

設定によっては複数の機能を持つボタンもあります。

注!

一部のボタンは、別の機能を割り当てできます。127ページを参照してください。

注!

シャッターボタンに加えて、アクセサリーのレリーズコードXを使用し、X1D IIカメラのシャッターをリモートで切ることもできます。76ページおよび152ページを参照してください。

4.3 カメラボディのボタンおよびコントロール

1 AE-Lボタン

このボタンでAEロックが適用され、オート/マニュアル両方の露出モードでの測光値をロックします。また、操作中の機能に応じて、再生の際のズームアウトボタンとして、あるいはカメラの設定に変更を加える際の終了ボタンとしての働きもします。

2 AF-Dボタン

AF-Dボタンは、オートフォーカスのプロセスを開始します。押すとオートフォーカスを開始し、放すとオートフォーカス機能を停止します。ビューファインダーに表示される長方形は、オートフォーカスの段階に応じて色が変わります。

黒 - 標準モード。オートフォーカスは被写体を分析していません。
 白 - オートフォーカスが進行中で、被写体を分析しています。
 緑色 - オートフォーカスが完了し、被写体に合焦しています。
 赤 - オートフォーカスはフォーカスに失敗し、適正に設定されていません。

3 リアホイール

リアホイールは、選択した機能に応じて異なる設定を制御します。

4 シャッターボタン

このボタンには2つのポジションがあります。半押しすると（軽く押すと）、カメラ、オートフォーカス機能、露出計が起動します。押し下げると（強く押すと）、シャッターが切れます。選択している場合、インターバル撮影やセルフタイマーなども起動します。

5 フロントホイール

フロントホイールは、選択した機能に応じて異なる設定を制御します。

6 ストップダウンボタン

押すと、選択した絞り値での被写界深度がビューファインダー画面で確認できます。設定値まで絞りが絞り込まれ、押している間は絞り込んだ状態が続きます。ボタンを押したまま絞り値を変更して、変化の度合いを確認できます。

127ページの説明どおり、別機能を割り当てることも可能です。



4.4 モードダイヤル

モードダイヤル

モードダイヤル (1) は使用中のカメラモードを表示します。モードダイヤルで選択可能な撮影モードは10種類あります。

さまざまな撮影モード

Mq	マニュアルクイックモード
M	マニュアルモード
A	絞り優先モード
S	シャッター優先モード
P	プログラムオート
□	フルオートモード (ISOおよびWBも自動的に設定されます)
動画	動画モード
C3	カスタムプログラム3
C2	カスタムプログラム2
C1	カスタムプログラム1



モードダイヤルをロックする方法

モードダイヤルを押し下げる (2) とロックできます。



モードダイヤルのロックを解除する方法

ロックモードでは、1回押すとモードダイヤル (3) のロックが解除されます。



4.5 撮影モード

7つの異なる固定プログラムと、C3、C2、C1の3つのカスタムプログラムがあります。モードダイヤル (1) を回してモードを選択できます。右の図では、カメラはマニュアル露出モード (M) に設定されています。

モード

M $\square$	マニュアルクイックモード
M	マニュアルモード
A	絞り優先モード
S	シャッター優先モード
P	プログラムオート
$\square$	フルオートモード (ISOおよびWBも自動的に設定されます)。
動画	動画モード
C3	カスタムプログラム3
C2	カスタムプログラム2
C1	カスタムプログラム1



マニュアルモードでは、絞りはフロントホイールで設定し、シャッタースピードはリアホイールで設定します。

オートモードでは、絞りとシャッタースピードの設定は、設定によりカメラが一部、または完全に制御します。4つのオートモードがあります：A、S、Pおよびフルオートモード ($\square$)。

モード	フロントホイール	リアホイール
M	絞り	シャッタースピード
A	絞り	クイックアジャスト
S	シャッタースピード	クイックアジャスト
P	プログラムシフト	クイックアジャスト
$\square$	無効	無効
動画	絞り	シャッタースピード
C1	モードにより異なります	
C2	モードにより異なります	
C3	モードにより異なります	

マニュアルモード

マニュアルモードでは、ユーザーがシャッタースピードと絞りの設定を完全に制御します。このモードでは、絞りの設定とシャッタースピードは、フロントホイールやリヤホイールを回して手動で選択します。

適正露出は、ビューファインダー内、メーター表示の上のポインターが中央に位置する時に得られます。

適正露出からのズレは、

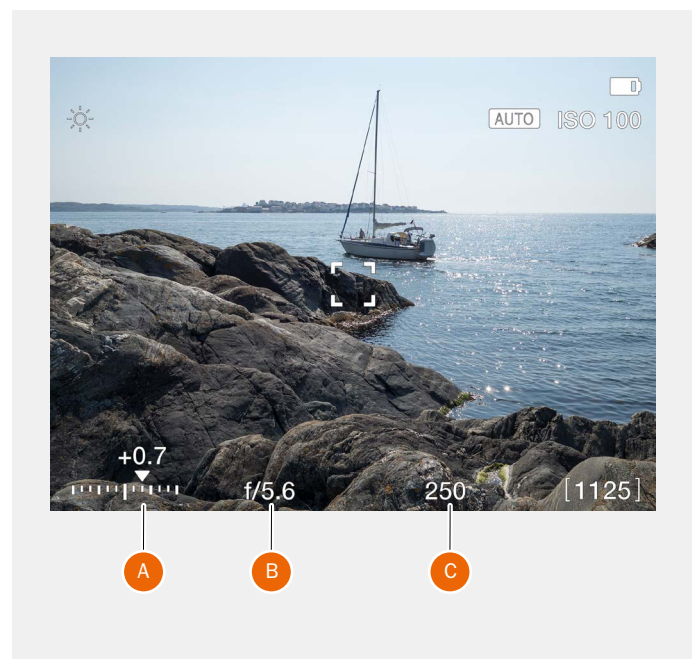
- ポインターが中央以外の場所にあることで表示されます。
- メーター目盛の上の数値として、EV値での+-量を表されます。

ディスプレイ **(A)** の目盛の上に「+0.7」が表示されれば、「0.7 EV 露出オーバー」です。逆に「-2」が表示されれば、「2EV露出アンダー」であることを示します。マニュアルモードで、ディスプレイやビューファインダーの+-マークが表示されるのは、露出補正設定が変更されたことを意味します。露出補正については、後の項を参照してください。

実際の絞り値 **(B)** とシャッタースピード **(C)** は、露出目盛の右に従来の方法で表示されます。

注!

設定に応じて、1段、1/2段、1/3段刻みの値も表示されます（105ページの段階設定を参照）。たとえば、f/8とf/11の間の設定は、1/2段が選択されている場合、f/9.5と表示されます。



マニュアルクイックモード

M_Qモードは、カメラが可能な限り速く静かに動作するマニュアルモードです。このモードでは、シャッターは常に閉じられ、ライブビューは無効になります。このモードは、三脚に固定しX1D IIカメラを使用する場合に最適に機能します。

- 1 最初に、たとえばマニュアルモード (M) などの別の露出モードでフォーカスと構図を決定します。M_Q モードはライブビューに対応していません。
- 2 固定され安定した三脚でX1D IIカメラを使用します。
- 3 モードダイヤルでM_Q モードを選択します。

M_Qモードの特長

- M_Qモードは、ライブビューがオフのため電力を節約します。
- M_Qモードは シャッターが既に閉じられており、露出の準備ができているため、より高速です。
- M_Qモードは、カメラが使用するシャッターの動きが少ないため、より静かです。



露出モード M_q

オート露出モード

モードダイヤル (1) を回して撮影モードを選択します。

オート露出には、シャッター優先または絞り優先の設定を半自動で制御する2つのモードと、完全自動で制御する2つのモードがあります。

絞り優先 A

フロントホイールを回して絞りを手動で選択します。シャッタースピードはカメラによって自動的に選択されます。

シャッター優先 S

フロントホイールを回してシャッタースピードを手動で選択します。絞りはカメラによって自動的に選択されます。

プログラム P

このモードでは、さまざまな要件や場面に合わせて事前に設定される適切な範囲内でのみ、測定されたEV値（測光方式は選択可能）に応じ、カメラによって絞り/シャッターの組み合わせが選択されます。カメラが選択した絞り/シャッタースピードの組み合わせは、フロントホイールを回すことで切り替えられます。

フルオート □

このモードでは、絞り/シャッターの組み合わせはカメラによって設定されます。カメラは常にAFモードであり、変更はできません。ホワイトバランスはオートに設定され、測光方式は中央重点で、ドライブモードはシングルモードに設定されます。

注!

オートモードでは、フロントホイールは、EV値を保ちながら、絞り/シャッタースピードの組み合わせを選んで設定します。リアホイールは、露出補正值を変更します（クイックアジャスト）。補正值は、ライブビューの目盛 (2) に表示されます。クイックアジャストが1回の露出ごとにリセットされるかは、設定から選択可能です。108ページを参照してください。

注!

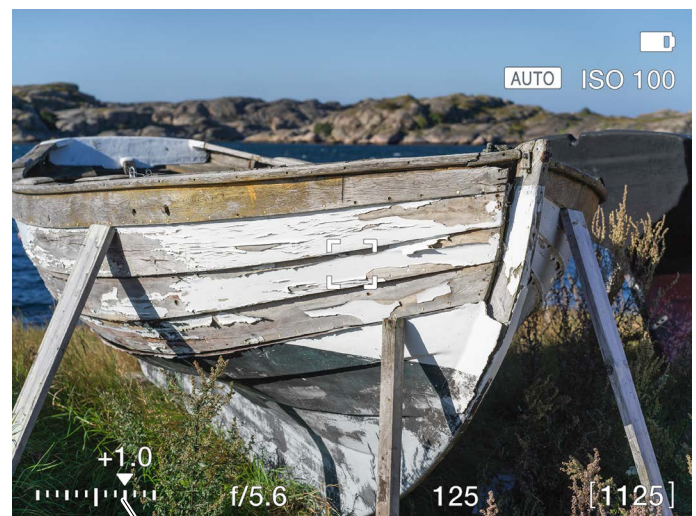
タッチディスプレイの赤い「ビジーライト」が点滅していても、絞り/シャッタースピードの設定はどちらも変更できます。

注!

カメラ設定では、クイックアジャスト機能で、次の露出のみを補正するか（初期設定）、露出補正を維持するか設定できます。



露出モード A



2

カスタムモード

C1、C2、C3の3つのカスタムモードを使用して、お気に入りの設定を保存し、いつでもすぐに呼び出すことができます。

カスタムモードの設定方法

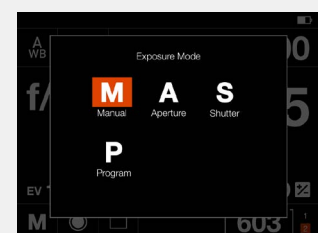
- 1 モードダイヤルでモードを選択します。
M、A、S、またはP。この場合、Mが選択されています **(A)**。
- 2 カメラ設定を変更します。
たとえば、ISO、AF / MF、WBを設定します。
- 3 タッチディスプレイの右側にあるメニューボタンを押して、メインメニューを表示します。128ページも参照してください。
- 4 一般設定を選択します。
- 5 カスタムモードを選択します。
- 6 C1に保存する、C2に保存する、またはC3に保存するを選択します。
- 7 保存を選択して保存して終了するか、終了を選択して保存せずに終了します。
- 8 選択していたすべての設定状態は、カスタムモードC1から簡単にアクセスできます。
- 9 モードダイヤルを回してC1 **(B)** を選択します。
- 10 この手順のステージ2で行った各設定すべてを設定した状態で、カメラを使用できます。

手順1～10を繰り返して、3つの異なるカスタムモード、C1、C2、C3を作成して使用します。

モードダイヤルがC1、C2、またはC3に設定されている場合、左下角の露出モードアイコンをタップして、コントロール画面から露出モードを変更できます。これにより **(C)** で示す画面が表示されるので、対応するアイコンをタップして新しい露出モードを選択します。



露出モード
M、Mq、A、S、
およびPモード



AE-Lボタン

ライブビュー中およびオートモード（A、S、Pおよび□）で、このボタン（1）を露出のロックに使用します。マニュアルモードでは、絞りとシャッタースピードの組み合わせがロックされ、ホイールを回すことで露出を変えずに絞りとシャッタースピードの組み合わせをシフトすることができます。

再生モードでは、画像をズームアウトするために使用します（AF-Dはズームインします）。

メニューモードでは、メニューの1レベルに移動するために使用されます（AF-Dは1レベル下に切り替えます）。

マニュアルモードとオートモードでEV設定をロックする

このボタンを押すと、測光機能がその時点のEV設定にロックされます。タッチディスプレイと電子ビューファインダー内の絞り表示の左側にAE-Lアイコンが表示され、ロック中であることを確認できます。もう一度AE-Lボタンを押すと、ロックが解除されます。

ロック中は、絞りとシャッタースピードが連動するようになります。このように、同じEV（露出）を維持しながら、新しい絞り/シャッタースピードの組み合わせを素早く選択できます。たとえば、シャッタースピードが1/125秒で絞りがf/8に設定されていて、ロックされている場合、フロントホイールを動かすことで、たとえば1/30秒・f/16や1/500秒・f/4など、EVが同等の新しい組み合わせを利用できます。

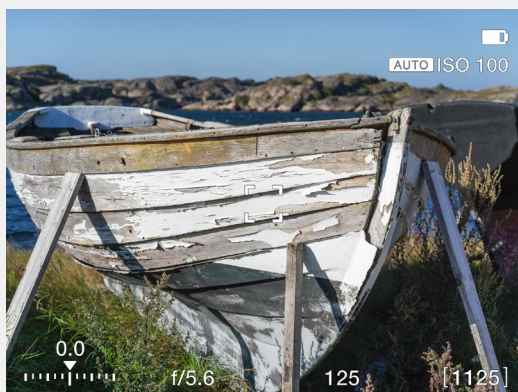
利用場面としては、たとえばオートモードでスポット測光に設定し、測光エリアに18%グレーと同等の反射率であると判断した被写体を置き、AE-Lボタンを用いてロックできることを意味します。この状態で、測光ゾーンがずっと明るいエリアもしくは暗いエリアに位置するよう写真の構図を変えた場合でも元の露出設定は維持され、また絞りとシャッタースピードの新しい組み合わせを選択できます。



4.6 X1D II インタラクションディスプレイ



電子ビューファインダー (EVF)



タッチディスプレイ

**電子ビューファインダー (EVF)**

カメラのEVFには、ISO、フォーカス設定、露出補正、絞り、シャッター、撮影残数が表示されます。MF/AFおよびISO/WBボタンを押して、設定を変更します。フロントホイールまたはリアホイールを使用して、希望の設定を選択します。同じボタンを再び押すと終了して保存できます。

タッチディスプレイ

X1D IIのディスプレイはタッチセンサー方式で、スマートフォンと同様の方法で操作できます。たとえば、スワイプ、選択、ピンチしてズームすることができます。また、カメラのタッチディスプレイの右にある5つのボタンやホイールを使って操作することもできます。

4.7 タッチディスプレイの操作

X1D IIカメラのタッチディスプレイは、タッチ方式の携帯電話またはタブレットと類似しています。移動やコントロールには以下のジェスチャーを使用できます。

アクション	機能
右にスワイプ	メニューを戻る/画像を右に移動します。
左にスワイプ	画像を左に移動します。再生モードのみ。
下にスワイプ	コントロール画面を表示します。
上にスワイプ	コントロール画面を非表示にします。
タップ/押す	動作/ボタン/設定を選択します。
ダブルタップ	100%に拡大。もう一度ダブルタップすると、フルビューにズームアウトします。



機能	アクション
選択	1本指でタップします。
コントロール画面を表示	画面の上から下にスワイプします。
コントロール画面を非表示	上にスワイプします。
戻る	右にスワイプします。
ズームイン	スプレッドします (2本の指を離す)。
ズームアウト	ピンチします (2本の指を近づける)。

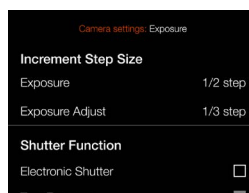
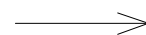
コントロール画面を表示

- 1 リアディスプレイの上部から下にスワイプするか、メニューボタンを押してコントロール画面を表示します。
- 2 コントロール画面にそのときのカメラの状態が表示されます。
- 3 ほとんどの設定は、コントロール画面のインターフェイスの値または設定をタップして変更できます。
- 4 上にスワイプ、またはメニューボタンを押してコントロール画面を非表示にし、メインメニューを表示します。

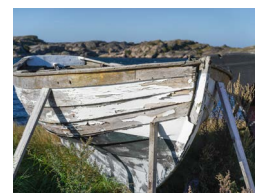
注!

コントロール画面はインタラクティブで、ほとんどの設定を変更できます。変更可能な設定は、アクティブになっている撮影モードによって異なります。詳細は、53 ページを参照してください。

右にスワイプ



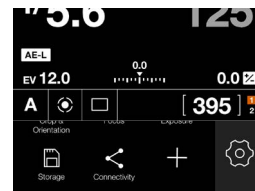
左にスワイプ



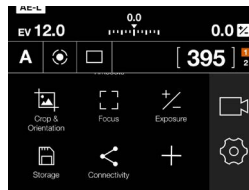
下にスワイプ



上にスワイプ

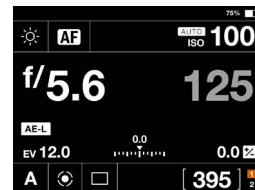


1 下にスワイプ



メインメニュー

2



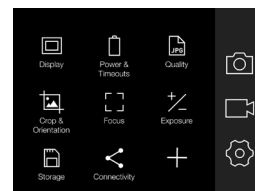
コントロール画面

3 設定調整



コントロール画面

4 上にスワイプ



メインメニュー

4.8 メニュー内の移動

タッチディスプレイメニュー項目の説明

X1D IIのディスプレイ画面はタッチ式です。1本の指でタップし、さまざまな方向を選択してスワイプでき、ユーザーインターフェースを介して前後、上下に移動できます。

ボタン	画面機能
1 再生ボタン	再生画面に移動
2 □ボタン	上
3 スターボタン	選択
4 ×ボタン	下
5 メニューボタン	メインメニューに戻る

1 再生ボタン

ディスプレイを始動して、前回の画像を表示します。ユーザーは、94ページの「4.21 ブラウズ、プレビュー、およびヒストグラム」で説明されているように画像を閲覧、ブラウズ、およびズームできます。

2 □ボタン

機能は画面によって異なります。このボタンは、ライブビューモードと再生モードのオーバーレイを変更します。このボタンで、メニュー上を移動する際に、セレクトアを上に移動します。コントロール画面がアクティブな場合、このボタンを使用し、ホイールで変更するパラメーターを選択します。

3 スターボタン

スターボタンで、再生モード時に9枚表示にズームアウトします。ライブビューでは、設定により、50または100%にズームインします。115ページを参照してください。

4 ×ボタン

機能は画面によって異なります。このボタンは再生モードでは「画像削除」ボタンとして機能します。このボタンは、メニュー画面でセレクトアを下に移動します。コントロール画面では、ホイールで変更するパラメーターを選択します。

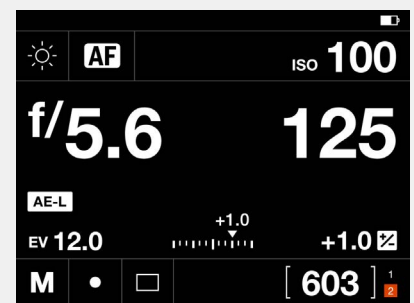
5 メニューボタン

このボタンは、メインメニューを開きます。メインメニューが既にアクティブの場合は、コントロール画面が表示されます。

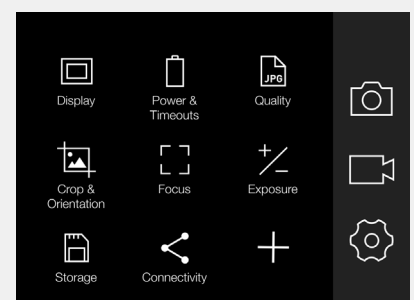
コントロールパネルのボタンやグリップのホイール使用すると、メニューのさまざまな階層を移動できます。次のページに、使用可能な設定オプションの概要を示します。



コントロール画面



メインメニュー



タッチディスプレイのメニューと設定の概要

設定は、タッチ画面でメニューやアイコンを押すことにより直接コントロールできます。前の章で説明したように、上下左右にスクロールできます。メニュー画面では、次のボタンやホイールを使用して移動することもできます。

- 1 たとえばメニューボタンなど、タッチディスプレイの横にあるコントロールボタン。
- 2 フロントホイール。
- 3 AE-Lボタン。
- 4 AF-Dボタン。
- 5 リアホイール。

ボタンを使用したナビゲーションについては、96 ページ (ボタンを使用する方法) で説明しています。



4.9 タッチディスプレイメインメニュー

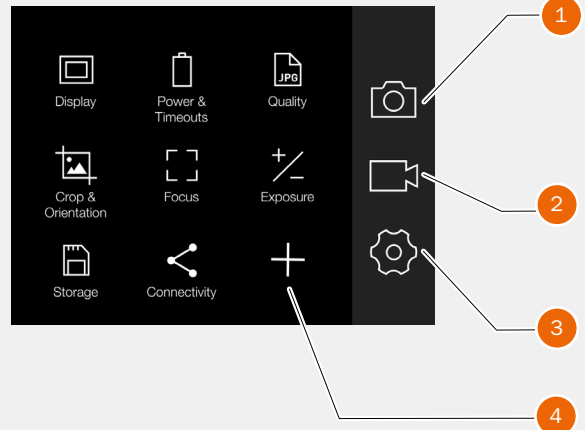
メインメニュー

メインメニューには3つの異なるメイン設定があります。カメラ設定 **(1)**、動画設定 **(2)** および一般設定 **(3)**。これら3つの設定の配置は固定されており、変更できません。

メインメニューの左側のアイコンは、お気に入りの項目へのショートカットです。この例では、次のとおりです。

ディスプレイ
電力
クオリティ
クロップと回転
フォーカス
メディア露出
ストレージ
接続

メインメニュー



- 1 カメラ設定
- 2 動画設定
- 3 一般設定
- 4 + (プラス) マーク (設定の追加)

メインメニューのお気に入りショートカットを追加する

ワークフローをスピードアップするため、お気に入り設定で、より頻繁に使用する設定を追加できます。これらの機能は、削除して他のお気に入り設定に置き換えるまで、常にメインメニューに表示されます。ショートカットを追加、削除、または移動するには、次のページの説明を参照してください。

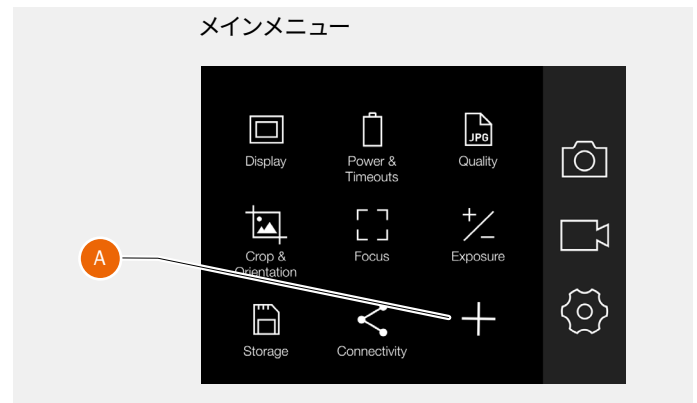
追加できるショートカットは次のとおりです。

メディア露出	タッチ
クロップと回転	カスタムモード
クオリティ	ストレージ
フォーカス	サウンド
フラッシュ	日付と時間
ライブビュー	電力
プレビュー	水準器
カスタムボタン	言語
機器構成	サービス
接続	詳細
ディスプレイ	

次のページで、お気に入りリストにショートカットを追加および削除する方法の詳細を参照してください。

メインメニューにショートカットを追加する方法

- 1 メインメニューで+アイコン (A) を選択します。
- 2 お気に入りを追加のポップアップ画面には、追加可能なオプションがスクロールリストに表示されます。
- 3 たとえば、カスタムボタン (B) を選択します。
- 4 カスタムボタンアイコンがメインメニューに表示され、保存されます。



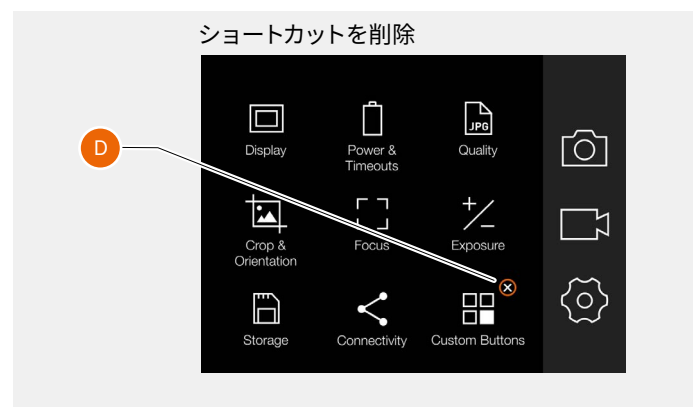
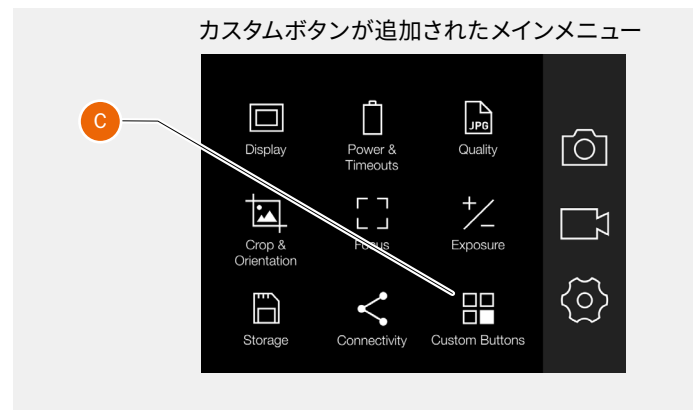
メインメニューのショートカットを削除する方法

- 1 メインメニューのお気に入りから削除するアイコンを長押しします。この例ではカスタムボタン (C) です。
- 2 削除するための×記号が、選択したショートカット (D) の右上角に表示されます。
- 3 オレンジの丸の×を押してアイコンを削除し、メインメニューのお気に入りから機能を削除します。
- 4 カスタムボタンアイコンは、メインメニューのお気に入りリストに表示されなくなります。後でいつでも同じ機能を追加できます。



メインメニューでショートカットを移動する方法

- 1 削除の×記号が表示されるまで (D)、移動したいアイコンを押し続けます。
- 2 アイコンを長押しして、新しい場所にドラッグします。アイコンは自動的に再配置されます。



4.10 コントロール画面

コントロール画面を使用して、頻繁に使う設定にアクセスできます。任意の機能をタップして直接調整することで、これらの設定を簡単に変更できます。

コントロール画面を表示

どの画面からでも、タッチディスプレイの上部から下にスワイプするか、メニューボタンを1回または2回押して、コントロール画面を表示できます。

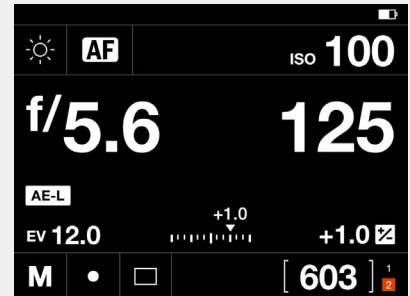
コントロール画面を閉じる

タッチディスプレイの下部から上にスワイプするかメニューボタンを押すと、メインメニューが表示されます。

注!

コントロール画面が表示されているときは、測光は行われません。センサーは、バッテリー電力を節約するために非アクティブになります。

コントロール画面



コントロール画面でロックされる露出パラメーター

Aモード

絞り優先 (A) では、絞り値をタッチで変更することができますが、シャッタースピードは自動であり、グレー表示されます。

Sモード

シャッター優先 (S) では、シャッタースピードを変更することができますが、絞り値は自動であり、グレー表示されます。

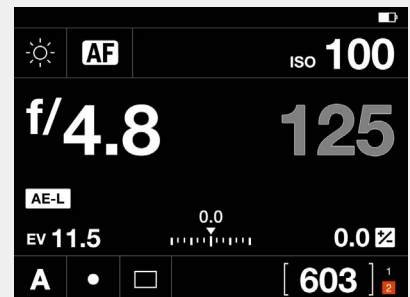
Pモード

Pモードを選択すると、絞り (5) とシャッタースピード (100) は自動であり、グレー表示されて、これらの設定がタッチして変更できないことを示します。フロントホイールを使用して絞りとシャッタースピードの組み合わせを切り替え、リアホイールを使用して露出補正をすることができます。

コントロール画面

Aモード

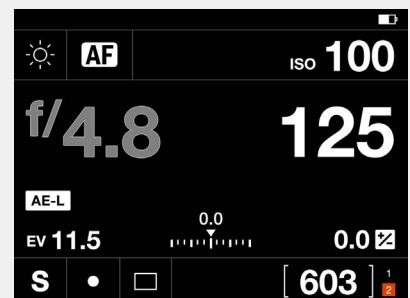
シャッタースピードは自動です。



コントロール画面

Sモード

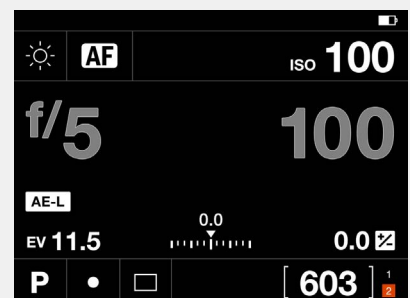
絞り値は自動です。



コントロール画面

Pモード

絞りとシャッタースピードは自動です。



コントロール画面での設定

ホワイトバランス

- ーオートホワイトバランス (AWB)
- ー曇天
- ー日陰
- ー昼光
- ータングステン
- ー蛍光灯
- ーフラッシュ
- ーマニュアルホワイトバランス (MWB)
- ーピッカー (画像からホワイトバランスを選択)。

ホワイトバランスのプリセットの変更

コントロール画面、上部左隅にあるホワイトバランスアイコンをタップします。これにより、ホワイトバランス設定画面 (1) が表示されます。

ホワイトバランスアイコンの1つをタップして選択します (A)。画面の右フレーム (B) に、選択したホワイトバランスに関連する色温度ティント (色相) の値が表示されます。ホワイトバランスアイコンを再度タップして選択し、コントロール画面に戻ります。

マニュアルホワイトバランス値の設定

ホワイトバランス設定画面 (1) で、右フレーム (B) 内でタップして色温度またはティント (色相) の値を変更します。

値 (C) をタップして変更し、リスト (D) から新しい値を選択します。

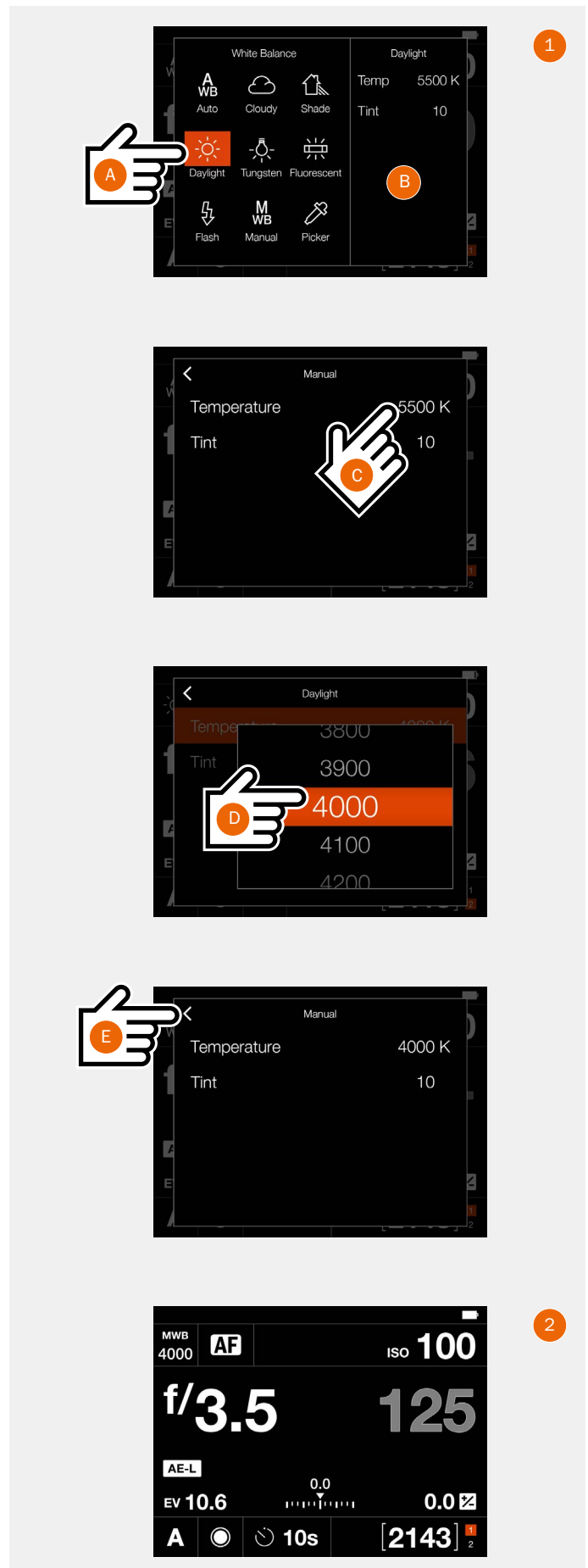
左矢印 (E) をタップし、ホワイトバランス設定画面 (1) に戻ります。最後に、マニュアルホワイトバランスアイコンを再度タップして選択し、コントロール画面 (2) に戻ります。これで、ホワイトバランスはマニュアルモードに設定されました。

注!

被写体が異なる色温度で照らされた状況でフラッシュを操作する場合は、カメラをオートホワイトバランスに設定することをお勧めします。

次ページに続きます。

	色温度 [°K]	ティント (色相)
曇天	6500	10
日陰	7500	10
昼光	5500	10
タングステン	2850	0
蛍光灯	3800	21
フラッシュ	5500	0
マニュアル	可変 2000~10000	可変 -100~100



コントロール画面での設定

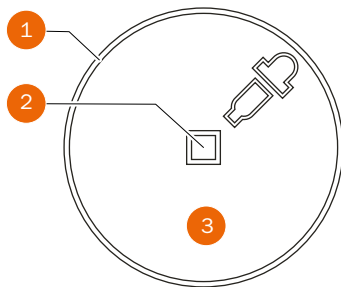
画像からのホワイトバランスの設定 (ピッカー)

コントロール画面でホワイトバランスアイコンをタップして、設定画面を表示します。ピッカーアイコン (A) をタップします。

最後に撮影した画像がホワイトバランスピッカーツールとともに表示されます (B)。

画像の中央部がニュートラルでない場合、円 (1) の内側の任意の場所にタッチしてスライドし、測定エリア (2) がニュートラルエリア (C) に重なるようにします。ステータスバーに温度とティントの実際の値が表示されます。これらの値を受け入れるには、長方形ボタン (4) を押します。値を保存せずに終了するには、×ボタン (5) を押します。

これで、コントロール画面 (D) に温度の新しい値が表示され、これがティントとともに次の画像に使用されるようになります。



- 1 タッチでツールを移動させるアクティブなエリア。
- 2 温度とティントを計算するためのアクティブなエリア。

注!

フロントスクロールホイールを回すか、ピッカーツールエリア外の画像をスワイプすることにより、別の画像に変更できます。

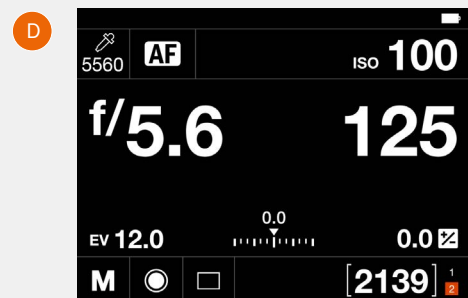
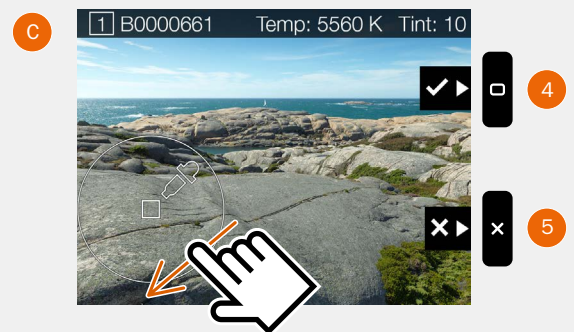
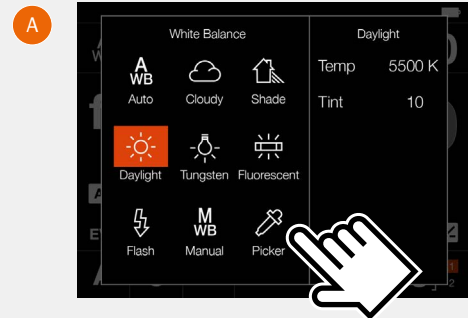
注!

円の内側をタイプすることにより、位置を微調整できます。たとえば、ポイント (3) をタップすると、ピッカーは小幅な刻みで下に移動します。

注!

ピッカーツールの使用を簡素化するには、メインメニュー画面にショートカットとして追加するか、カスタムボタンの1つをプログラムします (ページ 127を参照してください)。

この章は、次ページに続きます。



コントロール画面での設定

フォーカシング

- AF オートフォーカス
- MF マニュアルフォーカス

ISO

- ISO値を選択します。

絞り

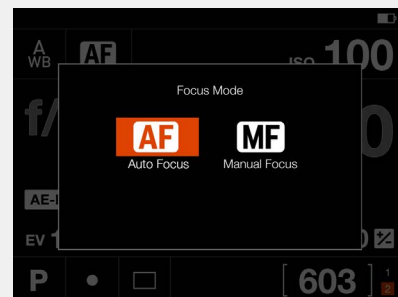
- 絞り値を選択します。

シャッタースピード

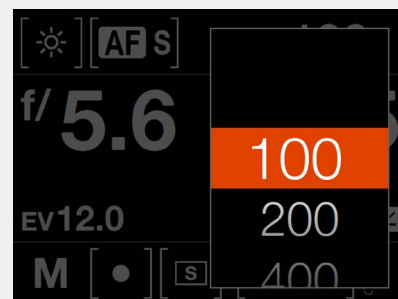
- シャッタースピードを選択します。

この章は、次ページに続きます。

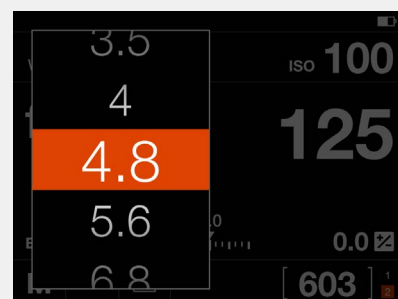
フォーカシング



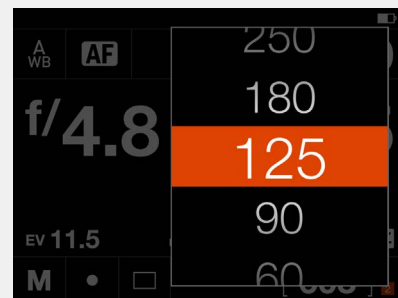
ISO



絞り



シャッター



コントロール画面での設定

露出補正

- 右または左にスライドさせてフラッシュの調光を調整します。
- 右または左にスライドさせて露出を補正します。

ドットの左または右側の線上をタップすると、値が**メインメニュー→カメラ設定→メディア露出→段階設定→露出補正**で設定された値の間隔で増減します。

線の左側にあるアイコンをダブルタップすると、値がゼロにリセットされます。

露出モード

M	マニュアルモード
A	絞り優先モード
S	シャッター優先モード
P	プログラムモード

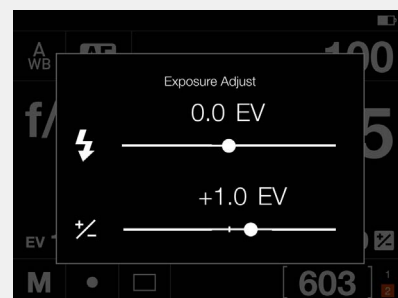
注!

モードダイヤルがC1、C2、またはC3に設定されている場合、露出モードはコントロール画面のみから設定できます。

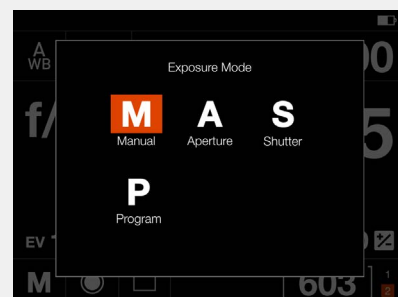
測光モード

- 中央重点
- スポット
- 中央スポット

露出補正



露出モード



測光モード



この章は、次ページに続きます。

コントロール画面での設定

ドライブモード

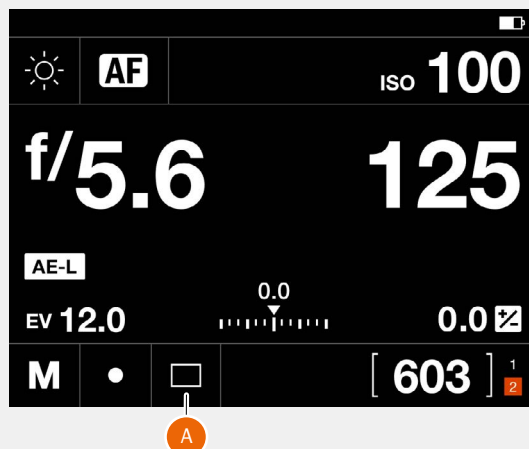
コントロール画面のドライブモードアイコン (A) をタップすると、次のモードを選択できます。

- **シングル**
シャッターボタンを押している時間に関係なく、カメラは1回だけ撮影を行います。
- **連写**
シャッターボタンを押している間ずっと、カメラは撮影を繰り返します。

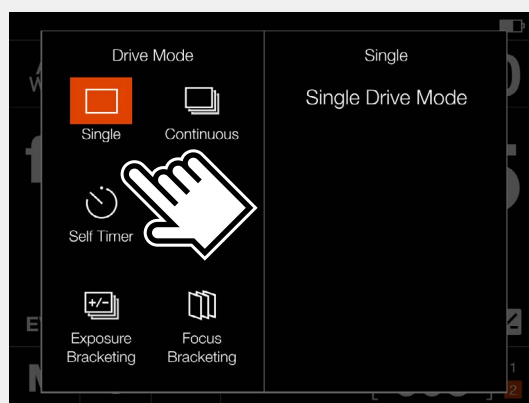
目的の機能をもう一度タップし、ダイアログを閉じてアクティブにします。

次ページに続きます。

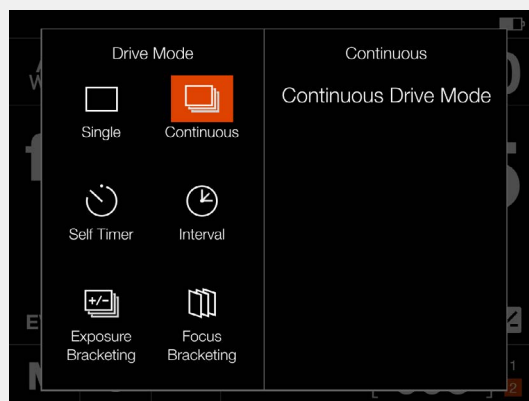
コントロール画面



シングルドライブモード



連写ドライブモード



● セルフタイマー

シャッターボタンを押した後、カメラは事前に設定された時間待機してから露光を行います。

時間: シャッターを切ってから露光までの遅延時間。

LEDの点滅: フロントLEDを使用してセルフタイマーの動作を表示するかを制御します。

終了時: 露光が完了した後に機能をアクティブし続けるかどうかを決定します。**終了**に設定されている場合、露光後にセルフタイマーが無効になります。

● インターバル

カメラは、あらかじめ設定されたインターバルで事前に設定した回数の撮影を行います。

時間: 撮影の間隔。

フレーム: 撮影の回数。

初期遅延: シャッターを切ってから最初の露光までの遅延時間。

● 露出ブラケット

カメラは、各フレーム間に事前に設定した幅で露出補正を行いながら、事前に設定した回数の撮影を自動的に行います。

使用量: 各カット間の露出差。

フレーム: シーケンスの露光回数。

初期遅延: シャッターを切ってから最初の露光までの遅延。

M時のパラメータ: 露出ブラケットをマニュアルモードで使用する場合に、絞りまたはシャッタースピードのどちらを変更するか選択。

終了時: サイクルが完了した後に機能をアクティブにし続けるかどうかを決定します。

● フォーカスブラケット

マクロ撮影や商品撮影など、深い被写界深度が重要な場面において、被写体の異なる位置にフォーカスを合わせながら、一連の撮影を行い、好みの画像処理ソフトウェアで合成する素材として使用できます。

● ステップサイズ:

各撮影間のフォーカス位置の移動量。

● フレーム:

シーケンス内の露出の数。

● 初期遅延:

シャッターを押してから最初の露出までのディレイの設定。

● 露出遅延:

露出間のディレイ設定。

● シーケンス:

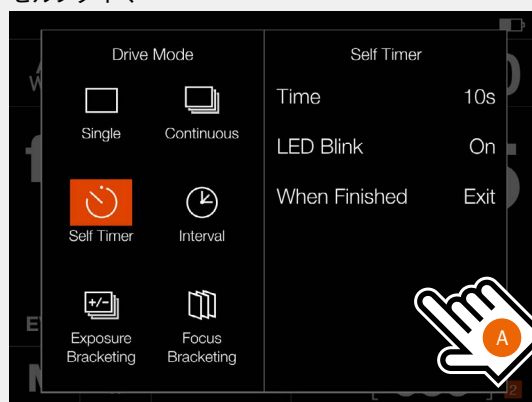
撮影が行われる順序。

● 終了時:

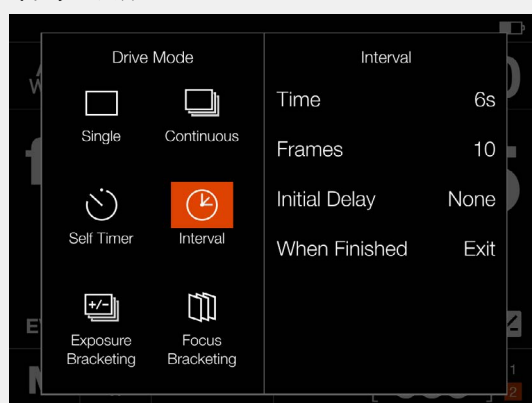
完了したサイクル後に機能をアクティブにするかどうかを決定します。

詳細は、ページ65を参照してください。

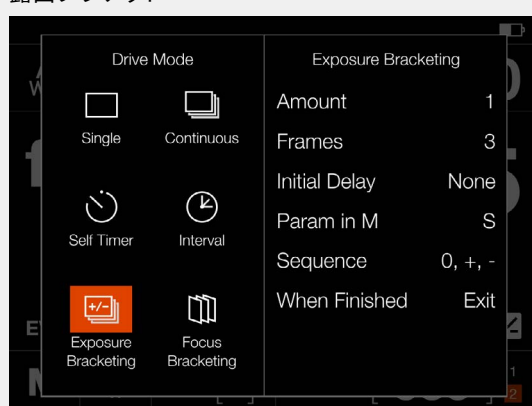
セルフタイマー



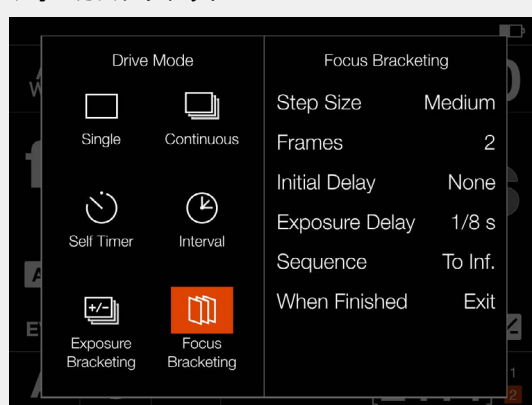
インターバル



露出ブラケット



フォーカスブラケット



セルフタイマー、インターバル、露出ブラケット、およびフォーカスブラケットの場合、パネルの左側に現在の設定が表示されます。変更が必要ない場合、機能アイコンをもう一度タップしてアクティブにしてください。

いずれかのパラメーターを変更するには、画面 (A) の右側をタップします。これにより、この機能専用の設定が表示されます。

次ページに続きます。

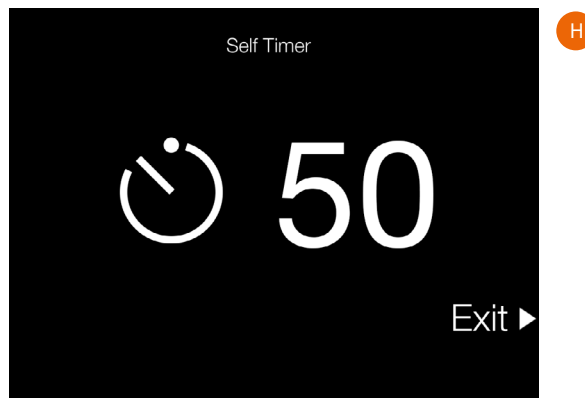
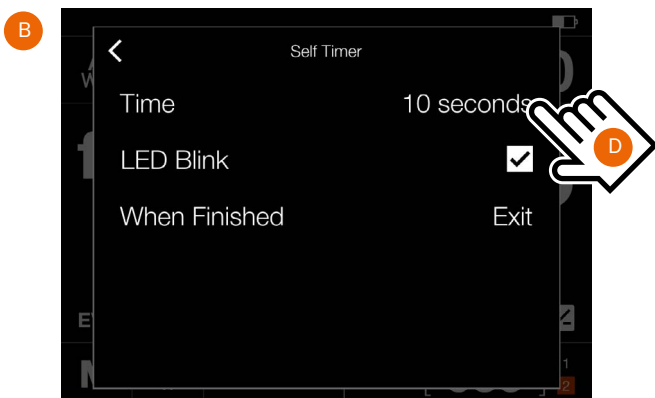
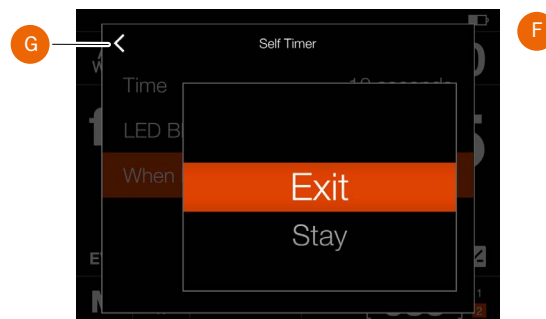
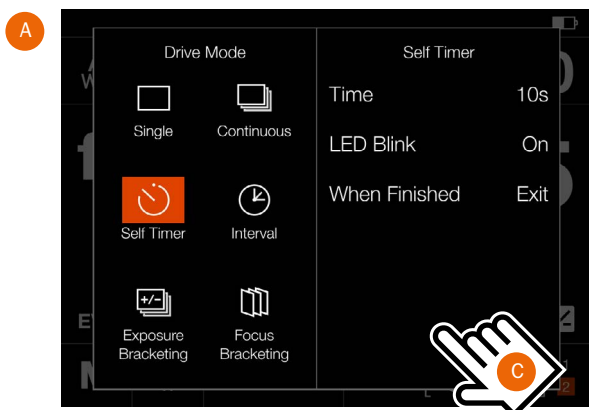
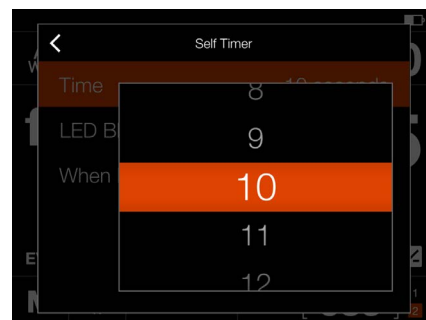
セルフタイマー設定

コントロール画面でドライブモードアイコンをタップして、設定画面 (A) を表示します。設定を変更するには、右パネル (C) をタップして設定メニュー (B) を表示します。

設定のいずれかを変更するには、値をタップして (E) または (F) のいずれかの画面を表示します。

設定を行ったら、左矢印 (G) をタップし、ドライブモード設定画面に戻ります。

シャッターを完全に押すと、リアスクリーンまたはEVFにカウントダウン (H) が表示されます。事前設定した時間が経過すると、露光が行われます。

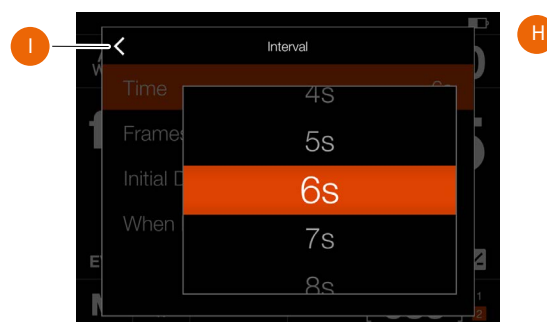
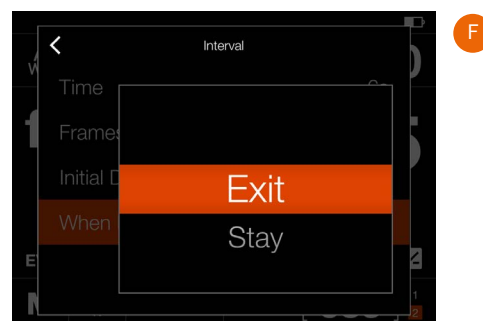
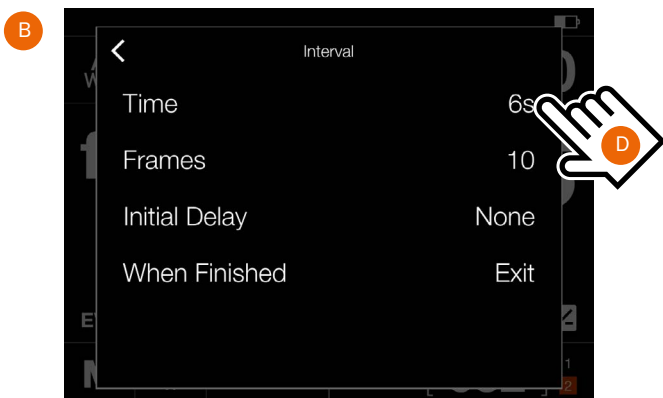
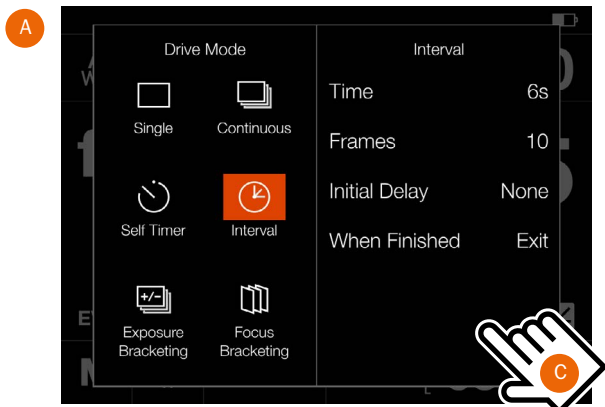


インターバル設定

コントロール画面でドライブモードアイコンをタップして、設定画面 (A) を表示します。設定を変更するには、右パネル (C) をタップして設定メニュー (B) を表示します。

設定のいずれかを変更するには、値をタップして (E) から (H) のいずれかの画面を表示します。

設定を行ったら、左矢印 (I) をタップし ドライブモード設定画面に戻ります。



次ページに続きます。

インターバル操作

設定中のインターバルタイマーは、コントロール画面とライブビューの両方に表示されます。

コントロール画面にアイコン **(A)** および設定した間隔 **(B)** が表示されます。すべての設定を表示するには、インターバルアイコンをタップして、前のページの説明どおり設定画面を表示します。

ライブビューとプレビュー画面には、同じ情報に加え撮影残数 **(C)** および **(D)** が表示されます。

シーケンスを開始するには、シャッターを押します。カメラの揺れを防ぐために初期遅延を設定している場合、カメラには黒い画面にカウントダウンタイマー表示され、事前設定した秒数を待機してから、インターバルシーケンスを開始します。

撮影後、画像がインターバル情報とともにリアスクリーンに表示されます。

すべての撮影を行う前にシーケンスを終了するには、**終了** (☆ボタン) を押します。

注!

インターバルシーケンス中、ライブビューはオフになります。

注!

プレビューは「一般設定→プレビュー→リアスクリーン」設定でオフにできます。

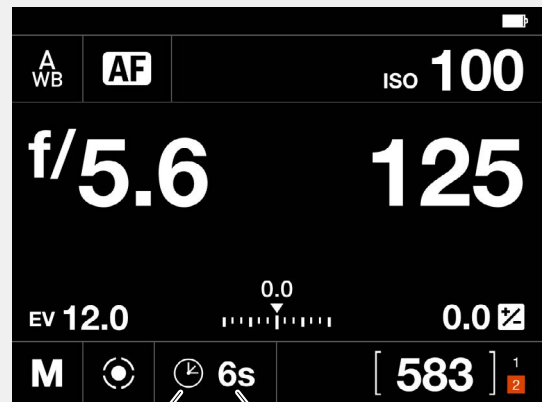
注!

インターバル撮影は、Phocus Mobile IIや、Phocusにテザー接続している場合には対応していません。テザー接続の場合は、Phocusのキャプチャーシークエンサー機能を使用します。

注!

インターバルシーケンスの実行中は、メニューボタンを押してコントロール画面を表示し、現在のカメラの設定状態を確認できます。

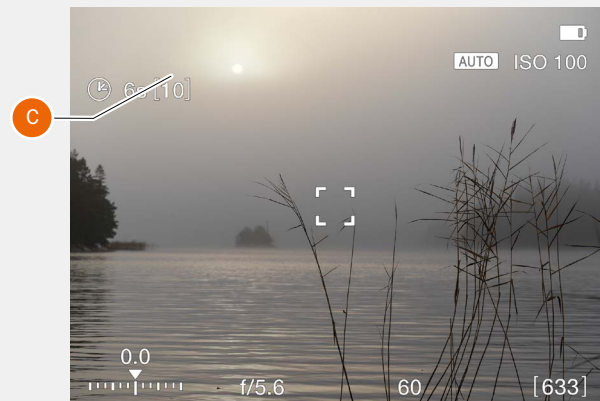
コントロール画面



A

B

ライブビュー



C

実行中のプレビュー画面



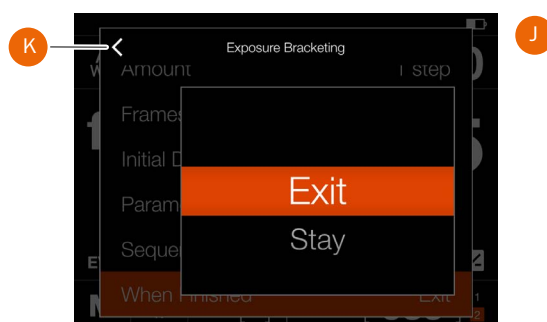
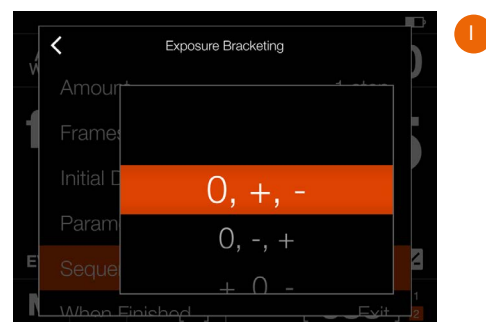
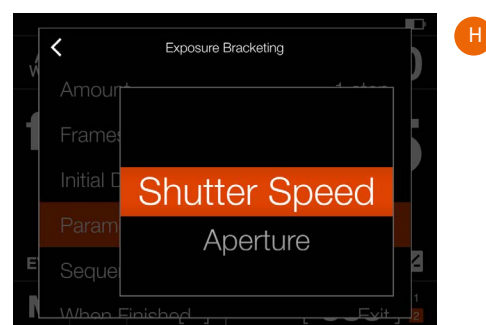
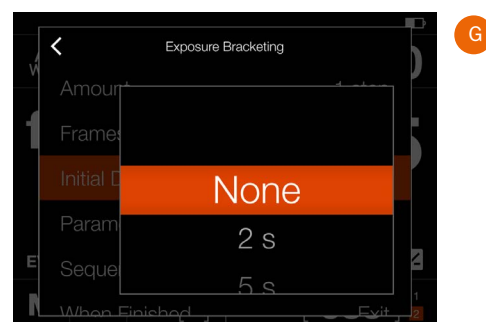
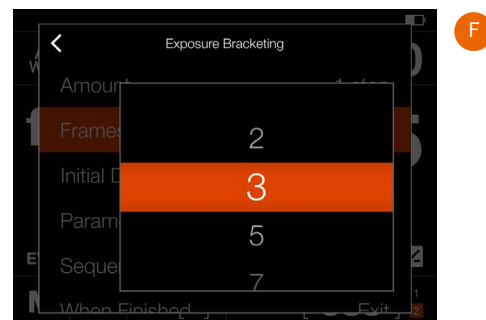
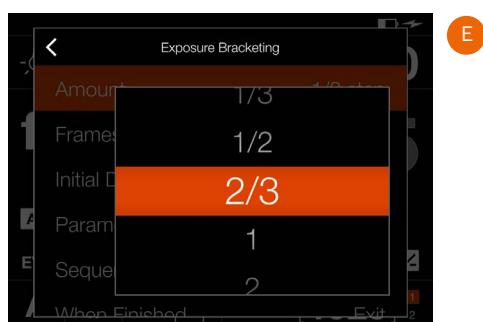
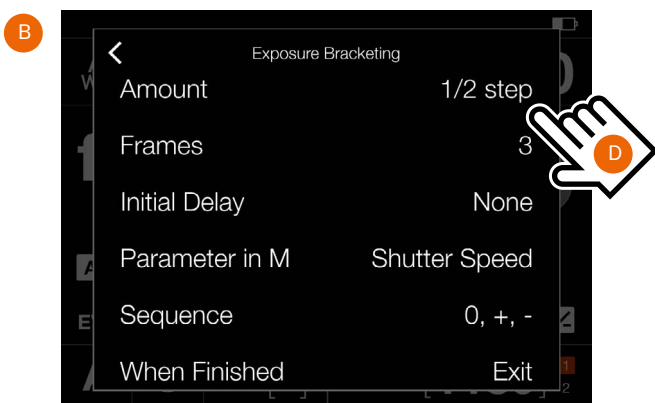
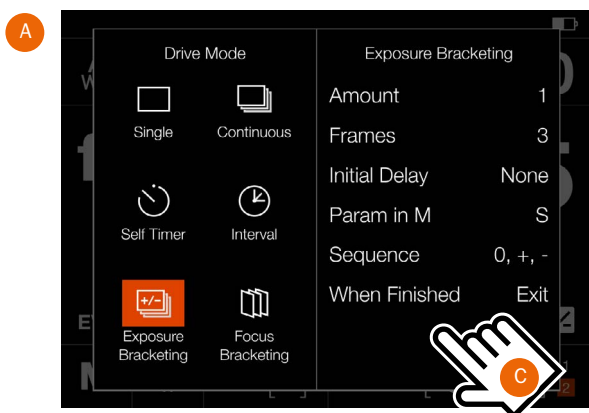
D

露出ブラケット設定

コントロール画面でドライブモードアイコンをタップして、設定画面 **(A)** を表示します。設定を変更するには、右パネル **(C)** をタップして設定メニュー **(B)** を表示します。

設定のいずれかを変更するには、値をタップして **(E)** から **(J)** のいずれかの画面を表示します。

設定を行ったら、左矢印 **(K)** をタップしてドライブモード設定画面に戻ります。



露出ブラケット操作

設定中の露出ブラケットは、コントロール画面とライブビューの両方に表示されます。

コントロール画面とライブビューには、アイコンとシーケンスの撮影数が表示されます。すべての設定を表示するには、インターバルアイコンをタップして、前のページの説明どおり設定画面を表示します。

右の例では、露出ブラケットシーケンスは3カットの撮影を行います。

シーケンスを開始するには、シャッターを押します。カメラの揺れを防ぐために初期遅延を設定している場合、カメラには黒い画面にカウントダウンタイマー表示され、事前設定した秒数を待機してから、ブラケットシーケンスを開始します。

露出ブラケットシーケンス中、**(A)** で示すように、リアスクリーンとEVFに情報が表示されます。

シーケンスが完了する前に終了するには、×ボタンを押します。

撮影後、最後の画像がリアスクリーンに表示されます

長時間露光画面

シャッタースピードが1秒以上の場合、長時間露光画面 **(B)** が露出中に表示されます。約5秒後にディスプレイがオフになり、カメラは省電力モードに切り替わります。カメラに触れることなくEVFの前に手を動かすと、画面を再度アクティブにして露出の状況をモニターできます。

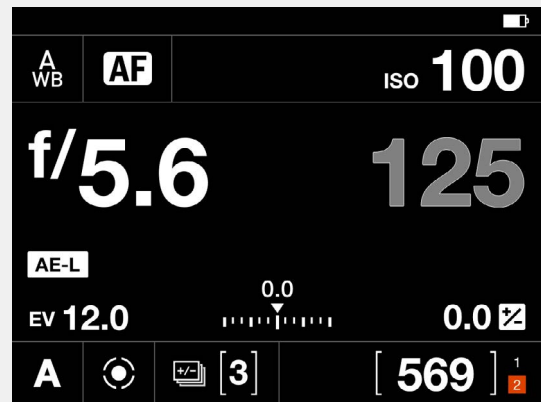
注!

露出ブラケットは、Phocus Mobile 2や、Phocusにテザー接続している場合には対応していません。テザー接続の場合は、Phocusのキャプチャーシークエンサー機能を使用します。

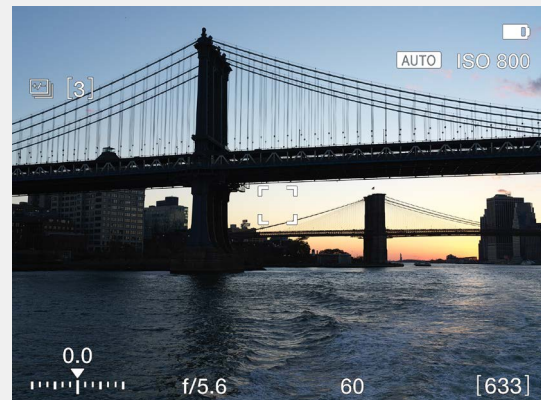
注!

測光、フォーカシング、およびオートホワイトバランスの取得は、最初の露出の前に実行され、シーケンスのすべての画像に適用されます。

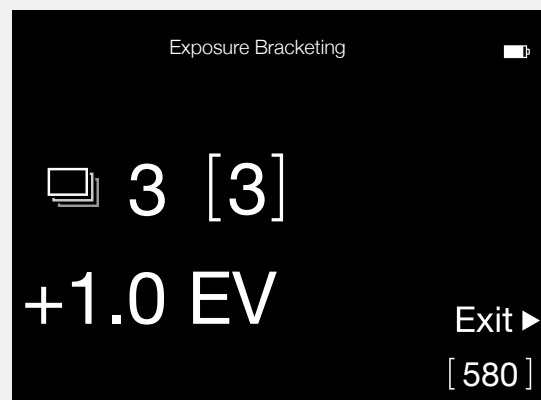
コントロール画面



ライブビュー



ブラケット操作中の画面



シャッタースピードが1秒以上のときの画面



フォーカスブラケット

マクロ撮影や商品撮影など、深い被写界深度が重要になる場面において、被写体の異なる位置にフォーカスを合わせながら、一連の撮影を行い、好みの画像処理ソフトウェアで合成する素材として使用できます。また、フォーカスブラケットを使用してロットからベストの画像を選択することもできます。

フォーカスブラケットモードでは、カメラは、事前に設定された枚数の画像を自動的に撮影し、各撮影間のフォーカスシフトを計算します。画像は別のファイルとしてカードに保存されるため、これらをマニュアルで編集したり、サードパーティ製のソフトウェア (Helicon Focus™ など) を使ってこれらをまとめて最終的なスタッキング画像に合成したりできます。

どの設定を使用すべきかに関する詳細なガイドラインを提供することは難しいですが、お客様独自の試みのスタート地点としてこの項の例を参考にしてください。

カメラには、画像撮影に3つの異なるモードが用意されています。

1 無限遠設定

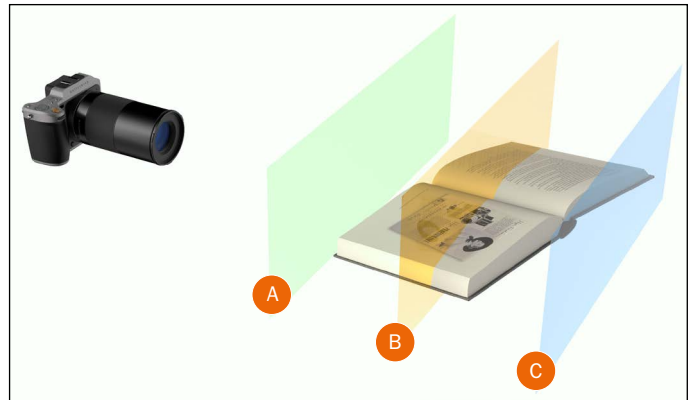
フォーカスをマニュアルで設定するかAFを使用して設定します。AFを使用する場合、シーケンスを開始する前に無効にすることを忘れないでください。このモードでは、主要被写体ではなくカメラに近いポイント (A) にフォーカスを設定する必要があります。シーケンスが開始されると、シーケンスが終了するかレンズが無限遠位置に到達するまでフォーカスが無限遠に向かってシフトします。

2 対称的

このモードでは、主要被写体 (B) にフォーカスを設定する必要があります。シーケンスが開始されると、カメラは最初に画像を撮影してから、フォーカスポイントを最短撮影距離近くまで移動し、フォーカスを無限遠に向けてシフトしながらシーケンス内のすべての画像を撮影します。最初の画像は、フォーカスが最適な状態の主要被写体の画像を確実に1つ確保するための予備の露出です。

3 近距離設定

主要被写体の背後にあるポイント (C) にフォーカスを設定します。シーケンス中、カメラは、フォーカスをカメラに近い方向に徐々にシフトします。このシーケンスは、事前に設定された画像の枚数が撮影されるか、レンズが最短撮影距離近くまで到達した後、停止します。



シングル画像、XCD 120 f/6.8

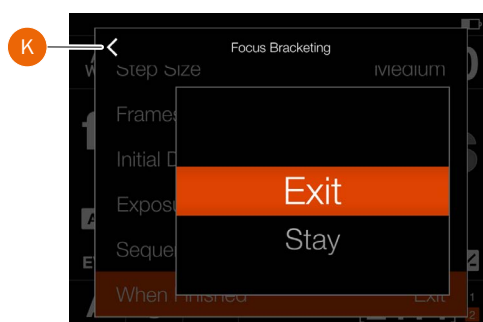
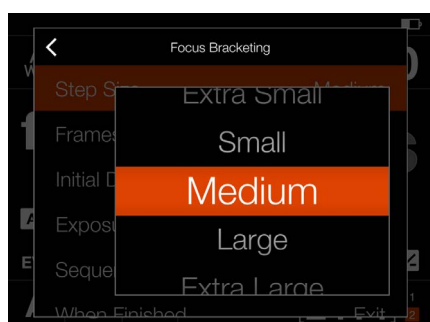
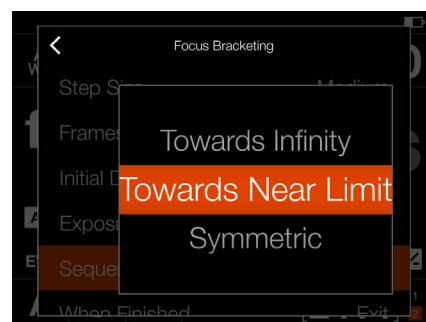
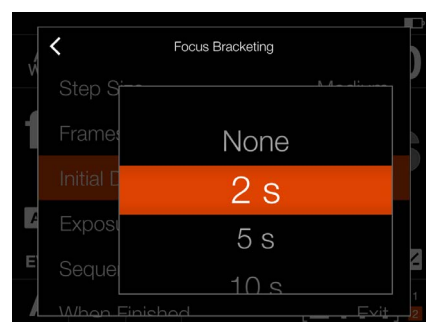
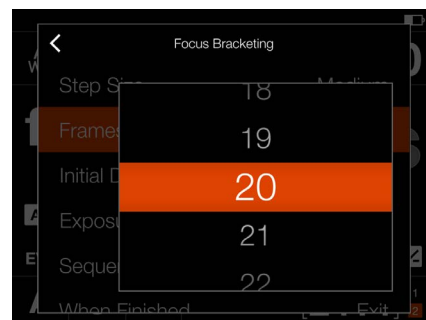
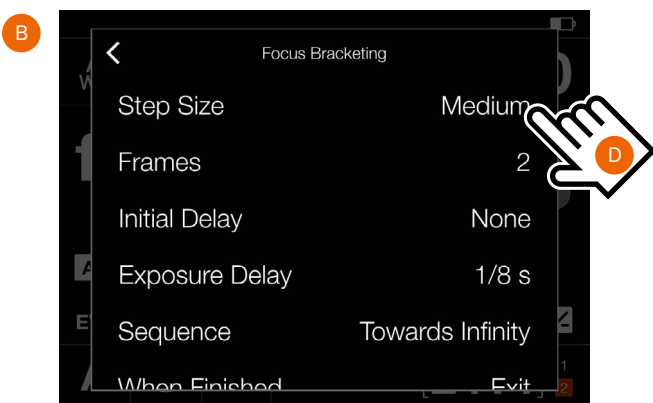
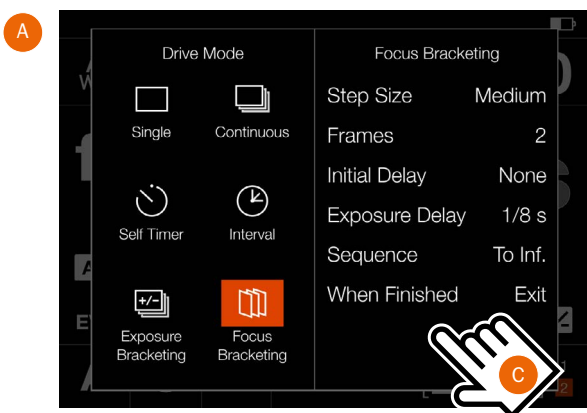


40枚の画像からスタッキング。XCD 120、f/6.8、ステップ = 中



フォーカスブラケット設定

コントロール画面でドライブモードアイコンをタップして、設定画面 **(A)** を表示します。フォーカスブラケットアイコンをタップします。設定を変更するには、右パネル **(C)** をタップして設定メニュー **(B)** を表示します。
設定のいずれかを変更するには、値をタップして **(E)** から **(J)** のいずれかの画面を表示します。
設定を行ったら、左矢印 **(K)** をタップしてドライブモード設定画面に戻ります。



フォーカスブラケット操作

アクティブおよび保留中のフォーカスブラケットは、コントロール画面とライブビュー (A) の両方に表示されます。

右側の例では、フォーカスブラケットシーケンスによって40枚の画像が撮影されます。

シーケンスを開始するには、そのままシャッターを押すと、すべての撮影が自動的に行われます。必要に応じて、最初の撮影の前にディレイを設定できます。また、フレーム間に別のディレイを設定することにより、振動を最小限に抑えたり、フラッシュを変更したりできます。

ライブビュー画像には、保留中のフォーカスブラケットシーケンス (B) が表示されます。

フォーカスブラケットシーケンス中、Cで示すように、リアスクリーンとEVFに、選択したブラウズオーバーレイが追加情報のオーバーレイとともに表示されます。

- 1 フォーカスブラケットアイコン
- 2 撮影残量
- 3 シーケンス内の画像の枚数
- 4 撮影間のフォーカス調整ステップ

シーケンスが完了する前に終了するには、×ボタン (5) を押します。

シーケンスが完了した後、最後の画像がリアスクリーンに表示されます。

注!

フォーカスブラケット機能を使用するには、レンズのファームウェア更新が必要です。XCDレンズにはバージョン0.5.33以降を使用してください。XCD 45Piには、0.1.24以降が必要です。

注!

HC/HCDレンズは、フォーカスブラケットには使用できません。

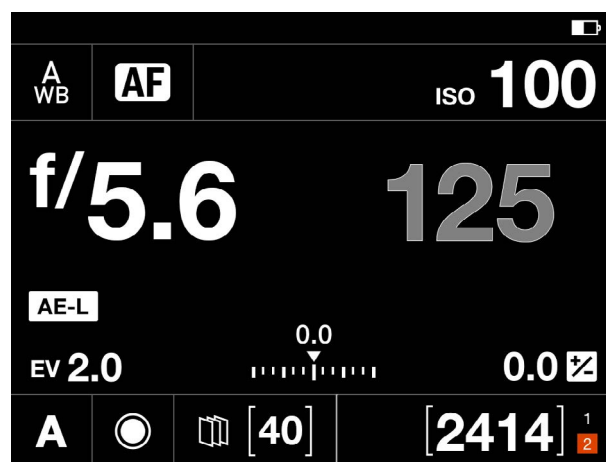
注!

フォーカスブラケットは、Phocus Mobile 2やPhocusにテザー接続している場合には対応していません。

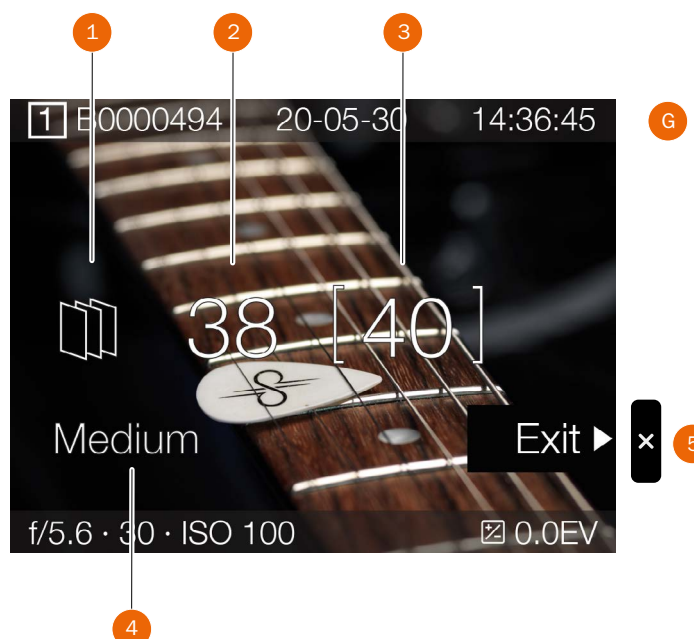
注!

照明調整、フォーカシング、およびオートホワイトバランスは、最初の露出の前に実行され、シーケンス内のすべての画像に適用されます。

制御スクリーン



ライブビュー



ステップサイズ

高画質の画像を撮影するには通常、小ステップサイズまたは中ステップサイズを選択する必要があります。それほど重要でない撮影の場合は、大または特大を使用することもできます。大や特大は、被写体のタイプによって許される特定の状況下で使用することもできます。

撮影状況にどのサイズが最適であるかを確認するには、テストを行うことをお勧めします。

このテストでは、小と特大の2種類のステップサイズを使用しました。特大設定の結果得られた画像では、不鮮明なエリアがはっきりと見えます。小を使用した画像では、すべてのエリアが完全に鮮明です。

テスト画像。F/5.6. 80画像。



小ステップサイズを使用した画像から拡大した部分。



特大ステップサイズを使用した画像から拡大した部分。



次ページに続きます。

ステップサイズは、特定の絞りでカメラによって作成された被写界深度 (DoF) に関連しています。これは、絞り値が大きくなるほど、被写体の実際のフォーカスシフトが大きくなることを意味します。たとえば、f/4の方がf/11よりもステップが小さくなります。ただし、カメラは各露出の前に、現在のフォーカス位置、レンズの焦点距離、絞り、およびセンサーのピクセル寸法を使用して実際のステップサイズを自動的に計算します。

被写体では、フォーカスポイントがカメラから離れるにつれ、DoFが大きくなります。フォーカスポイントの周りのDoFの分布も、より不均一になります。フォーカスポイントから遠い側のDoFの方が、フォーカスポイントの前にあるDoFより大きくなります。

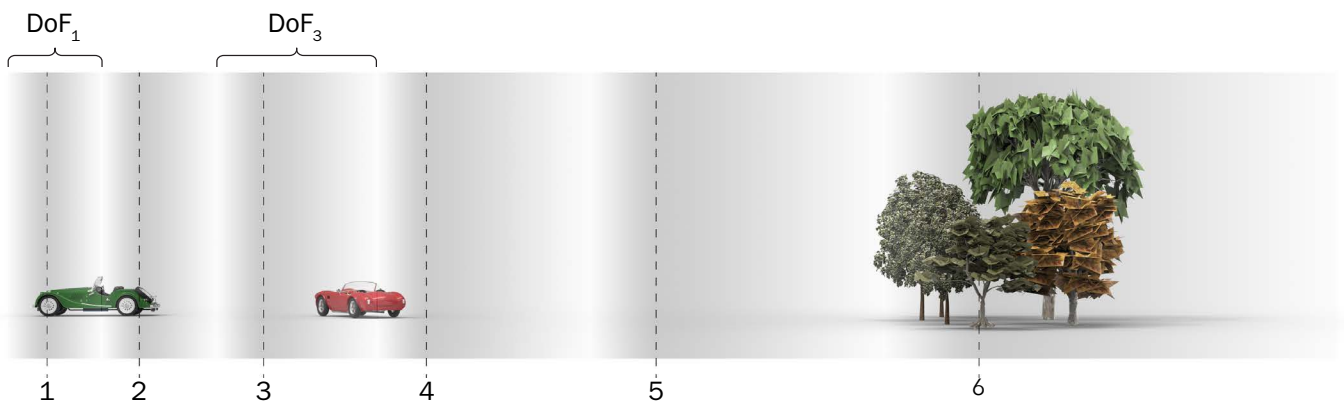
カメラがユーザーに代わってあらゆる計算を実行してくれるため、実際に必要な唯一の検討事項は、シーケンス内で撮影する画像の枚数です。ほとんどの場合、少なすぎる枚数がよりも多すぎる枚数に設定するのが最善です。レンズの焦点をそれ以上遠くまたは近くに合わせることができなくなると、カメラは自動的に停止します。

DoFおよびステップサイズの視覚化

右図は、フォーカススタッキングを使用できる典型的な被写体です。

ステップサイズを中に設定すると、各画像間に不鮮明なエリアがなくなります。DoFは相対的なものであり、DoFがどのように認識されるかは、最終結果の表示の拡大率によって大きく異なります。DoFの決定には錯乱円 (CoC) が使用されます。https://en.wikipedia.org/wiki/Circle_of_confusionも参照してください。

下図は、各撮影間でDoFがどのように変化するかを示しており、DoFが大きくなるにつれて被写体のフォーカスステップがどのように自動的に大きくなるかも示しています。



右側の表は、さまざまなステップサイズに使用される実際の錯乱円 (CoC) を示しています。PPIは、隣り合う2つのピクセル間の距離であるセンサーのピクセルピッチです。

ステップサイズ	CoC
特小	$1 \times PP = 5,3 \mu m$
小	$4/3 \times PP = 7,1 \mu m$
中	$2 \times PP = 10,6 \mu m$
大	$4 \times PP = 21,2 \mu m$
特大	$6 \times PP = 31,8 \mu m$

例

このページでは、どの設定を使用するかに関する開始点となるいくつかの例を紹介します。最良の結果は常に、ユーザー自身の試みにより実現します。

画像をよく調べるには、PDFリーダーのズーム機能を使用してください。

例1 – ナイフ

XCD 120マクロレンズとX1D-50c

被写体距離： 80 cm

絞り： f/8

画像数： 50

ステップサイズ： 中



例2 – らせん階段

XCD 35-75レンズ (35 mm) とX1D-50c

被写体距離： 75 cm

絞り： f/8

画像数： 15

ステップサイズ： 中



例3 – vカメラの筐体

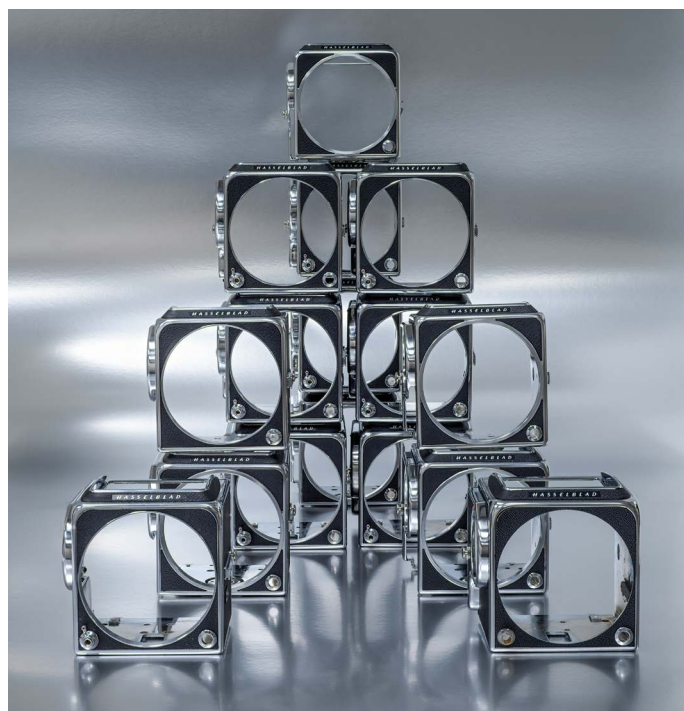
XCD 65レンズとX1D-50c

被写体距離： 120 cm

絞り： f/8

画像数： 35

ステップサイズ： 小



例4 – 腕時計

XCD 120マクロレンズとX1D-50c

被写体距離： 50 cm

絞り： f/6.8

画像数： 80

ステップサイズ： 中



固定露出補正設定

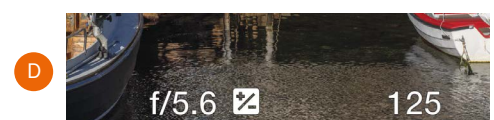
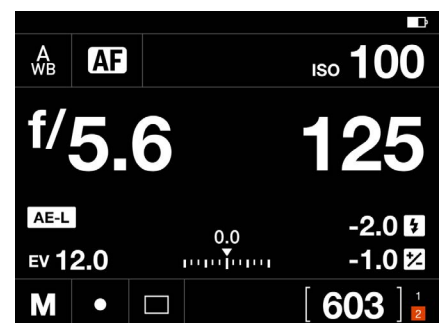
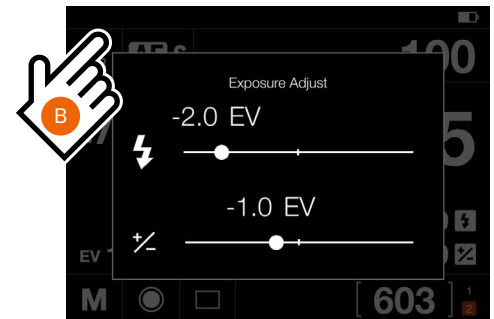
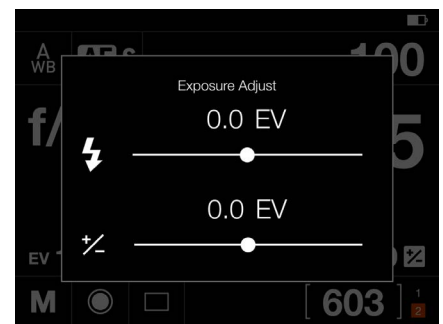
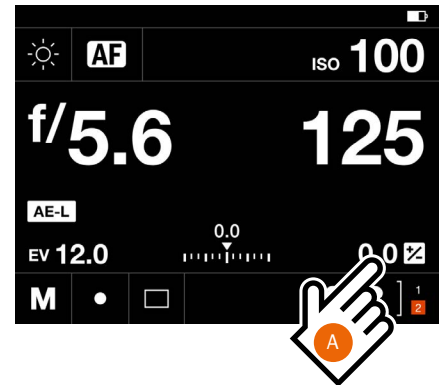
次の方法を使用して、露出補正とTTL使用時のフラッシュの調光補正を個別に設定できます。

- 1 コントロール画面 **(A)** で露出補正設定をタップします。
- 2 白い点を左右にスライドさせて、フラッシュ調光補正（上部のスライダー）と固定露出補正（下部のスライダー）の値を設定します。
ドットの左または右にある線をタップすると、値が **メインメニュー→カメラ設定→メディア露出→段階設定→露出補正** で設定された値ずつ増減します。
または、フロントホイールを使用してフラッシュ補正を設定し、リアホイールを使用して露出補正を設定できます。
設定は変更すると自動的に保存されます。
- 3 四角形 **(B)** の外側をタップしてコントロール画面に戻るか、シャッターを半押ししてライブビューに戻ります。
- 4 補正値はコントロール画面に表示されます。ライブビューでは、「±」マーク **(D)** が絞りとシャッタースピードの設定の間に表示され、設定されていることを確認できます。

注!

補正設定画面で、フラッシュまたは「±」アイコンをダブルタップして、設定を0にリセットできます。

ドットの左または右にある線をタップすると、値が **メインメニュー→カメラ設定→メディア露出→段階設定→露出補正** で設定された値ずつ増減します。



露出補正/クイックアジャスト

マニュアル/オートのどちらのモードでも、露出補正機能は-5～+5EVの範囲で、1/3、1/2または1段刻みで設定でき、ビューファインダーの目盛の上に表示され、タッチディスプレイのコントロール画面では±マークとして表示されます。

オート露出モードで調整を行う最も簡単な方法は、リアホイール **(A)** を使用することです。
クイックアジャスト機能を使用したオート露出モードでの一時的な補正設定：

リアホイール **(A)** を回して、補正量を選択します。

量は、EV値の先頭に「マイナス」または「プラス」が付き、そして「マイナス」から「プラス」の目盛の上にマーカーとして表示されます。

固定露出補正が設定されている場合、固定補正とクイックアジャストの値の合計が目盛に表示されます。

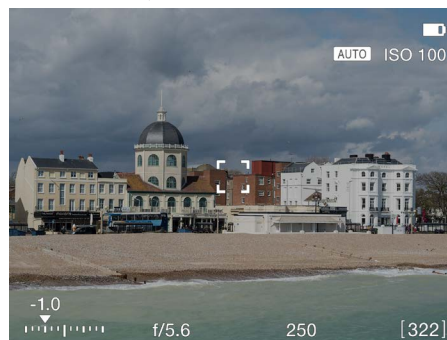
初期設定では補正は1/3段刻みで変更され、設定は撮影後にすぐに解除されます。



クイックアジャストなしのライブビュー



クイックアジャスト-1段のライブビュー



クイックアジャスト+1段のライブビュー



注!

カメラ設定→メディア露出メニューの「クイックアジャストの使用」の設定がチェックされていることを確認します。補正の効果を視覚的に確認するには、一般設定→ライブビューメニューの「露出シミュレーション」設定もチェックが入っている必要があります。

測光モード

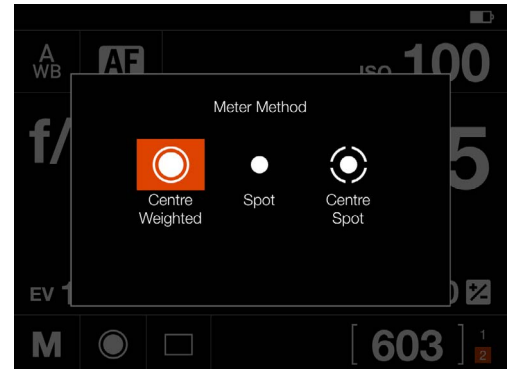
測光モードはコントロール画面で変更できます。希望のモードをタップするか、リアホイールを使用してモードを選択します。

選択できる測光モード

3つの反射光式測光モードがあります。

中央重点
スポット
中央スポット

測光モード



アイコン

測光モード



中央重点

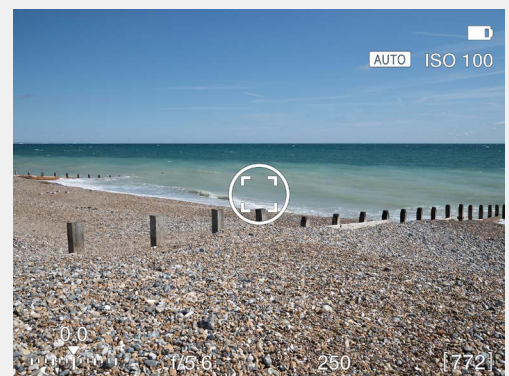
極端に明るいまたは暗いエリアがない構図での使用に適しています。ビューファインダーに表示される画面の約25%が測光されます。



スポット

画面の約2.5%に相当するエリアを重点的に測光します（ビューファインダー内の中央スポット）。このエリア外の画像のどの部分も、露出の読取値に影響を与えません。特定部の反射光が非常に正確に測光されます。また、画面内の輝度差の測光にも有効です。スポットエリアはライブビュー画面でマークが付きます。

ライブビュー上のスポットエリア表示



中央スポット

画面の中央約25%に相当する部分が優先的に測光されます。これによりバランスのとれた測光がなされ、主となる被写体が画像の中央にある場合での使用に適しています。

4.11 動画撮影

動画を撮影する方法

- ベストな結果を得るには、動画を撮影する際にカメラと一緒に安定した三脚を使用してください。
- 外部のアクティブマイクを使用すると、録音した音のクオリティが向上します。
- 1つの動画クリップの最大長は、29:59分です。保存可能な動画クリップの数は、挿入したSDメモリーカードの容量によって異なります。残りの容量は、コントロール画面 (H) に表示されます。

動画設定メニューで動画設定を選択します。ページ 119を参照してください。

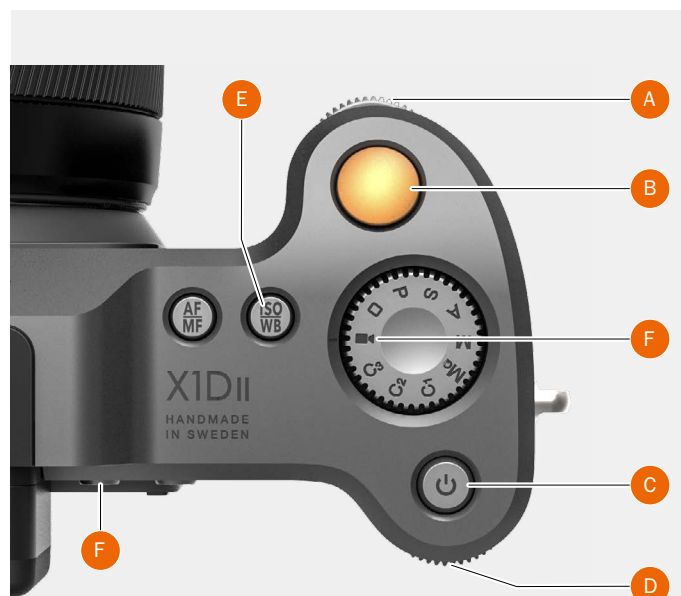
- 1 モードダイヤル (C) で動画モードを選択します。
- 2 タッチディスプレイに動画コントロール画面が表示されます。
- 3 シャッターボタン (B) を半押しして動画ライブビューを開始します。ライブビューを停止するには、以下の方法の1つを使用します。
 - メニューボタン≡またはブラウズボタン▶を押します。
 - 下にスワイプして動画コントロール画面を表示します。
 - オン/オフボタン (D) を押してスタンバイモードにします。
- 4 リアスクリーンまたはEVFに動画ライブビュー画面が表示されます。
- 5 動画録画はマニュアル露出のみです。リアスクリーンまたはEVFに目的の露出が表示されるまで、フロントホイール (A) で絞りを、リアホイール (E) でシャッター速度を設定します。シャッター速度は1/30秒以上に制限されています。AE-Lボタン (G) を押すと、絞りとシャッター速度を一緒にロックできます。その状態で、ホイールを使用して露出を変更せずに組み合わせを変更します。
- 6 フォーカシングはマニュアルモードのみです。フォーカスピーキングオーバーレイ (ページ 120を参照) を使用して、フォーカシングをアシストします。正確なフォーカシングを行うには、画面をダブルタップするか、星ボタン★を押して拡大表示します。シャッターボタン (B) を半押しして全体表示します。設定で拡大率を選択できます (ページ 115を参照)。
- 7 シャッターボタン (B) を完全に押すか、タッチディスプレイの録画アイコン (I) を押して録画を開始します。録画中は録画アイコンが停止アイコン (J) に置き換わります。
- 8 シャッターボタン (B) を完全に押すか、タッチディスプレイの録画アイコン (I) を押して録画を停止します。

注!

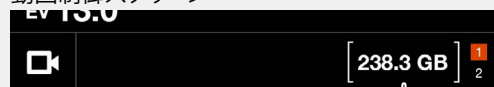
ISOとホワイトバランスは、動画コントロール画面と動画ライブビュー画面の両方で、値をタップするかISO/WBボタン (F) を押すことによって変更できます。

注!

テザー撮影は動画を録画できません。



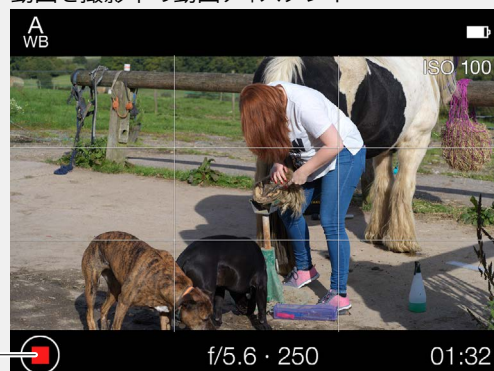
動画制御スクリーン



動画ライブビュー画面



動画を撮影中の動画ディスプレイ





録画した動画の表示方法

ブラウズボタン (A) を押します。録画した動画がポスターフレーム (プレビュー画像) および再生アイコンとともに表示されます。タッチディスプレイ (白い三角形) で再生アイコン (B) を押し、選択した動画を再生します。

動画を一時停止するには、画面を再度タップします。一時停止アイコン (C) をタップして再開します。

プログレスバー上の白いマーカー (D) を左右にスライドすると、動画のその他の部分を早送りまたは巻き戻しして素早く表示できます。

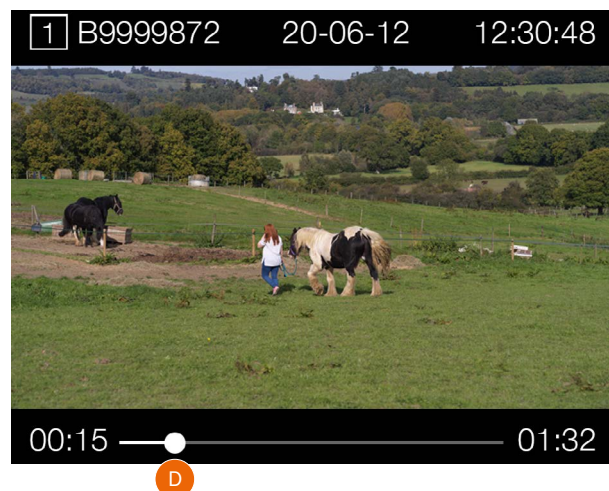
注!

動画は、ブラウズボタン (A) を押したときにリアスクリーンとEVFのどちらがアクティブであるかに応じて、どちらかでプレビューできます。EVFでの動画の再生は、ブラウズボタンを再度押すことでのみ開始および一時停止できます。

注!

動画ファイルはレーティングできません。

動画の再生中の画面



動画の一時停止中の画面



4.12 コネクターポート

1 SDカードスロット1

2 SDカードスロット2

3 オーディオ入力

マイク音声入力用の端子。

3.5 mmステレオプラグ対応。

この端子は、カメラのブレ防止用のシリーズコードXの接続にも使用されます。

152ページを参照してください。

4 USB-Cポート

Mac、PC、またはiPadとテザリングするUSB 3用のUSB-C端子。

5 オーディオ出力

オーディオ出力用のコネクター。

3.5 mmステレオプラグ対応。



4.13 メモリーカード

X1D IIカメラはSDカードのみを使用します。X1D IIカメラには、スロット番号1 **(1)** およびスロット番号2 **(2)** の、2つのSDカードスロットがあります。

ファイルカウンター **(3)** はアクティブカードであるかの推定値です。

注!

カードは、初めて使用する前に必ず X1D IIカメラでフォーマットしてください。

SDメモリーカードのステータス表示

コントロール画面のステータスのマーク **(4)** :

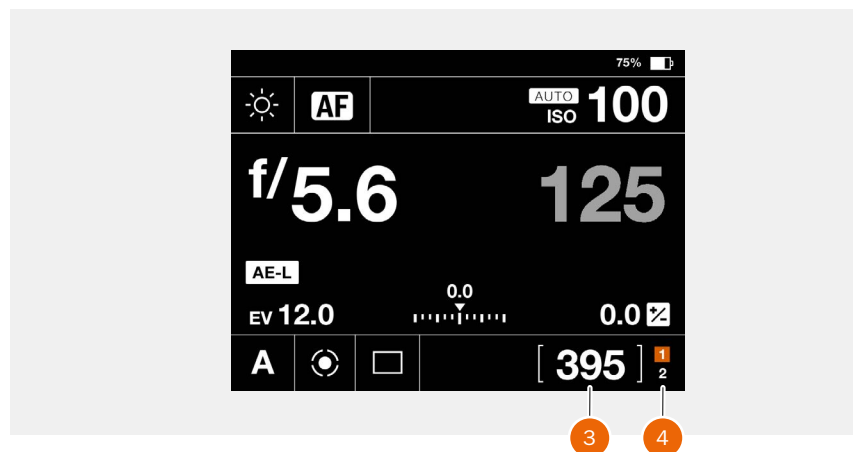
- | | |
|---|---|
| <div style="background-color: black; color: white; padding: 5px; text-align: center; width: 40px; margin-bottom: 10px;">1
2</div> <div style="background-color: black; color: white; padding: 5px; text-align: center; width: 40px; margin-bottom: 10px;">1
2</div> <div style="background-color: black; color: white; padding: 5px; text-align: center; width: 40px; margin-bottom: 10px;">1
2</div> | <p>カードが挿入されていません。</p> <p>カード1が挿入され、撮影の準備ができました。</p> <p>カード1が挿入され、アイコンが示すように、撮影がロックされています。
その他の状態アイコン：</p> <p>[0] カードがいっぱいです。</p> <p> カードエラー。</p> <p> カードの読み取り/書き込み速度が遅くなっています。</p> |
|---|---|

ステータス **(3)** は通常、撮影残数を表示しますが、次が表示される場合もあります。

- | | |
|--|---|
| 



 | <p>カードが入っていません。</p> <p>カードがロックされています。</p> <p>カードがいっぱいです。</p> <p>カードエラー。</p> <p>バックアップモードが選択されていますが、2枚目のカードが挿入されていません。</p> |
|--|---|



カードが挿入されていないときのライブビュー



メモリーカードを挿入する

SDカードを挿入する

- 1 メモリーカードスロットカバーをカメラの背面方向にスライドさせ、時計回りに回転させて開きます。
- 2 メモリーカードスロットカバーが開いたら、SDカードスロット1 (A) または2 (B) にSDカードを挿入します。
- 3 メモリーカードスロットカバーを反時計回りに回転して閉じ、カメラ (C) の前面に向けて押し込み、所定の位置にロックします。

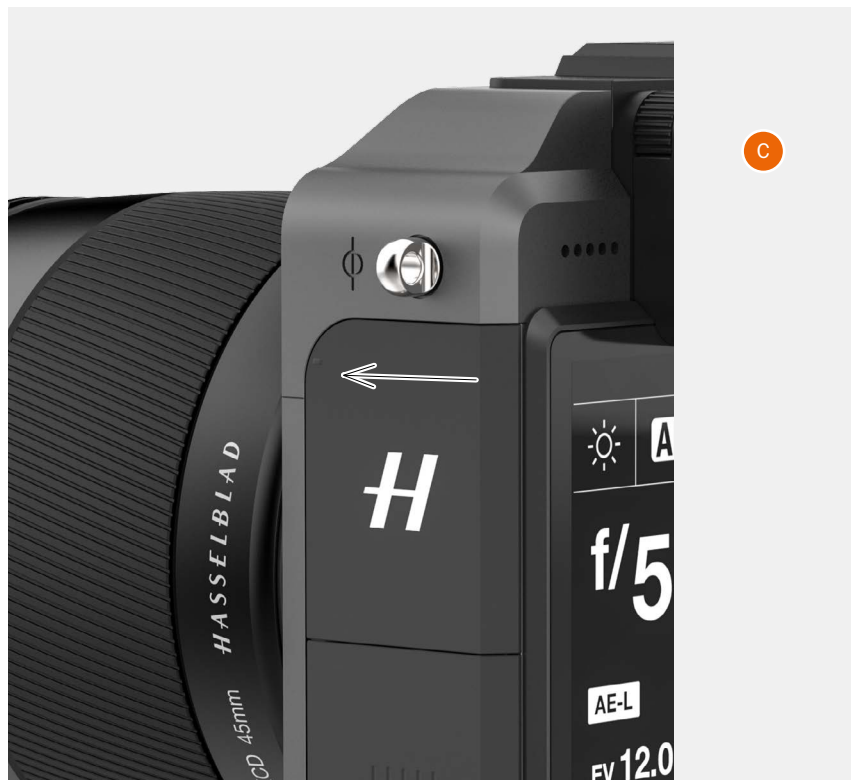
推奨されるメモリーカード

X1D II 50Cの最適なパフォーマンスを得るには、次のSDメモリーカードを使用することをお勧めします。

- UHS-II、260MB/秒以上

注!

SDカード変換アダプタでMicro SD/TFメモリーカードを使用しないでください。一部のSony ハイスピードG UHS-II SD 300MB/秒メモリーカードは互換性が低いため、画像データを適切に書き込めない場合があります。



SDメモリーカードを取り外す

注!

ステータスLEDが点滅している場合（タッチディスプレイの右下角）、カメラからメモリーカードを取り外さないでください。カードのファイルが破損し、データが失われます。

SDカードを取り外す

- 1 カメラ (A) のメモリーカードスロットカバーを開きます。
- 2 SDカード1 (B) または2 (C) を少し押し込んでから放します。SDカードがSDカードスロットから出てきます。
- 3 カードを掴んでカメラから引き出します。
- 4 スロットカバーを反時計回りに回転して閉じ (D)、カメラの前面に向けて押し込み、所定の位置にロックします。



SDカードのフォーマット

メインメニュー→一般設定→ストレージ→カードをフォーマットする

注!

SDメモリーカードを初めて使用する前に、必ず、X1D II カメラでフォーマットしてください。

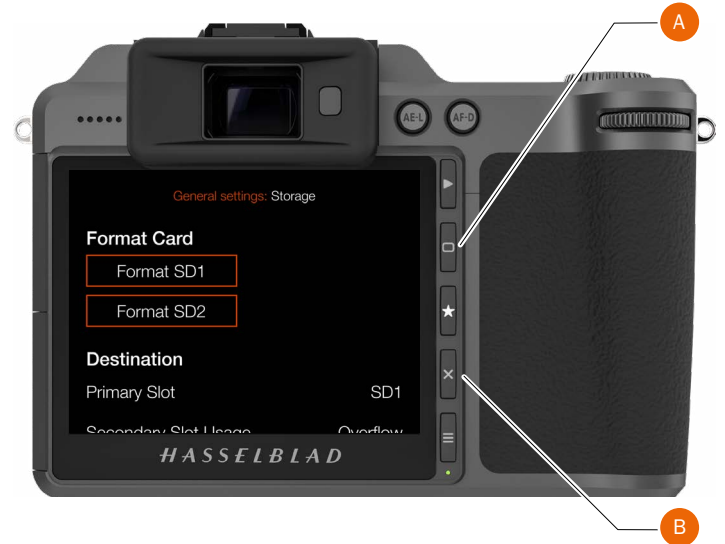
タッチディスプレイでメモリーカードをフォーマットする

メインメニュー→一般設定→ストレージ→カードをフォーマットする

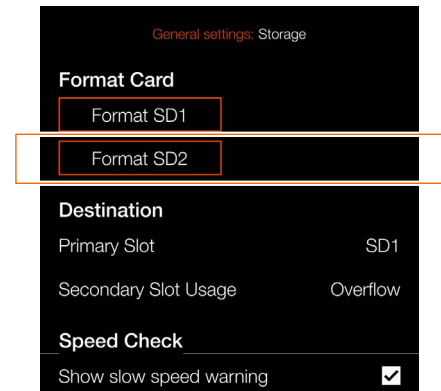
- 1 メニューボタンを押します。
- 2 「一般設定」に移動します。
- 3 「ストレージ」に移動します。
- 4 「SDカードをフォーマットする」に移動します。
- 5 「SD1をフォーマットする」または「SD2をフォーマットする」を選択します。
- 6 カードのフォーマットダイアログが表示されます。
- 7 確認するには、□ボタン (A) を押してフォーマットを選択します。フォーマットせずに終了するには、×ボタン (B) を押します。

注!

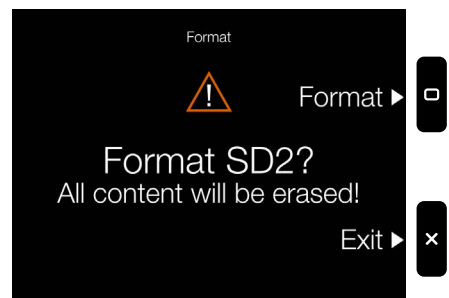
メインメニュー画面にストレージアイコンをショートカットとして配置して、フォーマットの手順を簡素化できます。



ストレージメニュー



カードのフォーマットダイアログの表示



4.14 ストップダウンボタン

ストップダウン/被写界深度プレビュー

ストップダウン機能

通常、絞りは露光中のみ実際に絞り込まれます。他のすべての状況では、絞りは開放状態で維持されます。

その結果、ライブビューの映像は、現在の絞り設定に関係なく、浅い被写界深度を表示します。

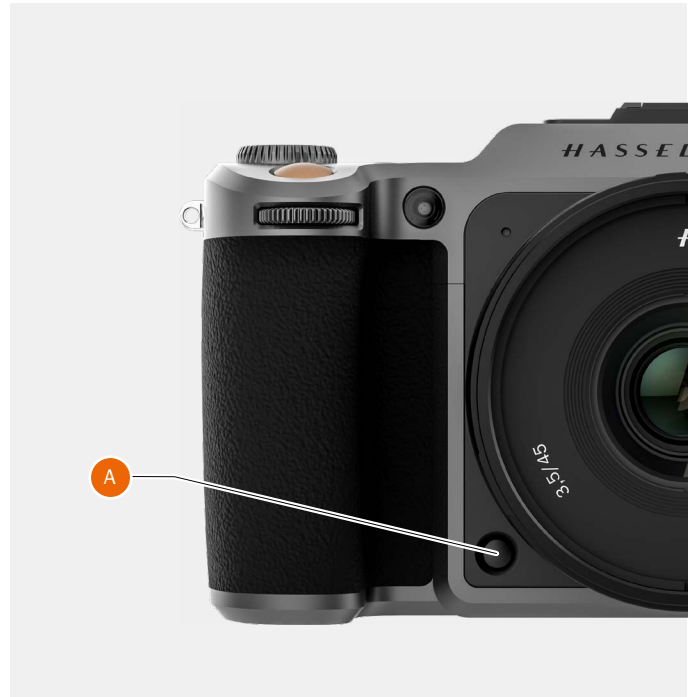
被写界深度をプレビューする方法

視覚的な被写界深度のプレビューは、次の手順に従って行うことができます。

- 1 ストップダウンボタン **(A)** を押します。
- 2 ボタン **(A)** を押し続けます。
- 3 レンズは現在設定されている絞り値まで絞り込まれます。
- 4 ストップダウンボタン **(A)** が完全に押されている間、被写界深度プレビューがビューファインダーとタッチディスプレイ画面に表示されます。
- 5 ビューファインダーまたはタッチディスプレイ画面で、光学的に被写界深度を確認します。
- 6 ストップダウンボタン **(A)** を放して、絞りを再度完全に開きます。

注!

被写界深度は絶対的なものではありません。これについての認識は、いくつかの要素に依存するため、おおまかな指針として理解してください。



4.15 ライブビュー表示

タッチディスプレイとEVFには同じ画面が表示されます。このページには、表示可能な情報がリストされています。

典型的なライブビューディスプレイ

タッチディスプレイ



電子ビューファインダーディスプレイ (EVF)



AF表示

ライブビュー画面上のAFポイント表示は、AFのステータスを示します。シャッターボタンを半押しするか、AFドライブ (AF-D) ボタンを押して、オートフォーカス機能を開始します。

白地に黒の枠 (1)

ノーマルモード。オートフォーカスは被写体を分析していません。

黒地に白の枠 (2)

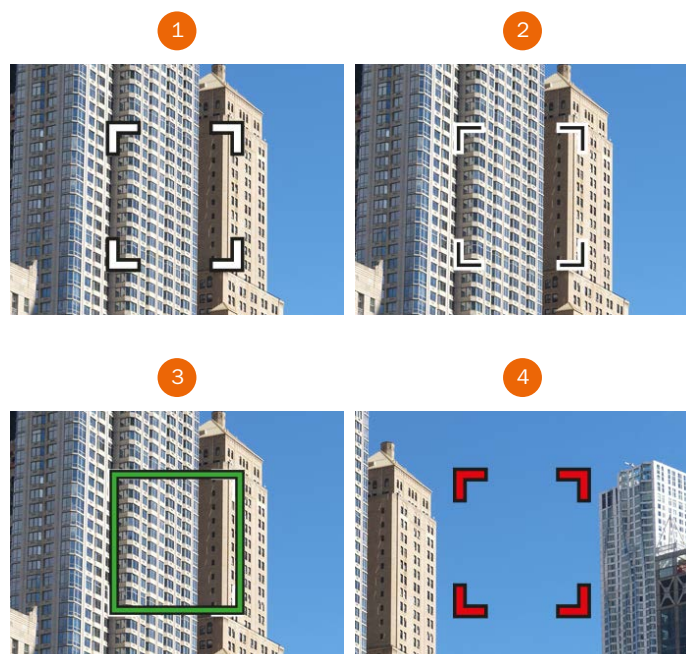
オートフォーカスを行っています。

緑 (3)

オートフォーカスが行われ、フォーカスが合焦しました。

赤 (4)

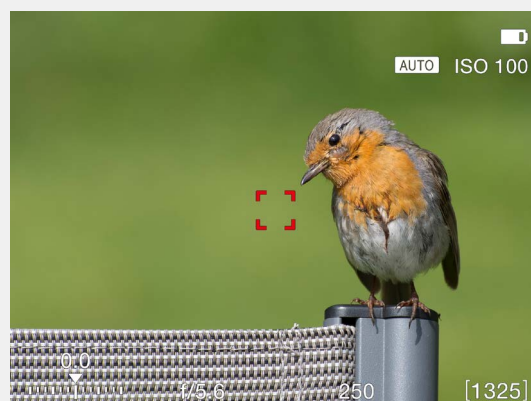
オートフォーカスは失敗し、適正に設定されていません。



白色のAFポイント表示。ノーマルモード。



緑色のAFポイント表示。AFが適正に完了しました。



赤色のAFポイント表示。AF分析はフォーカスに失敗しました。

ライブビューオーバーレイ

- 1 シャッターボタンを半押しすると、カメラにライブビューが表示されます。
- 2 □ボタン (B) を押し、次のオーバーレイに切り替えます。
- 3 AまたはEボタンを押して、ライブビューを終了します。

注!

目をEVFに近づけて覗くことでEVF (電子ビューファインダー) を起動した場合、EVFディスプレイの右側のセンサーが反応することでタッチディスプレイがオフになります (バッテリー節約のため)。再び目を離してタッチディスプレイを見ると、EVFがオフになり、タッチディスプレイがアクティブになります。

ライブビュー設定

オーバーレイ

ライブビュー中に表示されるオーバーレイ情報を選択します。ボタン (B) でオプションを切り替えます。

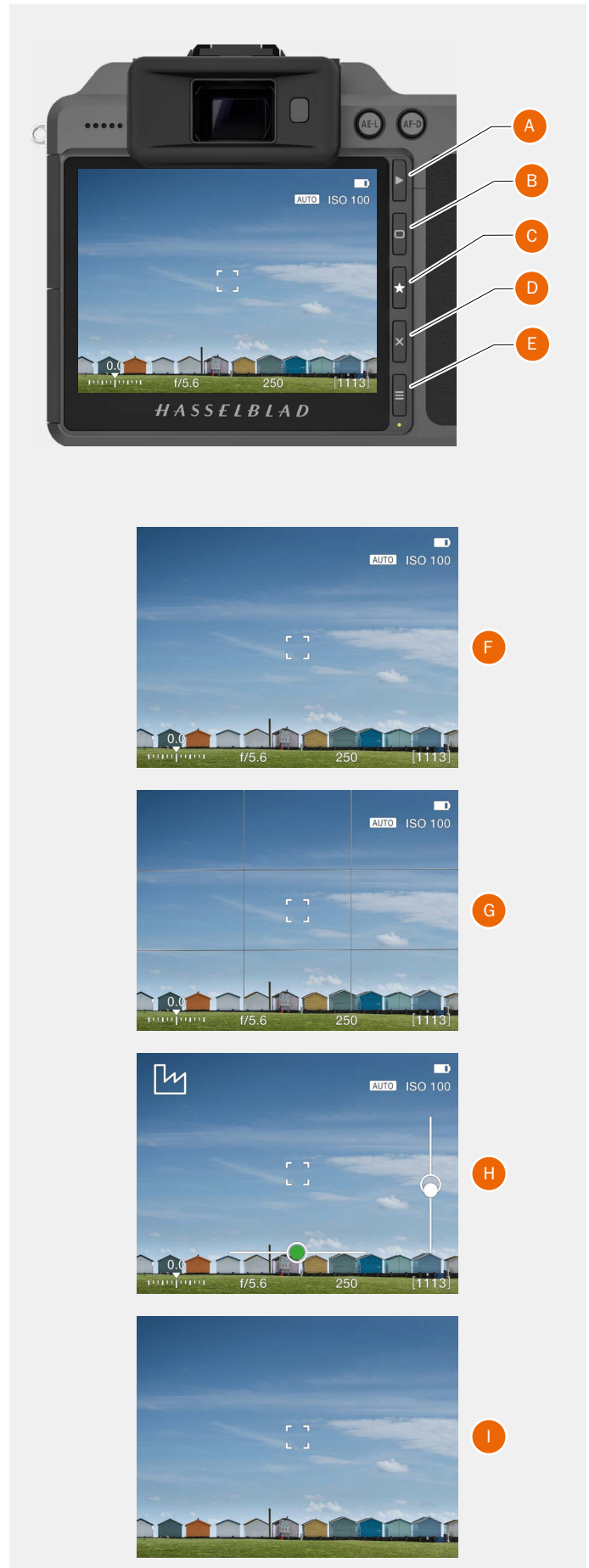
- 露出情報 (F)
 - 露出情報とグリッド (G)
 - 露出情報と水準器 (H)
- 詳細は、133ページの水準器の章を参照してください。
- なし (I)

ライブビューでのズーム

- 1 タッチディスプレイをダブルタップするか、☆ボタン (C) を押し、選択したエリアを50%または100%にズームインします。倍率はカメラ設定→フォーカスメニューで設定します。EVFを使用中は、☆ボタンを押してズームインする必要があります。
- 2 ☆ボタンをもう一度押すか、ダブルタップしてズームアウトし、画像全体を表示します。
- 3 ズームインした状態でスワイプすると、画像内を移動できます。EVFを使用している場合は、タッチディスプレイをスワイプして画像内を移動できます。

注!

ライブビューの電力消費は、通常の動作よりも大きくなります。ライブビューを使用すると、カメラの使用時間が短くなります。



4.16 フォーカシング

オートフォーカス

オートフォーカスは、シャッターボタンを半押しの位置まで押すか、AF-Dボタンを押すと動作します。

動作輝度範囲は、ISO 100でEV 1～EV 19です。

フォーカスは、選択されたエリア中の画像コントラストを最大化することにより決定されます。

状況に応じて、示されたAFエリアは異なって見えます。右の図および83 ページを参照してください。

AF補助照明

AF補助照明 (A) は、選択すると自動的にアクティブになります。有効距離はカメラから最大約4メートルです。

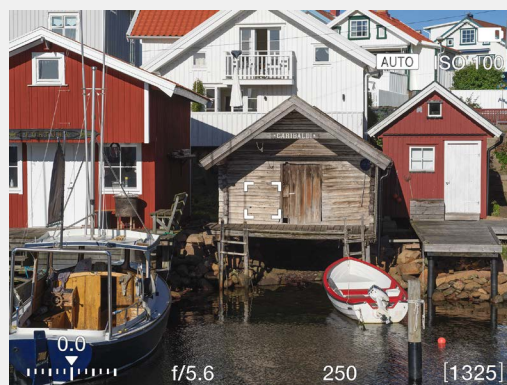
注!

AFポイントの位置は選択できます。89 ページを参照してください。

3つの異なるサイズから選択することもできます。90 ページを参照してください。

注!

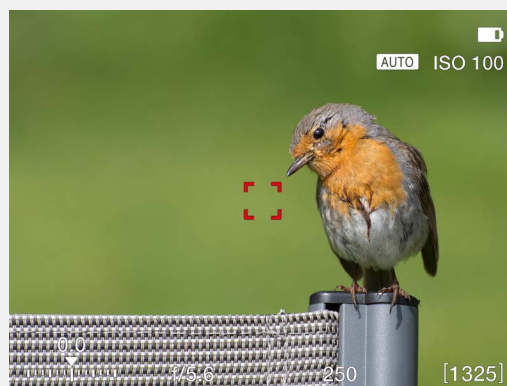
ファームウェアバージョンが18.0.0より古いHシステムレンズは、X1DでのAF機能に対応していません。古いHシステムレンズは、マニュアルフォーカスモードでのみの使用となります。



白色のAFポイント表示。



緑色のAFポイント表示。AFが適正に設定されました。



赤色のAFポイント表示。AF分析はフォーカスに失敗しました。

AFモードでは、合焦するまで、シャッターはブロックされて切れません。これにより、正確なピントの合っていない撮影がなされないようにします。ただし、この遅延は、一般的には適切な照明条件で、明瞭なパターンの被写体であれば、数分の1秒にすぎません。

注!

このモードでは、合焦し、シャッターボタン **(A)** が半押しされたままになっている間、その距離にピントが合った状態が維持されます。

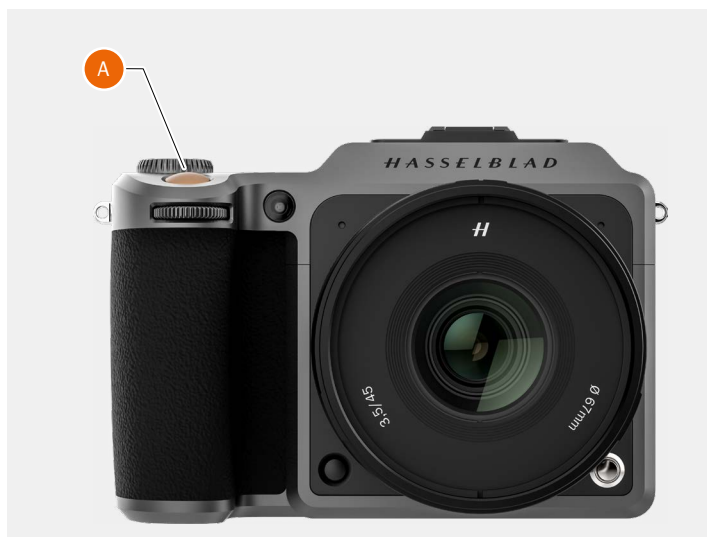
これにより、被写体を表示画面のフォーカスポイント内に一時的に配置してにピントを合わせてから、シャッターボタン **(A)** を半押しのまま、構図をとりなおすことができます。すると被写体にピントが合ったままの状態を維持できます（フォーカスロック）。

注!

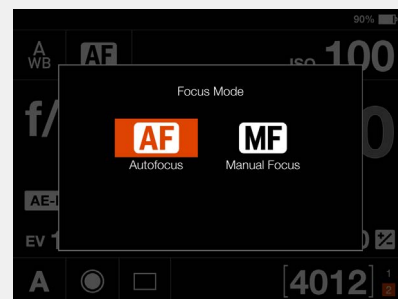
カメラに近く、広角レンズを使用する物体の場合は、91 ページの説明どおり、AFポイントを移動することをお勧めします。

シャッターボタン **(A)** を離し、再び押す（半押し）と、ピントは再びフォーカシングゾーン内にある被写体に合います。

マニュアルとオートフォーカスの設定を組合わせた便利な操作方法については、87ページのマニュアルフォーカスモードを参照してください。



フォーカス



マニュアルフォーカス

マニュアルフォーカス設定

マニュアルフォーカスは、オートフォーカスモードであっても、いつでも使用できます。マニュアルフォーカスモードに切り替えて、レンズのフォーカスリングのみを手動で使用することもできます。

マニュアルフォーカス制御の方が好みでも、オートフォーカスの利点を活かしたいユーザー向けに、1つの方法として、AF-DボタンをAFドライブに設定する方法があります。AFエリアを被写体に合わせて、AF-Dボタンを押します。カメラはフォーカスを適正に設定するのにオートフォーカスシステムを使用し、ボタンを離すと、直ちにマニュアルフォーカス制御に戻ります。そのため、フォーカス位置を維持するために、シャッターボタンを押したままにすることなく、新たに写真の構図をとりなおすことができます。

ライブビューでのマニュアルフォーカス

- 1 タッチディスプレイをダブルタップするか、☆ボタン (C) を押し、選択したフォーカスエリアにズームインします。
- 2 レンズでピントを手動調整します。
フォーカスを正確に設定するのに役立つ、2つのフォーカスアシストオプションがあります。

- 50%または100%のオートズーム。
- フォーカス ピーキング (次のページを参照)

オートズームでは、フォーカスリングを回すとライブビューが自動的に50%または100%にズームします。無操作で数秒間経過すると、ライブビューは全体表示に戻ります。
115ページも参照してください。

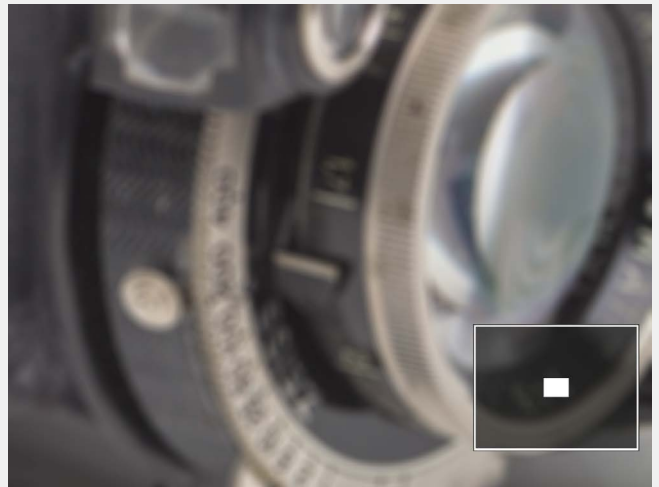
- 3 ☆ボタンをもう一度ダブルタップするか押してズームアウトし、画像全体を表示します。

これらのモードを使用すると、正確で精密にフォーカスできます。オートズームが最も正確で、フォーカス ピーキングは最も速く使用できます。

ライブビュー



50%にオートズームします。被写体にピントが合っていません。



50%にオートズームします。フォーカスが適正に設定されました。



フォーカスピーキング

フォーカスピーキングが有効な時に被写体にピントが合っていない状態



被写体にピントが合うとフォーカスピーキングが表示されます

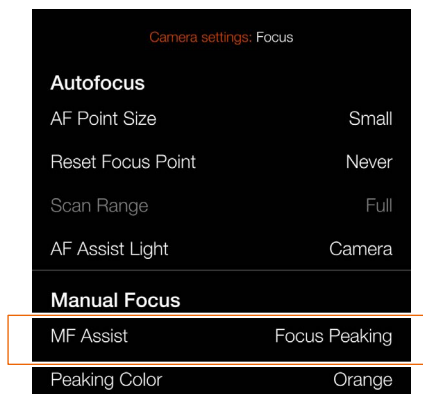


フォーカスピーキングの使用方法

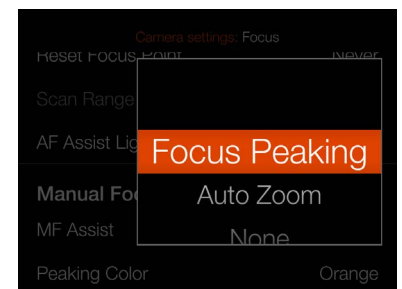
フォーカスピーキング機能は、ピントが合っているのが被写体のどのエリアかを識別するのに役立つマニュアルフォーカスツールです。オートフォーカスモードではフォーカスピーキングは使えません。

フォーカスピーキングが有効で、フォーカスを手動で調整するとき、フォーカスを移動させると、被写体のピントの合ったエリア（例はオレンジ表示）が前後に移動します。

マニュアルフォーカス設定メニュー



MFアシストダイアログ



マニュアルフォーカス設定メニューの内容

MFアシスト

マニュアルフォーカスアシストの機能。次から選択します。

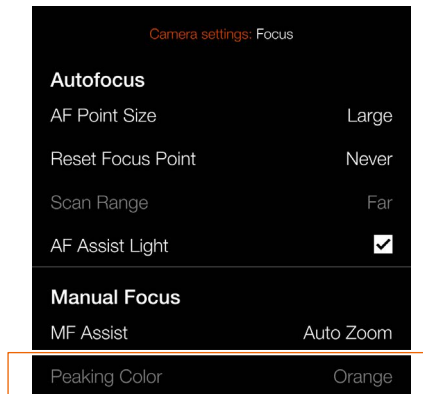
- フォーカス ピーキング
- オートズーム
- 設定なし

ピーキングカラー

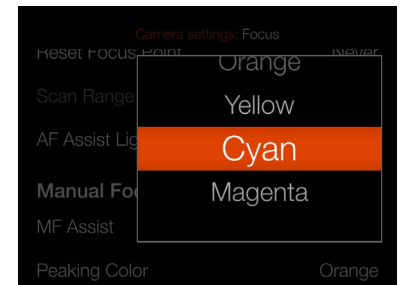
フォーカス ピーキングの表示色を選択します。

- オレンジ
- イエロー
- シアン
- マゼンタ

マニュアルフォーカス設定メニュー



ピーキングカラーダイアログ



4.17 オートフォーカスポイントを移動する

オートフォーカスポイント (A) は、任意で選択し、使用可能なポイント (B) のいずれかに移動することができます。AFポイントのサイズは、4 mm、2.8 mm、または2 mmに設定できます。サイズ変更についての詳細は、90ページを参照してください。また、EVFを見ながらポイントを移動する方法については91ページを参照してください。

タッチによる移動

メインメニュー→一般設定→タッチでAFポイントの移動がチェックされている場合、ライブビュー中フォーカスポイントの場所 (B) をタップで移動できます。

ライブビューモードまたは電子ビューファインダー (EVF) のタッチディスプレイでオートフォーカスポイントを移動する

- 1 ライブビューモードを開始するか、EVFを使用します。
- 2 AF/MFボタンを1秒間押し続けます。
- 3 すべてのフォーカスポイントがオーバーレイ (D) で表示されるようになります。
- 4 タッチディスプレイをタップしてAFポイントのいずれかを選択するか、リアホイールを回してAFポイントを上下に移動し、フロントホイールで左右 (E) に移動します。
- 5 シャッターボタンを半押しし、決定して終了します。AFポイントは、新しく選択した場所 (F) にあります。

ホイールを使用してAFポイントを移動する方法

AFポイント	リアホイール
上に移動	左に回転
下に移動	右に回転

AFポイント	フロントホイール
左に移動	左に回転
右に移動	右に回転

シャッターボタンを半押しして、新しいポイントを決めます。

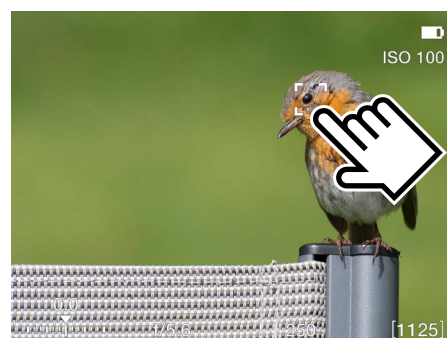
注!

スポット測光を選択してAFポイントを移動すると、測光エリアがAFポイントに連動します。

A



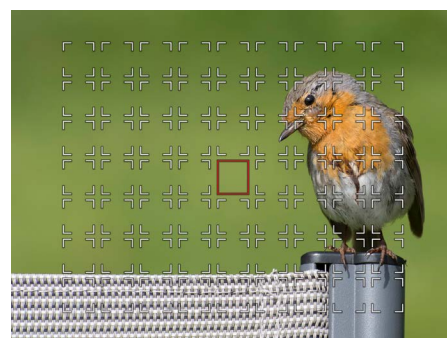
B



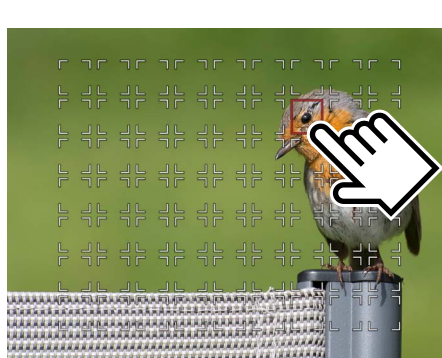
C



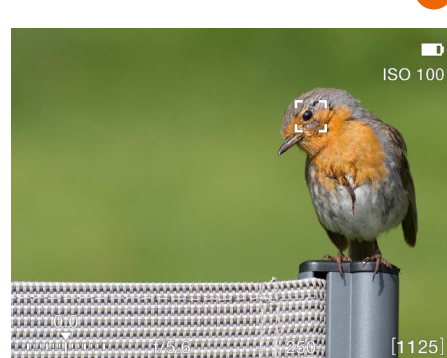
D



E



F



注!

AFポイントを中央の位置にリセットするには、×ボタンを押します。×ボタンを押して、フォーカスポイントをライブビューの中央にリセットすることもできます。

注!

カメラを、撮影後にフォーカスポイントを中心位置に自動的にリセットするか、選択した位置を維持するか、**メインメニュー→カメラ設定→フォーカス→AFポイントをリセット**で設定できます。

4.18 オートフォーカスポイントのサイズ変更

オートフォーカスポイントは、113ページの説明どおり、フォーカスメニューでサイズ変更できます。

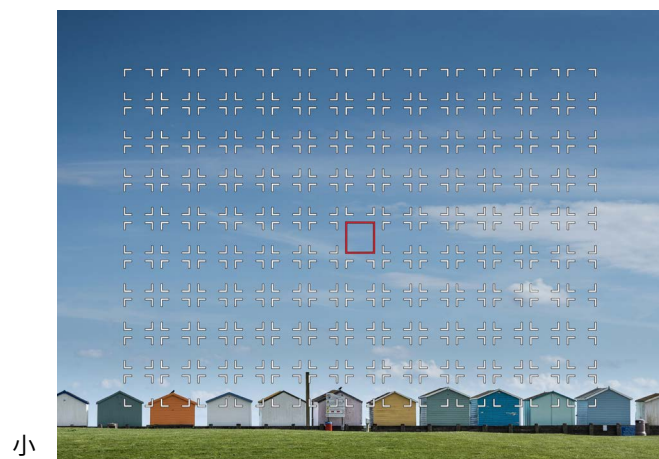
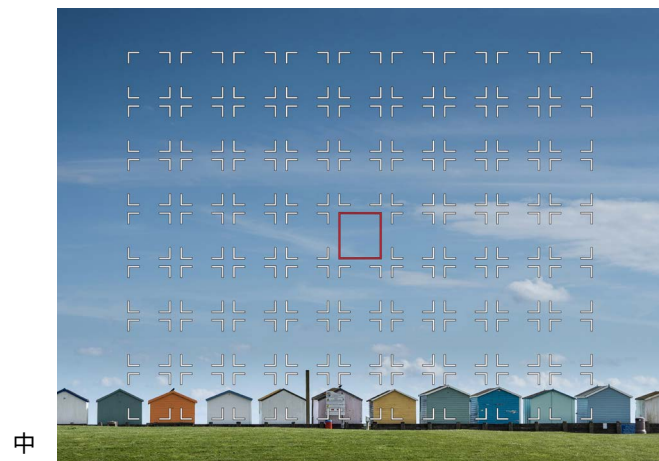
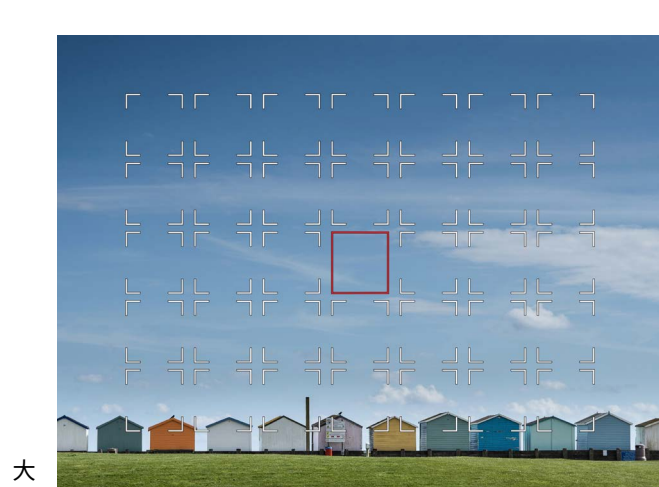
タッチによるサイズ変更

メインメニュー→一般設定→タッチでAFポイントの移動がチェックされている場合、ライブビューがアクティブなときに、ピンチとスプレッドのジェスチャーを使用してAFポイントのサイズを変更できます。
この場合、タッチしてAFポイントを移動することもできます。

グリッドビューでサイズを変更します。

ライブビューモードを開始するか、EVFを使用します。

- 1 シングルAFポイントが中央に表示されます。
- 2 AF/MFボタン (A) を 1秒間押し続けます。
- 3 選択可能なAFポイントがグリッドで表示されます。
- 4 □ボタン (B) を押して、さまざまなサイズを切り替えます。
- 5 必要に応じて、タッチで、またはホイールを使用してAFポイントを選択できます。
- 6 シャッターボタンを半押しし、決定して終了します。



4.19 タッチパッドを使用してオートフォーカスポイントを移動する

オートフォーカスポイントの位置は、EVFを表示しながらリアディスプレイで指をスライドさせて変更できます。

一般設定→タッチメニューの「EVF用タッチディスプレイ」設定をが希望のオプションに設定されていることを確認します。詳細は126ページを参照してください。

可能な設定は次のとおりです。

- 右
- 左
- 上部右
- 上部左
- 左下
- 右下

どの設定を使用する必要があるかは、主にEVFを見るときに使用する目によって異なります。右目を使用する場合は、「右」に設定することをお勧めします。こうすると、画面の右半分がAFポイントを移動するためのタッチディスプレイとして使用されます。

AFポイントを移動する

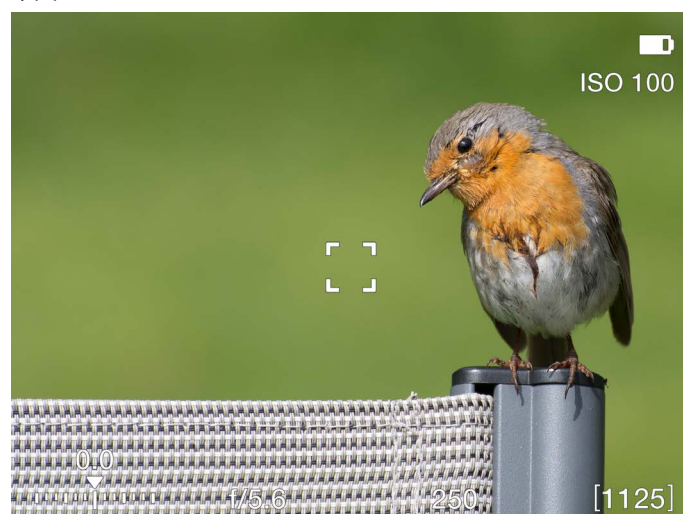
この例では、「EVF用タッチディスプレイ」は「右」に設定されています。

EVFを見ながら、リアディスプレイの右側に指を置き、上方向に、わずかに右にスライドさせます。EVFで、AFポイントが移動するのが見えます。希望の位置になったら、リアディスプレイから指を離してください。ただし、撮影前に指を離す必要はありません。AFポイントは、変更されるまでその位置に留まります。「AFポイントをリセット」オプションが「露出後」に設定されている場合（113ページを参照）、フォーカスポイントは露出後に中央部に戻ります。

注!

AFポイントの動きは相対的で、コンピューターのタッチパッドに似ています。つまり、1回の移動でAFポイントを十分に移動できない場合は、指を持ち上げて開始点に戻り、移動を繰り返します。

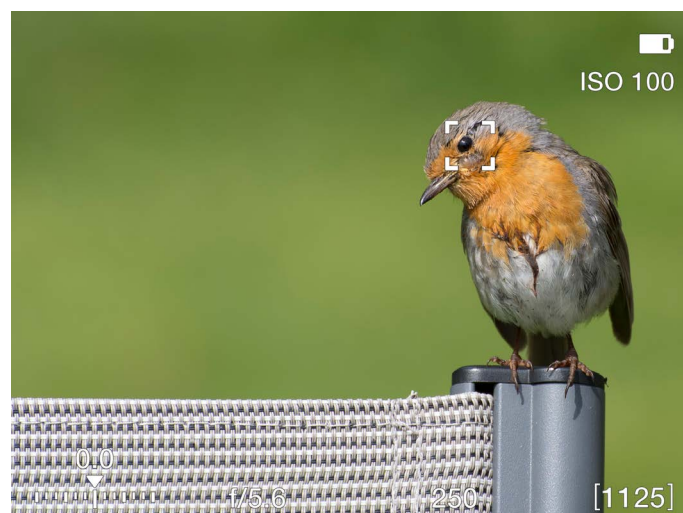
中央にあるAFポイント



リアディスプレイで指をスライドして、AFポイントを移動する



移動したAFフレーム



4.20 グリップで設定を変更する

AF/MFおよびISO/WB設定を変更する方法

AF/MFモード

AF/MFボタン (D) を押し、AFとMFを切り替えます。

ISO/WBモード

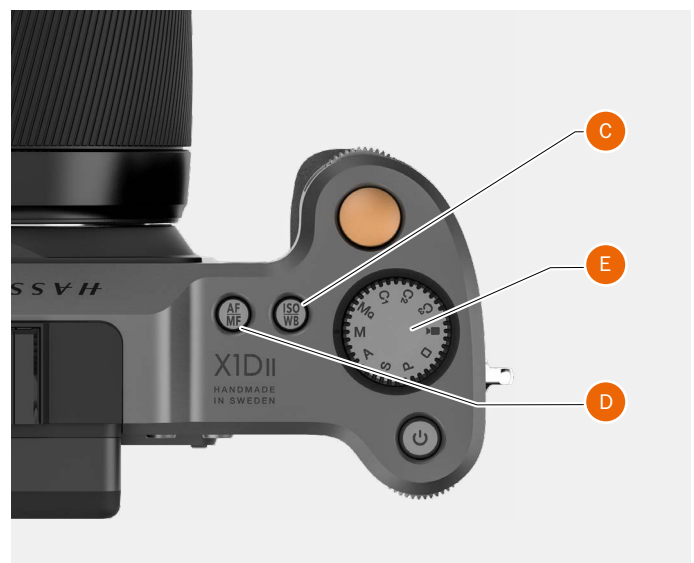
- 1 カメラグリップのISO/WBボタン (C) を1回押し、ISOを選択します。
- 2 2回押しホワイトバランスを選択します。
- 3 3回押しと終了します。

ISO リアホイール(B)またはフロントホイール(A)を左右にスクロールして、ISOモードを変更します。

WB リアホイール(B)またはフロントホイール(B)を左右にスクロールして、WBモードを変更します。
WB マニュアルモードでは、リアホイール (B) を使用して設定を選択します。
詳細については、54ページも参照してください。

モードダイヤル (E)

M _Q	マニュアルクイックモード
M	マニュアルモード
A	絞り優先モード
S	シャッター優先モード
P	プログラムモード
□	フルオートモード ISO感度も自動的に設定されます。いくつかの機能は制限またはロックされます。
動画	動画モード
C3	カスタムプログラム3
C2	カスタムプログラム2
C1	カスタムプログラム1



ISOおよびホワイトバランス

ISOおよびホワイトバランスは、カメラグリップ、タッチディスプレイ、またはPhocus (テザー接続時) のいずれかで設定されます。

- カメラグリップでは、ISO/WBボタン (A) からISOおよびホワイトバランスの設定にすぐにアクセスできます。フロントホイール (B) やリアホイール (C) を使用して変更します。これらは、タッチディスプレイと電子ビューファインダー (EVF) に表示されます。
- タッチディスプレイの場合、設定はタッチディスプレイで、またはディスプレイの横にあるボタンを使用して変更します。

設定はカメラ内で自動的に同時に調整され、タッチディスプレイと電子ビューファインダーの両方で表示が変更されます。

注!

変更は、設定が保存された後にのみタッチディスプレイに表示されます。マニュアルホワイトバランス設定の詳細については、「タッチディスプレイ設定」セクションを参照してください。

ISO

- 1 ISO/WBボタン (A) を押します。
- 2 フロントホイール (B) を回してISO設定を選択します。

ホワイトバランス WB

- 1 ISO/WBボタン (A) を押します。
- 2 フロントホイール (B) を回し、WB (オート、昼光、日陰、曇天、フラッシュ、蛍光灯、タングステン、またはマニュアルWB) を選択します。
- 3 色温度を手動で設定するには、「M/WB」が表示されるまでフロントホイール (B) を回します。すると、画面の下部に色温度値が表示されます。
- 4 リアホイール (C) を使用して、マニュアルWBを設定します。

注!

撮影時のホワイトバランスの設定は、技術的にはRAW 3F/3FR ファイルには必要ありません。RAWのフォーマットファイルには、光源の元の色温度や露出時のカメラの色温度設定にかかわらず、Phocusや他のソフトウェアでの補正に必要なすべての情報が含まれています。

RAWおよびJPEGで撮影するか、Phocusを使用してJPEGにし、JPEGファイルを直接配信または印刷する場合は、ホワイトバランス設定を行う必要があります。

注!

ISOおよびホワイトバランスの設定は、カメラグリップまたはリアディスプレイのいずれかでを行います。設定は、リアディスプレイと電子ビューファインダーの両方で、自動的に更新されます。



4.21 ブラウズ、プレビュー、ヒストグラム

撮影画像をブラウズする

カード内の画像は、リアディスプレイまたはEVFで再生できます。画像が表示される場所は、再生/ブラウズボタン (C) を押したときにアクティブなディスプレイによって異なります。

リアディスプレイでの画像再生

再生モードに切り替えるには、リアディスプレイの横の再生ボタン (C) を押します。

再生モードで、右または左にスワイプするか、カメラグリップのフロントホイール (A) を使用して、フォルダー内の画像を移動します。

リアディスプレイの再生モードで、左右にスワイプして画像を再生します。

96 ページの説明に従い、フォルダビューにズームアウトして、別のフォルダーを選択します。

シャッターボタン (B) を押して再生モードを終了するか、メニューボタン (E) を押します。

×ボタン (D) を押して、画像を削除するダイアログにアクセスします。

別のオーバーレイを表示するには、リアホイールを使用します。

全体画像表示でAE-Lボタンを押すと、9枚表示にズームアウトできます。さらにズームアウトしてフォルダーを表示し、それから96 ページ (ボタンを使用する方法) の説明どおりカードを選択できます。

一般設定→プレビューメニューの画像プレビュー設定には、各撮影後にEVFでプレビューを自動的に表示するように選択できる設定が含まれます。詳細は、125ページを参照してください。

EVFでの画像再生

EVFをアクティブにして、再生/ブラウズボタン (C) を押します。最後の画像が表示されます。

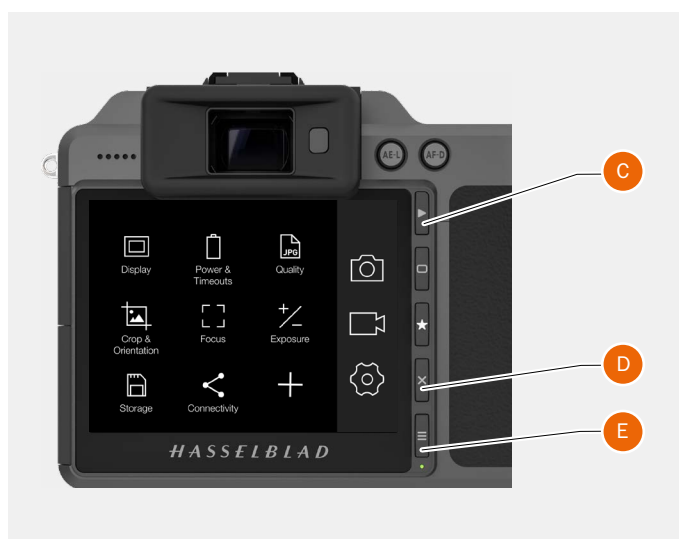
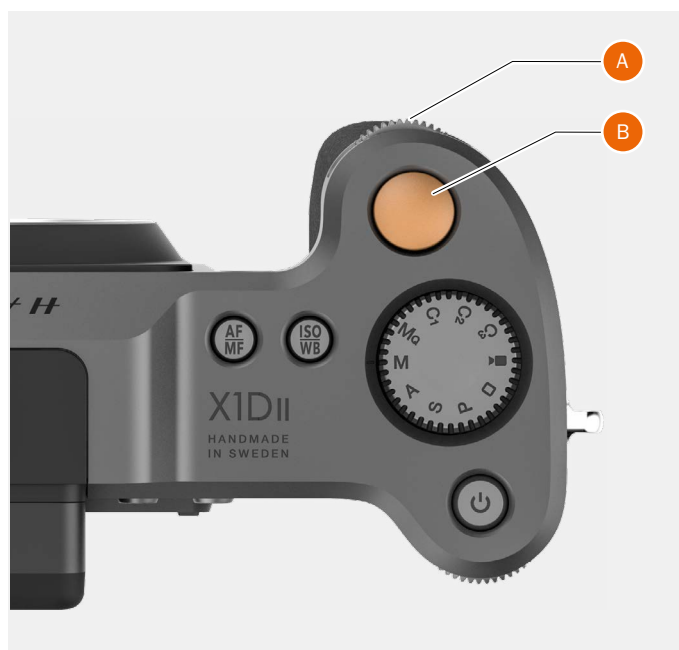
別の画像を表示するには、フロントホイールを使用するか、リアディスプレイに切り替えスワイプします。

別のオーバーレイを表示するには、リアホイールを使用します。

AF-Dボタンを使用してズームインできます。ズームアウトするには、AE-Lボタンを使用します。長押し (1秒) すると、等倍ズームインまたは全体ズームアウトします。撮影直後のプレビューでは、使用したフォーカスポイントにズームインします。

ズームインすると、リアディスプレイをスワイプして画像をパンできます。使用するリアスクリーンエリアは、126ページで示すとおりを設定できます。

動画ファイルのブラウズについては、75ページを参照してください。



タッチディスプレイでのズームインおよびズームアウト

次のジェスチャーを使用して、ディスプレイのタッチでズームインおよびズームアウトできます。

機能

ズームイン（拡大）
ズームアウト（縮小）

アクション

スプレッドします（2本の指を離す）。
ピンチします（2本の指を近づける）。

アクション

ダブルタップ

機能

100%に拡大。もう一度ダブルタップすると、全体にズームアウトします。

拡大表示ビュー



標準プレビュー



9枚表示モード

9枚表示モードは、最大9画像のサムネイルを表示します。下にスクロールして、フォルダー内のすべての画像を表示します。

AE-Lボタンを押して9枚表示モードに切り替えるか、2本の指で「ピンチ」してズームアウトします。

9枚表示モード



カードを選ぶ

SD 1またはSD 2のスロットに挿入されているカードを選択して、画像を再生することができます。

どのカードを確認するかを選択するには、フォルダー階層を、「カードを選ぶ」ダイアログが表示されるまで上に移動します。
フォルダー階層は以下のとおりです。

メモリーカード
フォルダー
9枚表示
1枚表示

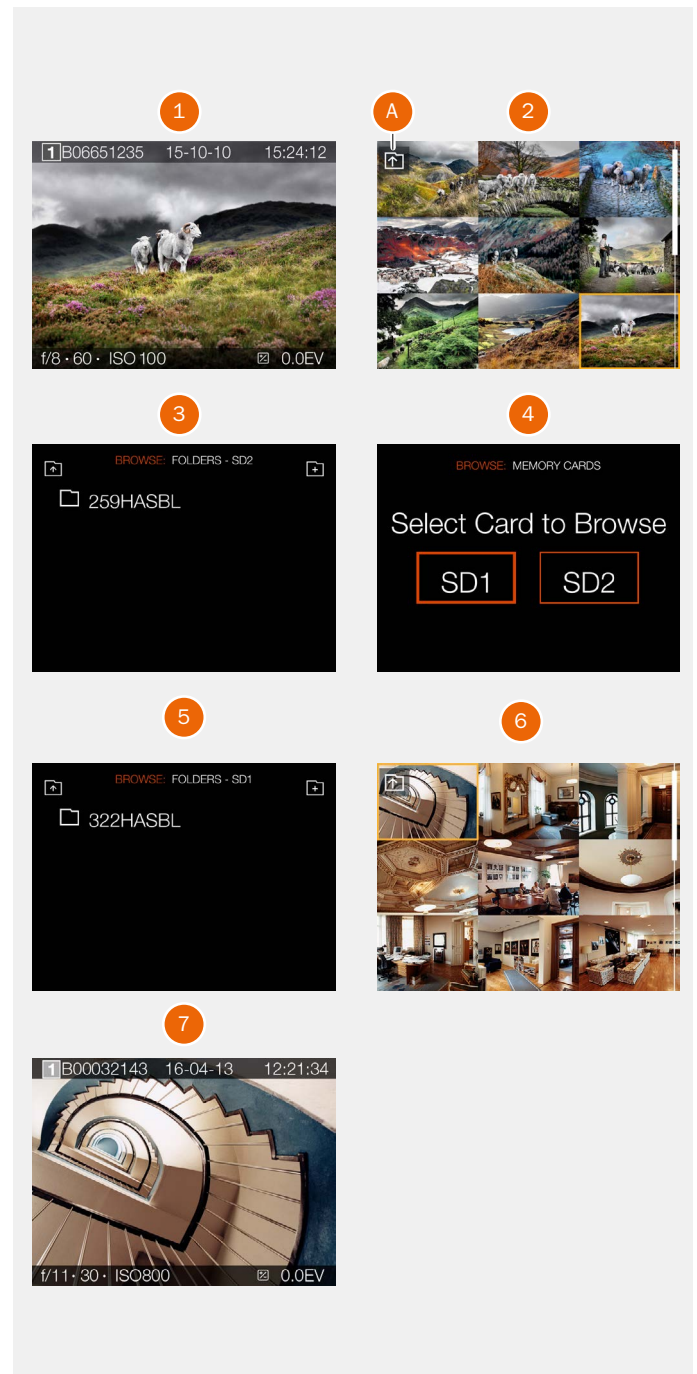
タッチ、またはボタンとホイールを使用して、カード選択ダイアログまで移動することもできます。

タッチによる方法：

- 1つの画像 **(1)** を表示しているとき、内側にピンチして、9枚表示 **(2)** に移動します。
- 9枚表示では、左上角にある「上のフォルダー」ボタン **(A)** を押すと、フォルダーに移動します。
- フォルダー表示では、左上角にある「上のフォルダー」アイコンをアップすると、上のカードレベルに移動します。
- 再生するカードを選択します。
- フォルダー名 (322HASBL) をクリックしてフォルダーを選択します。
- 表示する画像を9枚表示から選択します。
- 選択した画像が表示されます。

ボタンを使用する方法：

- 1つの画像 **(1)** を表示しているとき、AE-Lボタンを押すと、9枚表示 **(2)** に移動します。
- AE-Lボタンを繰り返し押し続けると、フォルダー階層を上に移動します。
- 任意のホイールを使用して、再生するカードを選択します。
- AF-Dボタンを使用してカードを選択します。
- ホイールとAF-Dボタンを繰り返し使用して、確認するフォルダーを選択します。



新しいフォルダーの作成

その時点でアクティブのSDカードに新しいフォルダーを作成することが可能です。新しいフォルダーが作成されると、新しいすべての画像がそのフォルダー内に保存されます。フォルダー名は自動生成され、変更はできません。
画像を前のフォルダーに保存することはできません。

タッチによる方法：

- 1つの画像 **(A)** を表示しているとき、内側にピンチして、9枚表示 **(C)** に移動します。
- 9枚表示では、左上角にある「上のフォルダー」アイコン **(B)** をタップと、フォルダーに移動します。
- フォルダーでは、右上角にある「フォルダーを追加」ボタン **(D)** を押して、新しいフォルダーを作成します。
- フォルダーの作成ダイアログ **(E)** で、**作成** を選択して、新しいフォルダーを作成するか、または**終了**を選択してスキップします。

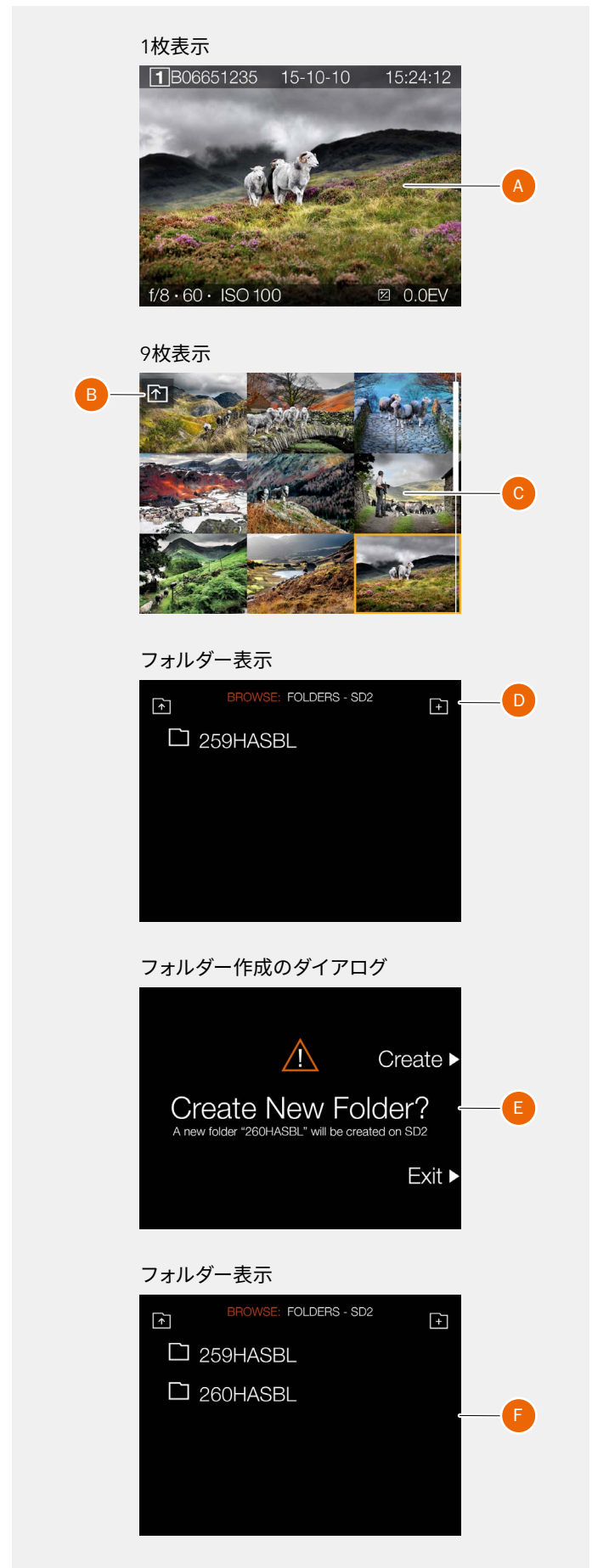
ボタンを使用する方法：

- 1つの画像 **(A)** を表示しているとき、AE-Lボタンを押すと、9枚表示 **(C)** に移動します。
- もう一度AE-Lボタンを押して、フォルダー階層を表示します。
- 任意のホイールを使用して、右上角にある「フォルダーを追加」アイコン **(D)** を選択します。
- AF-Dボタンを使用して、フォルダーの作成ダイアログ **(E)** を表示します。
- このダイアログで、**作成** を選択して、新しいフォルダーを作成するか、または**終了**を選択してスキップします。

新しいフォルダーが作成されると、フォルダー表示 **(F)** に新しいフォルダーが表示されます。前のフォルダー (259HASBL) 内にある画像を閲覧するには、前のページで説明した手順を行ってください。新しい画像は新しいフォルダーに自動的に保存されます。

注！

その時点でアクティブなカードに新しいフォルダーを作成することが可能です。他のカードを再生するとき、「フォルダーを追加」アイコンは使用できません。



標準プレビュー

標準プレビューは、初めてカメラの電源をオンにするときに表示され、おそらく最も頻繁に使用するプレビューです。

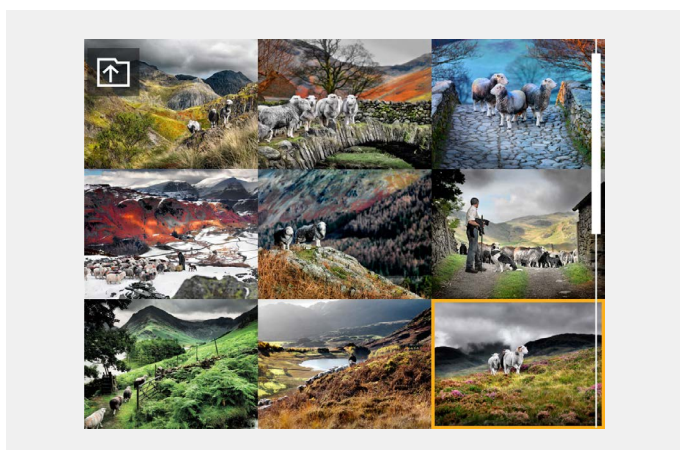
最後に撮影した画像のプレビューが、設定についての基本情報と共に表示されます。



9枚表示モード

9枚表示モードを表示するには、再生モードのときに、AE-Lボタンを押します。このモードでは、最大9個の画像のサムネイルを表示できます。画像数が9個を超える場合は、下にスワイプして、保存されている画像をスクロールできます。

サムネイルのいずれかをタップすると、フルスクリーンで表示されます。



プレビューのオーバーレイ

ページ95で説明されている標準オーバーレイに加えて使用可能なオーバーレイは、以下のとおりです。ヒストグラムモード、詳細モード、輝度ヒストグラムモード、色別ヒストグラムRGBモード。

詳細モード

詳細モードには、SDカード (1)、日付 (19-05-19)、時間 (14:32:08)、選択した絞り (f/11)、シャッタースピード (1/250)、ISO (100)、EV設定 (+/- 0.0)、露出モード (A)、測光モード (中央重点)、ホワイトバランス (昼光)、焦点距離 (45mm) が表示されます。

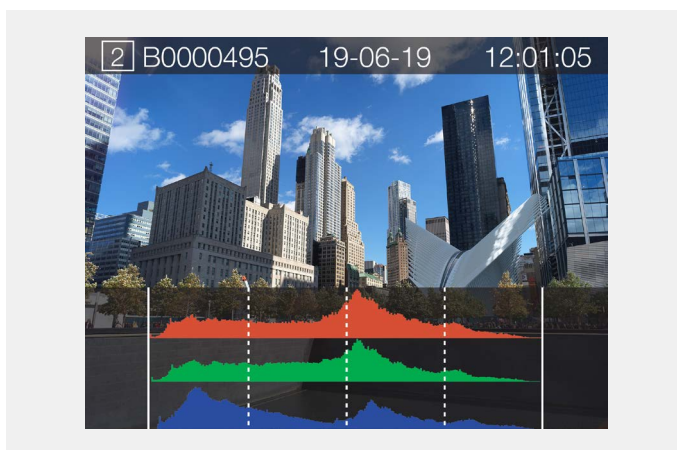


ヒストグラムオーバーレイを変更する方法

画像の下部をタップするか、リアホイールまたは□ボタンを使用して、利用可能なヒストグラム表示を切り替えます。

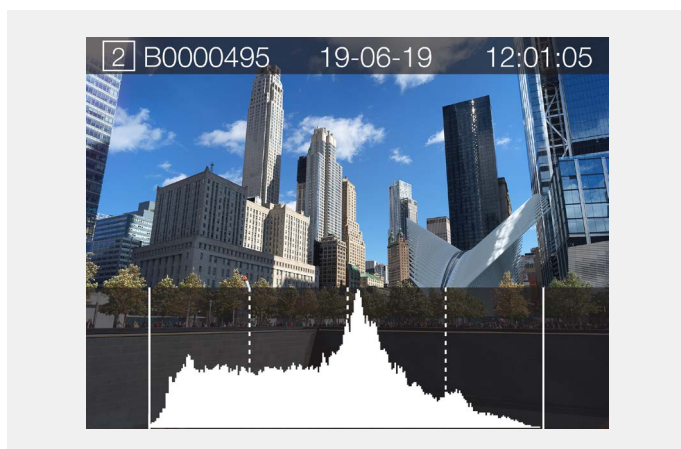
RGB色別ヒストグラムモード

色別ヒストグラムRGBモードでは、個別のRGBチャンネルが表示されます。赤色のRチャンネルが最初に、緑色のGチャンネルが次に、その下に青色のBチャンネルが表示されます。

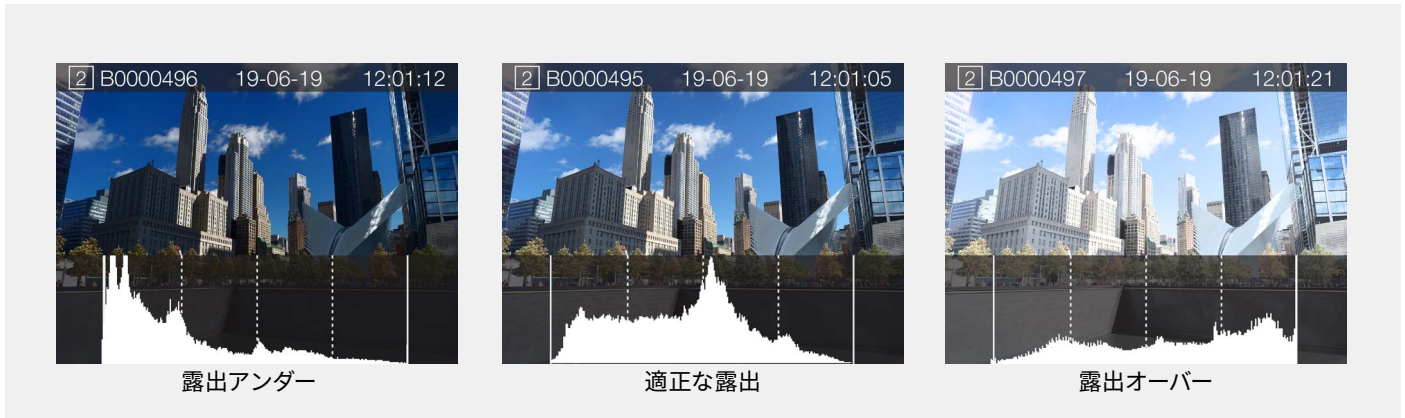


輝度ヒストグラムモード

輝度ヒストグラムモードは輝度を表示します。輝度は白いグラフで表されます。



ヒストグラム露出モード



ヒストグラム露出

ヒストグラムでは、画像中のそれぞれの輝度レベルでの合計ピクセル数のグラフを示し、左側のシャドウから右側のハイライトまでの範囲を示します。画像を評価するための貴重なツールです。

適正露出の画像はグラフが全範囲にわたっており、露出アンダーや露出オーバーの画像は、目盛の左側か右側の部分にレベルが集中する傾向にあります。

ヒストグラムは、参考値にすぎません。ヒストグラムは「良くない」のに、意図した効果に最適な露出となる状況もいくつかあります。

以下のヒストグラムの例とその説明を参考としてください。

露出アンダー

ヒストグラム表示は左に集中し、他の場所にほとんど画素がないのは、露出アンダーの可能性が高いことを示します。多くのディテールがシャドウ部分で失われます。

適正な露出

ヒストグラム表示が全範囲に広がっているのは、適正な露出である可能性が高いことを示します。少数の画素がなお両極端にある場合があり、これは色域上ハイライトや飽和したシャドウが多少あることを示していますが、これは適正露出では普通にあることです。

露出オーバー

ヒストグラム表示は右に集中し、他の場所にほとんど画素がないのは、露出オーバーの可能性が高いことを示します。多くのディテールがハイライト部分で失われます。

4.22 画像のレーティング

レーティング機能

メモリーカード上の画像は、1～5個の星でレーティングできます。レーティングは、画像ファイルのメタデータに書き込まれます。以下の手順を使用してください。

- 1 「カメラ設定 - 機器構成」メニューの設定「画像のレーティング」が選択されていることを確認します。ページ118を参照してください。
- 2 再生ボタンを押してブラウズモードにします。
- 3 ディスプレイボタンを押すかリアホイール (A) を回転してオーバーレイ表示を選択します。
- 4 右下部分で、5つの星 (B) に現在のレーティングが表示されます。レーティングされていない画像の場合、星は塗りつぶされていません。
- 5 画像をレーティングするには、5つの星をタップするか、星ボタンを押します。
- 6 カメラがレーティングモードになり、5つの大きい星が表示されます。画像が以前にレーティングされている場合、現在のレーティングが表示されます。そうでない場合、5つの星は空です。
- 7 目的の星をタップしてレーティングを変更します。たとえば、4つ星レーティングにする場合は、4番目の星 (C) をタップします。長方形ボタンを押すとレーティングが上がり、クロスボタンを押すとレーティングが下がります。また、リアホイールを使用してレーティングを変更することもできます。
- 8 ブラウズモード (D) に戻るには、星ボタンまたはブラウズボタンを再度押します。

レーティングモードは標準ブラウズモードと同等です。つまり、ディスプレイをスワイプするかフロントホイールを使用して次の画像にブラウズできます。画面をダブルタップするか、AF-Dを押してズームインします。

いつでも前にレーティングした画像に戻り、上記と同じ手順に従ってレーティングを変更できます。

注!

多くの画像をレーティングするときのワークフローを効率的にするには、レーティングモードのままで前後の画像にスワイプします。また、レーティングモードのままでフロントホイールを使用して前後の画像に移動することもできます。

注!

1.2.0より前のファームウェアを使用して撮影した画像をレーティングすることはできません。

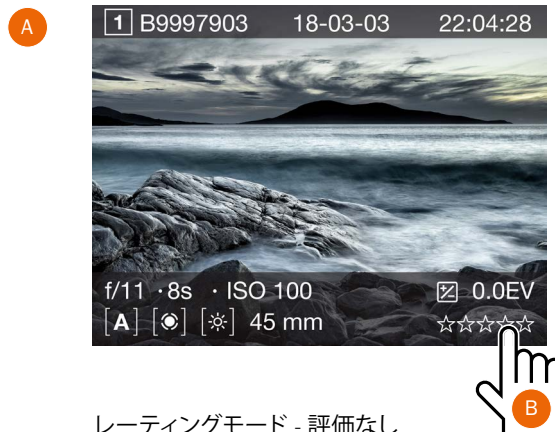
注!

設定「カメラ設定 / 機器構成 / 画像のレーティング」で画像のレーティングが無効になっている場合、ブラウズモード (A) では5つの星が表示されません。

注!

2枚のカードが挿入されている場合、メインのカード内の画像のみがレーティングされます。

ブラウズモード - オーバーレイ表示



レーティングモード - 評価なし



レーティングモード - 4つ星評価



ブラウズモード - 4つ星評価



GPS

GPSがアクティブな場合、ビューファインダーの左上角および設定メニューを使用しているときにアイコンが表示されます。コントロール画面がアクティブになると、GPSアイコンが同じくディスプレイに表示されます。

GPSの状態は、3つの異なる方法で表示されます。

点灯アイコン

GPSが位置を取得しました。

点滅アイコン

GPSはまだ位置を取得していません。

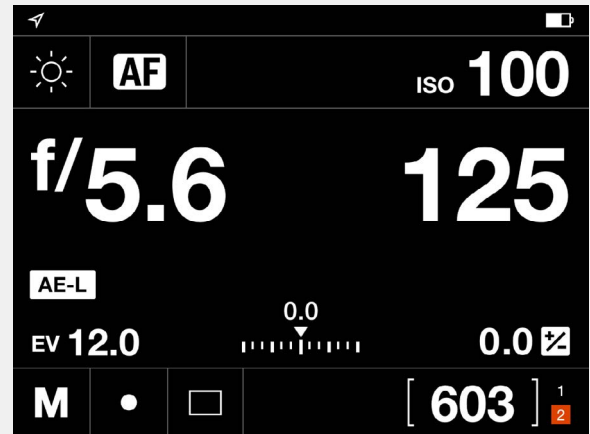
アイコンが表示されない

GPSが**一般設定**→**GPS**メニューでアクティブになっていません。

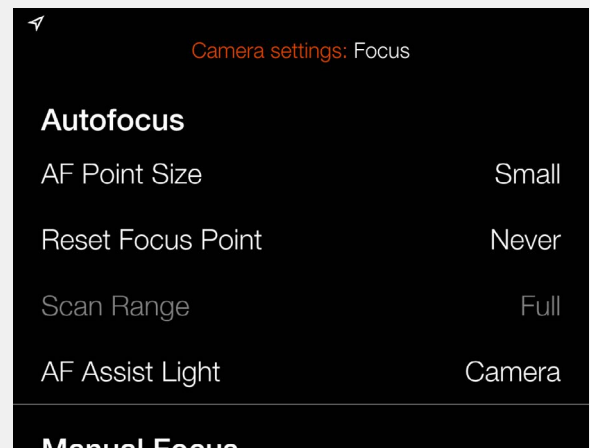
注!

X1D II GPSモジュールが受信できる位置情報が少ない、またはまったくない状況があります。たとえば、X1D IIカメラが屋内、トンネル、さらには大きな木のある森林にある場合です。

コントロール画面のGPSアイコン



設定メニューのGPSアイコン

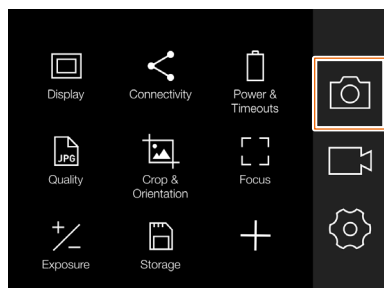


ビューファインダーのGPSアイコン



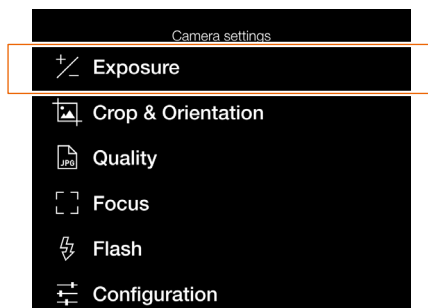
5.1 カメラ設定メニュー

メインメニュー



カメラアイコン

カメラ設定メニュー



露出設定ステップ設定メニュー



メインメニュー→カメラ設定→露出設定ステップ
(メディア露出)

- 1 タッチディスプレイでカメラアイコンを押します。
- 2 「カメラ設定」メニューが表示されます。

右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、
メインメニューに戻ります。

段階設定

メインメニュー→カメラ設定→露出設定ステップ→段階設定

- 1 タッチディスプレイでカメラアイコンを押します。
- 2 「カメラ設定」メニューが表示されます。
- 3 「露出設定ステップ」メニューを押します。

右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

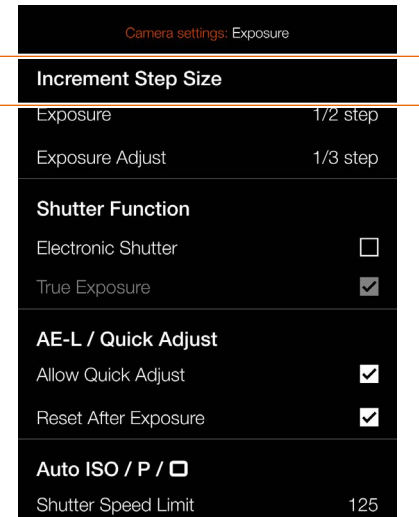
露出段階ステップ

1、1/2、1/3段の増分から選択します。

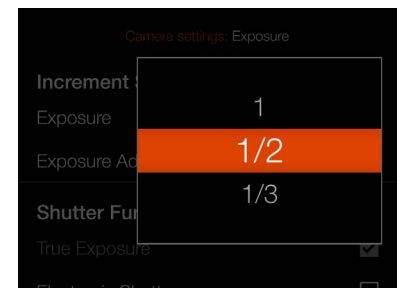
露出補正ステップ

1、1/2、1/3段の増分から選択します。

露出設定ステップ設定メニュー



露出設定ステップ設定



露出補正ステップ設定



シャッター機能設定

メインメニュー→カメラ設定→露出設定ステップ→シャッター機能

- 1 タッチディスプレイでカメラアイコンを押します。
- 2 「カメラ設定」メニューが表示されます。
- 3 「露出設定ステップ」メニューを押します。
- 4 「シャッター機能」を選択します。

右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

電子シャッター

オンまたはオフを選択します。このオプションがチェックされると、カメラはレンズシャッターを無効にし、代わりにセンサーの電子シャッターを使用します。電子シャッターがアクティブな場合、これはライブビューおよびコントロール画面のシャッタースピードの前方にE記号で示されます。

電子シャッターに関する次の制限に注意してください。

- この機能ではカメラはセンサーのローリングシャッターを使用します。センサーの読み出し時間は約300ミリ秒です。これにより、露光中にカメラまたは被写体が動いている場合は画像に歪みが生じます。三脚の使用と静止した被写体をお勧めします。
- ISOは最大3200に制限されます。
- 完全な画像クオリティは保証されません。
- シャッタースピードの範囲は68分から1/10000秒です。
- フラッシュは無効になります。
- 連写は無効になります。
- トゥルーエクスポージャーは無効になります。

トゥルーエクスポージャー

オンまたはオフを選択します。オンの場合チェックボックスには√というマークが表示され、トゥルーエクスポージャーがオフの場合、チェックボックスは空になります。

この設定はトゥルーエクスポージャー機能により、露出が自動的に調整されるかを決定します。オンは調整を許可します。オフは標準設定を保持します。

注!

フラッシュまたはストロボを主光源として1/800秒以上のシャッタースピードを使用する場合（レンズタイプによる）は、トゥルーエクスポージャー機能を必ずオフにしてください。

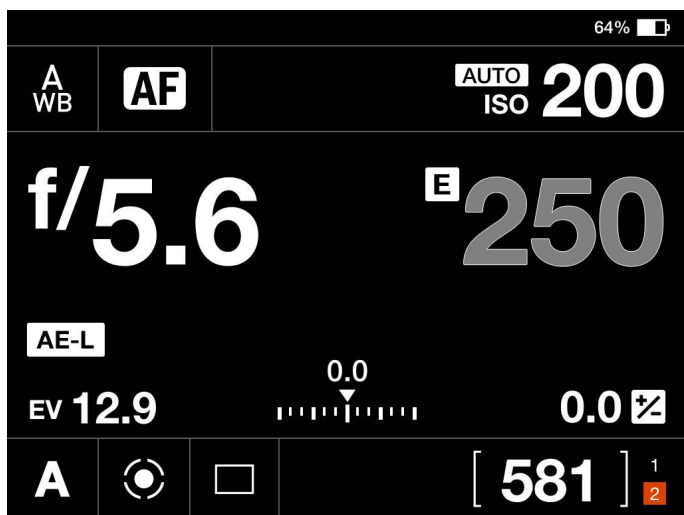
注!

トゥルーエクスポージャー機能は、シャッタースピードが絞り値の影響を受けないように設計されています。次のページをご覧ください。

メディア露出メニュー



電子シャッターがオンの場合のコントロール画面



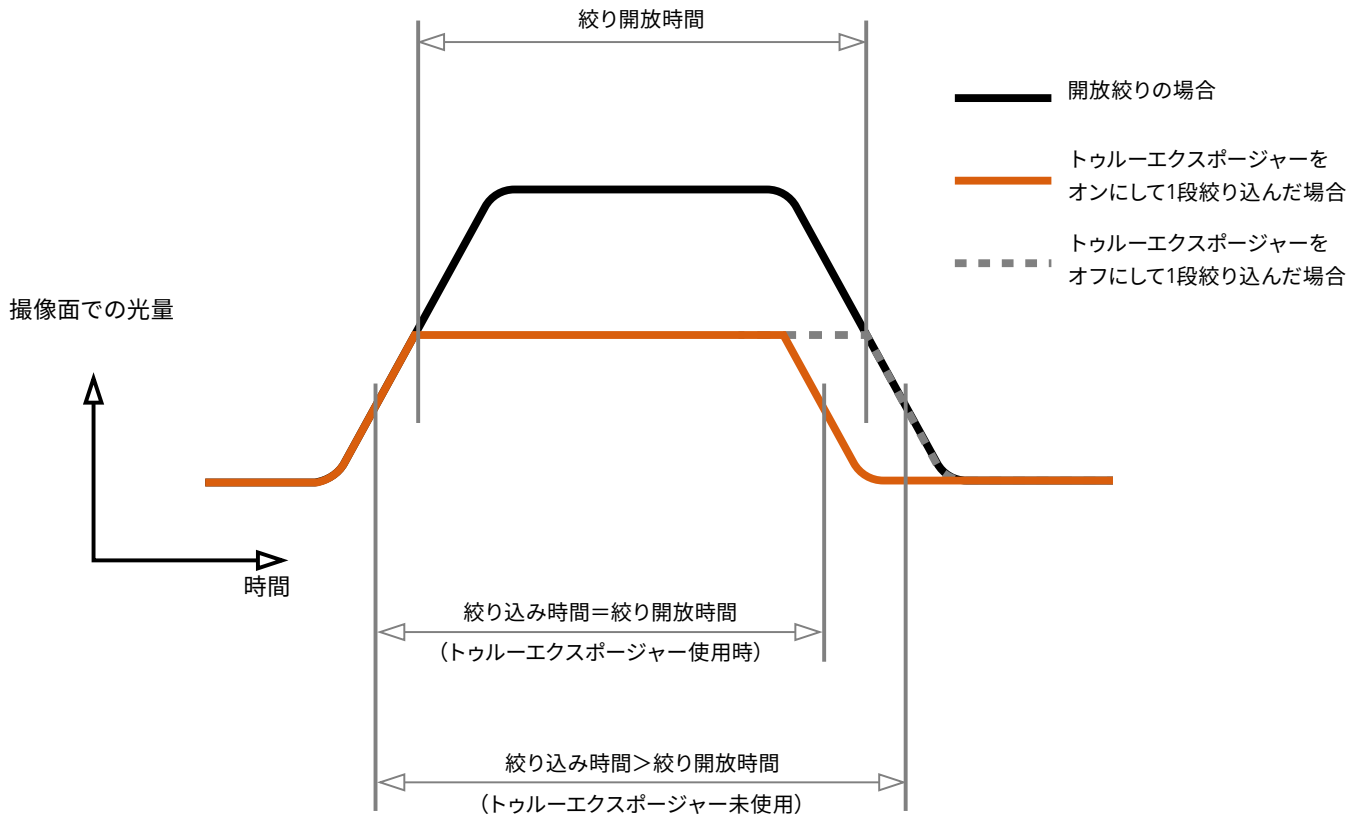
電子シャッターがオンの場合のライブビュー画面



注!

電子シャッターがオンの場合、これはライブビューおよびコントロール画面のシャッタースピードの前方にE記号で示されます。

トゥルーエクスポージャーの説明



トゥルーエクスポージャーは、XCDとHC/HCDレンズの機能で、絞り込み時にシャッタースピードが影響を受けないようにするための機能です。この効果は、フォーカルプレーンシャッターではなく、特に組み込み型レンズシャッターに限定されるため、おそらくあまりよく理解されていないかもしれません。

レンズが絞り込まれると、有効シャッタースピードが長くなり、したがって設定された露出に影響します。シャッタースピードが遅いときは、この影響はわずかなものですが、高速（たとえば、1/500秒）になるとはっきりと効果が確認できるようになります。速度の設定に自動補正が適用されます。

補正は速度を調整できる場合に限られるため、最高シャッタースピードを選択していると調整されません。この場合、設定された露出を保持するために、絞りによって補正が行われます。この機能による補正は必ずしも必要ではなく、フラッシュやストロボを主光源

として使用する場合、結果的に補正によって露出アンダーになる場合があるため、あまり望ましくありません。そのため、主光源としてフラッシュ/ストロボを使用する場合は、カメラのディスプレイでトゥルーエクスポージャー（メインメニュー→カメラ設定→露出段階ステップ→トゥルーエクスポージャー）をオフにします。

これについての詳細な説明は、www.hasselblad.comからダウンロードできます。

AEロック/クイックアジャスト

メインメニュー→カメラ設定→露出段階ステップ→AEロック/クイックアジャスト

- 1 タッチディスプレイでカメラアイコンを押します。
- 2 「カメラ設定」メニューが表示されます。
- 3 「露出設定ステップ」メニューを押します。
- 4 「AEロック/クイックアジャスト」が表示されるまで下にスクロールします。

右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

クイックアジャストの使用

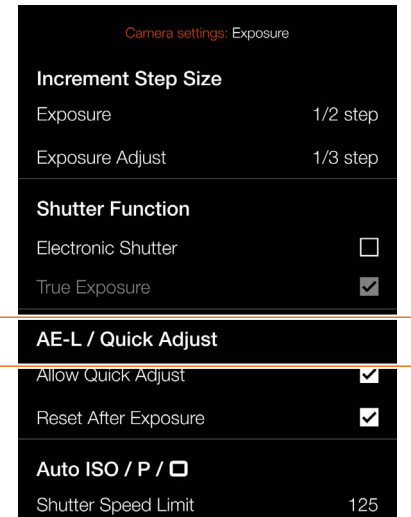
オンまたはオフを選択します。オンの場合チェックボックスには✓というマークが表示され、オフの場合、チェックボックスは空になります。

チェックボックスがオンの場合、リアコントロールホイールを使用して露出補正のクイックアジャストを使用できます。

露出後リセットする

露出によってクイックアジャストとAEロック状態をリセットするかどうかを制御します。

露出設定ステップメニュー



オートISO/P/フルオート

メインメニュー→カメラ設定→露出設定ステップ→Auto ISO/P/□

- 1 タッチディスプレイでカメラアイコンを押します。
- 2 「カメラ設定」メニューが表示されます。
- 3 「露出設定ステップ」設定メニューを押します。
- 4 「Auto ISO/P/□」に来るまで下にスクロールします

右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

シャッター速度範囲

シャッター速度範囲の制限は、直接の値としてまたは焦点距離に対しての機能として設定できます。右の図をご覧ください。

オートISO時：ISOが増加されない最も遅いシャッタースピードを設定します。

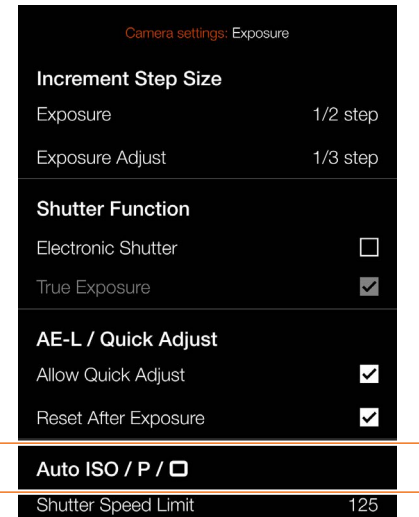
Pモード時：計算されたシャッタースピードが設定値よりも遅い場合、シャッタースピードの代わりに絞り値が変更されます。

フルオート：計算されたシャッタースピードが設定値よりも遅い場合、シャッタースピードの代わりに絞り値が変更されます。

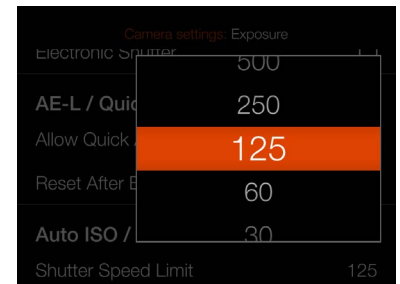
注!

場合によっては、シャッター速度が制限範囲を超えることがあります。たとえば、Aモードを使用していて、最大ISO制限にすでに達し、十分な光量がない場合、適切な露出を得るための最後の手段としてシャッター速度が制限範囲を超えます。

露出設定ステップメニュー

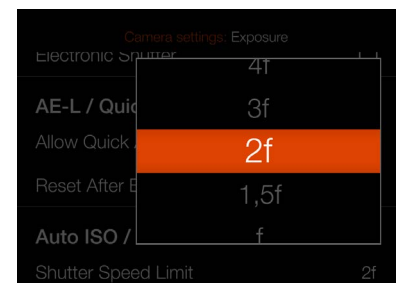


シャッター速度値設定



シャッター速度制限は次のように設定されます。
1/125秒

焦点距離の関数としてのシャッター速度範囲設定。



例えばこの設定と45mmレンズでは、シャッター速度制限は次のようになります。

$$1 / (2 \times 45) = 1/90 \text{ 秒}$$

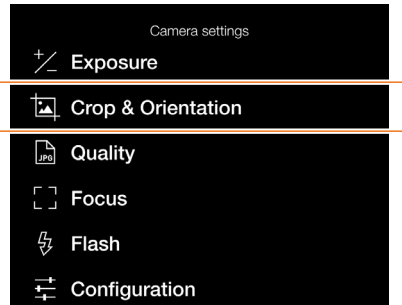
クロップと回転

メインメニュー→カメラ設定→クロップと回転

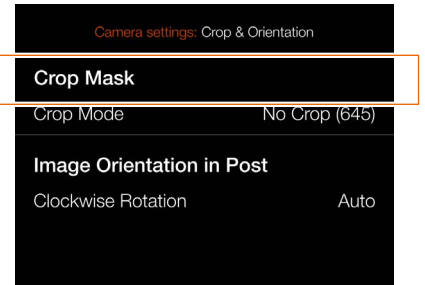
- 1 タッチディスプレイでカメラアイコンを押します。
- 2 「カメラ設定」メニューが表示されます。
- 3 「クロップと回転」メニューを押します。

右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

カメラ設定メニュー



クロップと回転メニュー



クロップマスク

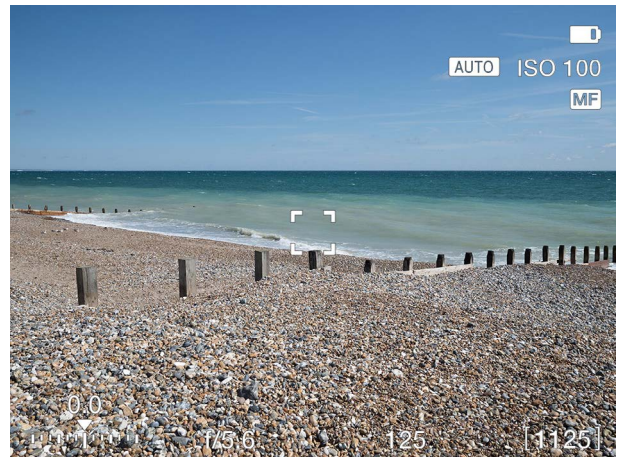
ライブビューおよびRAWファイルにクロップマスクが追加されます。Phocusにインポートされた時点で、クロップマスクは変更または削除が可能です。

クロップモード設定:

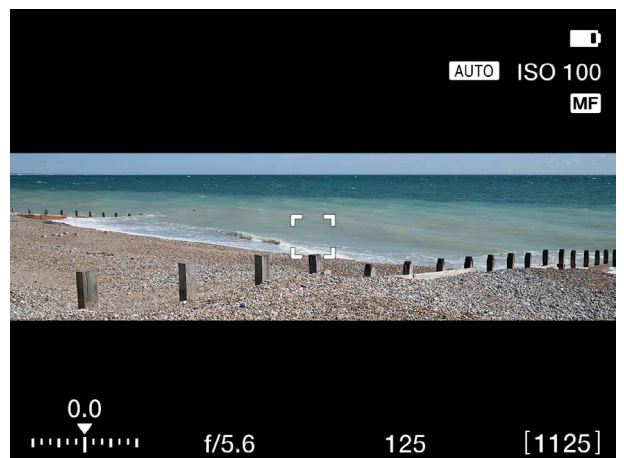
クロップなし (645)

- 1:1 (6×6)
- 7:6 (6×7)
- 5:4 (4×5)
- 11:8.5 (Letter)
- 297:210 (A4)
- 3:2 (6×9)
- 3:2クロップ (24×36)。下記の注を参照してください。
- 16:9 (スクリーン)
- 2:1 (6×12)
- 65:24 (XPan)

ライブビュー クロップなし



ライブビュー 65x24 (XPan)



注!

- JPGファイルはクロップされません。
- クロップモードは、USBテザー撮影モードでは無効になります。
- Phocus Mobileでは、クロップモードはサポートされていません。
- カスタムボタンに「クロップモードに進む」または「クロップモードに戻る」を割り当てることができます。これにより、クロップ形式をすばやく選択できます。割り当てたボタンを長押しすると、「クロップなし」に戻ります。127 ページを参照してください。
- ボタンが「クロップモードに進む」または「クロップモードに戻る」にプログラムされている場合、3:2クロップ (24×36) は、電子シャッターに設定され、XCDまたはHC / HCD以外のレンズを使用している場合にのみ選択できます。24x36mmフォーマット用に設計された他社製レンズを使用する場合に便利です。

次ページに続きます。

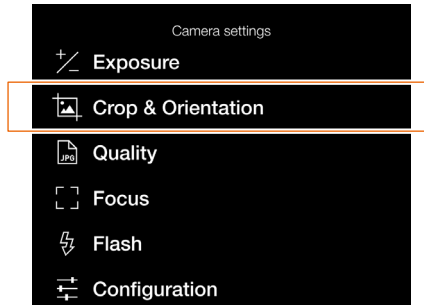
画像の向き

メインメニュー→カメラ設定→クロップと回転

- 1 タッチディスプレイでカメラアイコンを押します。
- 2 「カメラ設定」メニューが表示されます。
- 3 「クロップと回転」メニューを押します。

右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

カメラ設定メニュー



クロップと回転メニュー



ポスト時の画像方向

Phocusに取り込んだ時の画像の表示角度を設定します。カメラを真上または真下に向けた時に意図しない角度に設定されないように、角度の設定をロックできます。

時計回りの回転設定：

- オート。
- 0度でロック。
- 90度でロック。
- 180度でロック。
- 270度でロック。

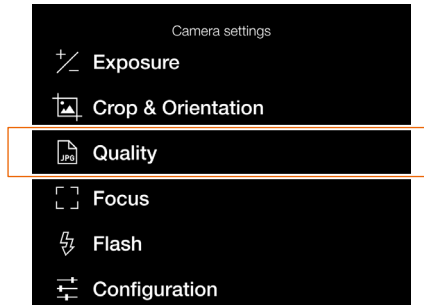
5.2 画像クオリティ設定

メインメニュー→カメラ設定→クオリティ

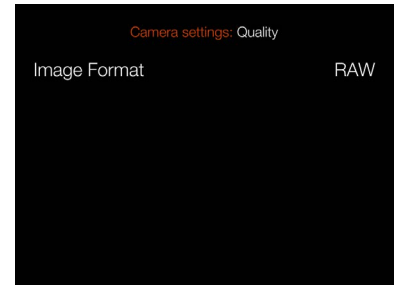
- 1 タッチディスプレイでカメラアイコンを選択します。
- 2 「カメラ設定」メニューが表示されます。
- 3 「クオリティ」メニューを押します。

右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

カメラ設定メニュー



クオリティメニュー



画像のフォーマット設定

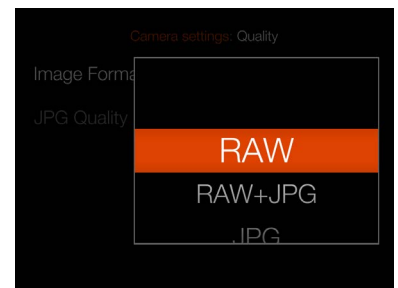
RAW
RAW+JPG

JPG

注!

JPGファイルのサイズは、被写体とISO設定によって異なります。多くのディテールを含んだ被写体や高いISOでの撮影は、よりサイズの大きいファイルとなります。

画像フォーマット設定メニュー



5.3 カメラオートフォーカス設定

メインメニュー→カメラ設定→フォーカス

- 1 タッチディスプレイでカメラアイコンを選択します。
- 2 「カメラ設定」メニューが表示されます。
- 3 「フォーカス設定」メニューを押します。

右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

オートフォーカス

AFポイントサイズの設定

AF測定に使用するエリアのサイズを選択します。以下の中から選択できます。

- 大 (35点)
- 中 (63点)
- 小 (117点)

サイズ変更方法については90ページも参照してください。

AFポイントリセット設定

次の2つの設定のいずれかを選択します。

- 露出後
- 使用しない

オートフォーカスポイントは、1カットごとに中心位置にリセットできます。オートフォーカスポイントを特定の位置に維持する必要がある場合は、「使用しない」を選択します。

詳細については120ページの「オートフォーカスポイントを移動する」セクションを参照してください。

スキャン範囲設定

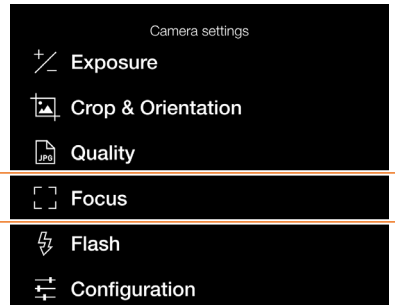
この機能をサポートするレンズ (XCD 120マクロまたはXCD 135など) を使用する場合は、次のいずれかを選択できます。

- 近い
- 遠い
- フル

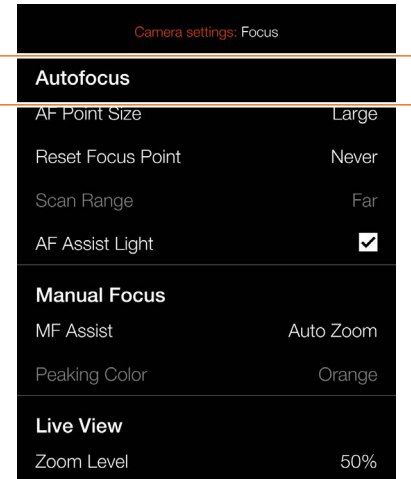
これらの設定により、AFモードでスキャンするフォーカススキャン範囲が制限されます。「近い」または「遠い」を選択すると、AFの速度が速くなります。

次ページに続きます。

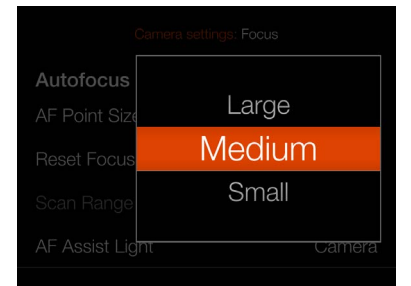
カメラ設定メニュー



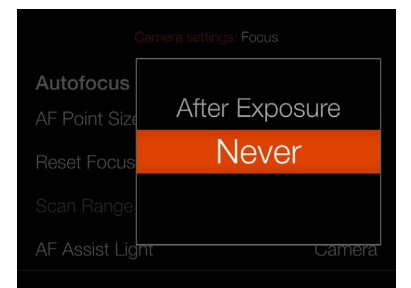
フォーカスメニュー



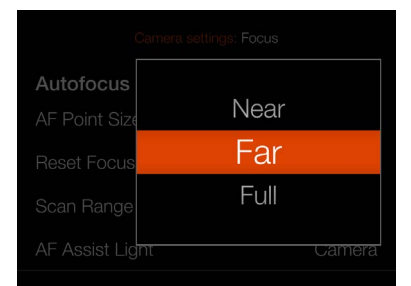
AFポイントサイズの設定



フォーカスポイントリセットの設定



スキャン範囲の設定



注!

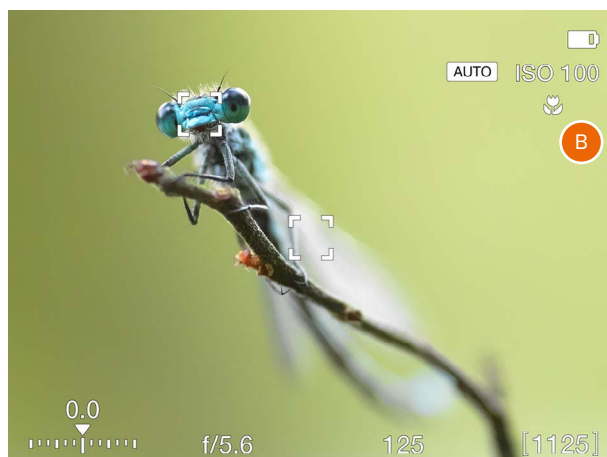
カスタムボタンを設定して、スキャン範囲の選択を割り当てることができます。

「遠い」アイコン **(A)** はスキャン範囲「遠い」を選択すると表示されます。「近い」を選択すると、「近い」アイコン **(B)** が表示されます。

「遠い」設定が選択されている場合のライブビュー



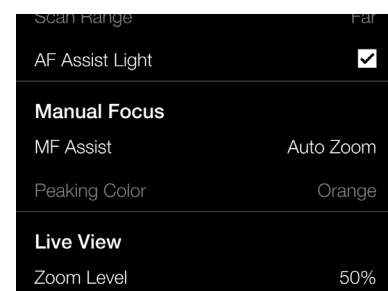
「近い」設定が選択されている場合のライブビュー



AF補助照明の設定

低照度の状況でのAFを支援する内蔵LEDのオン/オフ。

AF補助照明の設定



メインメニュー→カメラ設定→フォーカス

- 1 タッチディスプレイでカメラアイコンを選択します。
- 2 「カメラ設定」メニューが表示されます。
- 3 「フォーカス設定」メニューを押します。

右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

マニュアルフォーカス

MFアシスト設定

マニュアルフォーカスアシスト機能を選択します。以下の中から選択：

フォーカスピーキング

88ページを参照してください。

オートズーム

フォーカスリングを回すと、ライブビュー画像が50%または100%に拡大されます。87ページを参照してください。

設定なし

マニュアルフォーカスアシストはオフになります。

ピーキングカラー設定

表示されるフォーカスピーキングの色を選択します。以下の中から選択できます。

オレンジ
イエロー
シアン
マゼンタ

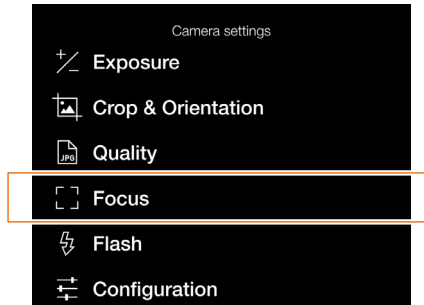
ライブビュー

ズームレベル

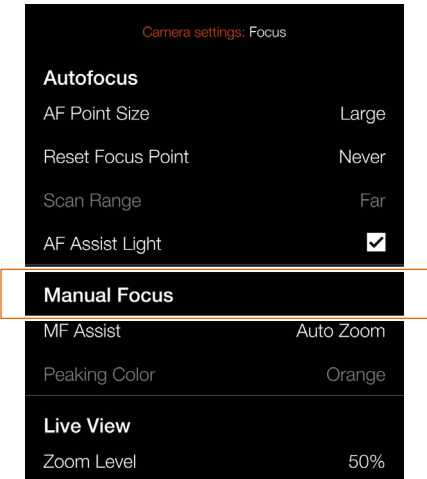
50%または**100%**のどちらかを選択します。

画面をダブルタップしたとき、ライブビュー時に☆ボタンを押したとき、またはマニュアルフォーカスでオートズーム機能を使用したときの拡大率を選択します。

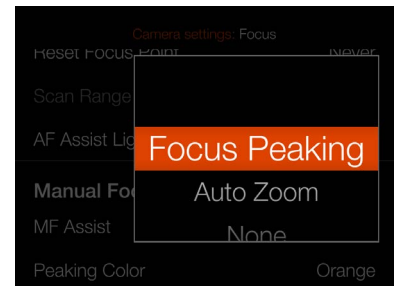
カメラ設定メニュー



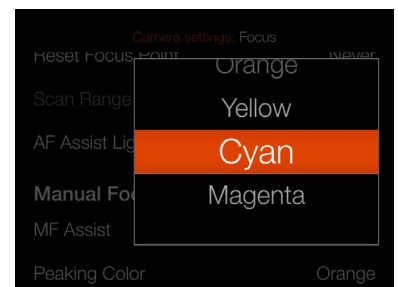
フォーカスメニュー



MFアシストの設定



フォーカスピーキングカラーの設定



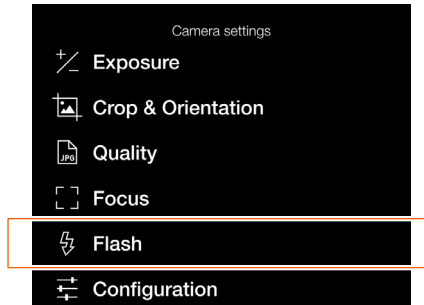
5.4 カメラのフラッシュ設定

メインメニュー→カメラ設定→フラッシュ

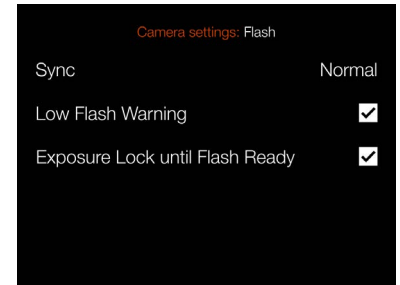
- 1 タッチディスプレイでカメラアイコンを選択します。
- 2 「カメラ設定」メニューが表示されます。
- 3 「フラッシュ設定」メニューを押します

右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

カメラ設定メニュー



フラッシュメニュー



同期 (シンクロ) 設定

露光の開始時または終了時にフラッシュをトリガーするかどうかを設定します。以下から選択します。

標準 (露出の開始時)

リア (露出の終了時)

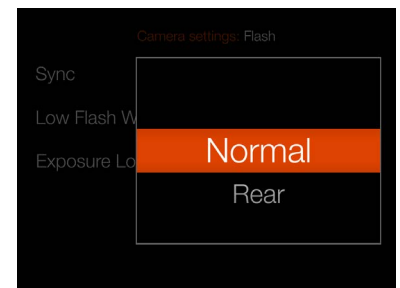
ローフラッシュ警告設定

フラッシュで行われた撮影の露出不足で警告メッセージを生成するかどうかを設定します。

フラッシュ発光可能まで露出をロック設定

フラッシュの準備ができていない場合にシャッターを切れるかを設定します。

同期設定



5.5 カメラ機器構成の設定

メインメニュー→カメラ設定→機器構成

- 1 タッチディスプレイでカメラアイコンを選択します。
- 2 「カメラ設定」メニューが表示されます。
- 3 「機器構成」メニューを押します。

右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

オートISOの限界

最大設定

オートISO時の最大許容ISO感度を設定します。

最小設定

オートISO機能の最小許容ISO感度を設定します。

レンズ

最大絞り設定

レンズの開放絞り値を選択した際、円形絞子を使用するかどうかを選択します。円形絞子は、フォーカスが合っていない領域をより滑らかに見せます。一部のレンズ、たとえばXCD 90では、これにより非常にわずかな露出オーバーが発生する可能性があります。

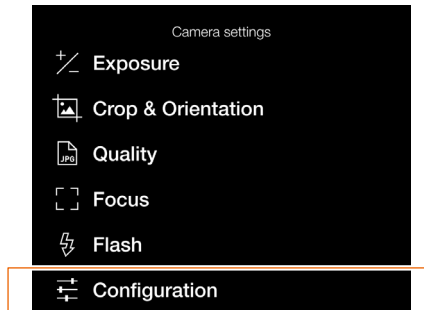
標準

標準の設定。内面反射のリスクを最小限に抑えます。

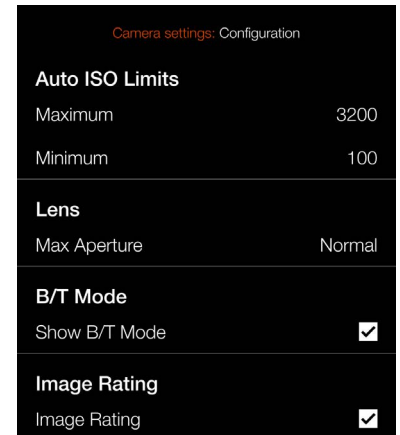
フル

絞りが完全に開かれた円形絞子を選択します。XCDレンズ使用時のみ設定可能。

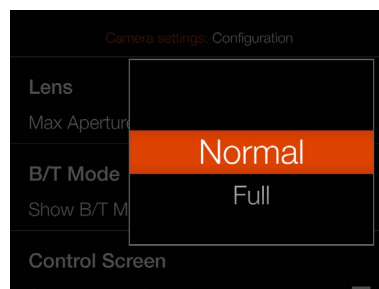
カメラ設定メニュー



機器構成メニュー



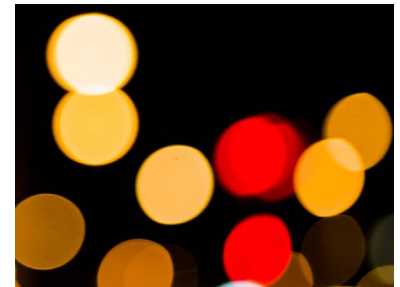
最大絞り設定メニュー



画像の詳細：「標準」設定



画像の詳細：「フル」設定



次ページに続きます。



B/Tモード

B/Tモードを表示する設定

このボックスが選択されている場合、シャッター速度のリスト内でBおよびTモードを使用できます。

画像の評価付け

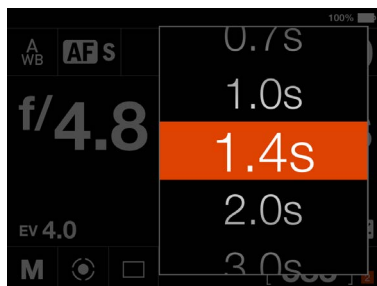
画像のレーティング設定

このボックスが選択されている場合、ブラウズモードで画像をレーティングできます。ページ 101を参照してください。

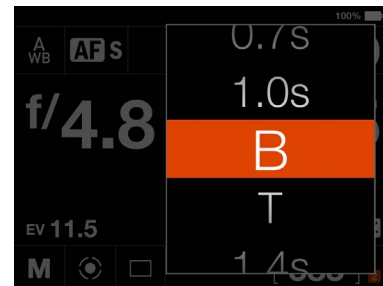
機器構成メニュー

Camera settings: Configuration	
Auto ISO Limits	
Maximum	3200
Minimum	100
Lens	
Max Aperture	Normal
B/T Mode	
Show B/T Mode	☒
Image Rating	
Image Rating	☒

時間設定B&Tは使用不可

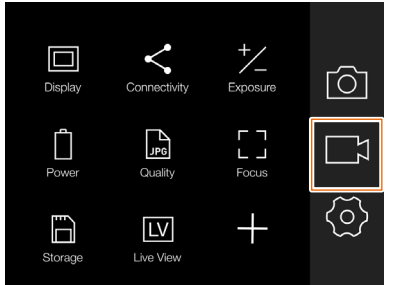


時間設定B&Tは使用可能



5.6 動画設定メニュー

メインメニュー



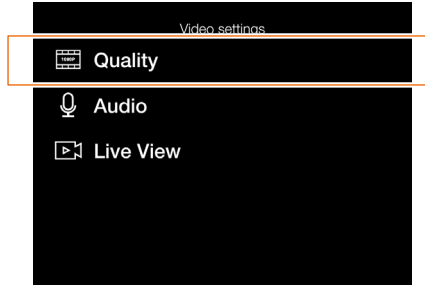
動画アイコン

メインメニュー > 動画設定

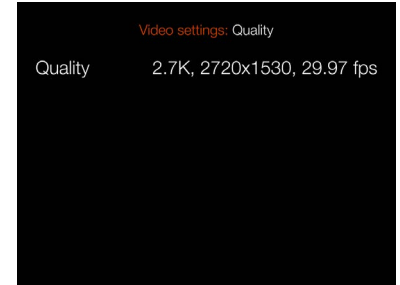
- 1 タッチディスプレイの動画アイコンを押します。
- 2 動画設定メニューが表示されます。
- 3 [動画設定]を選択します。

右にスワイプするか、[メニュー]または[終了]ボタンを押してメインメニューに戻ります。

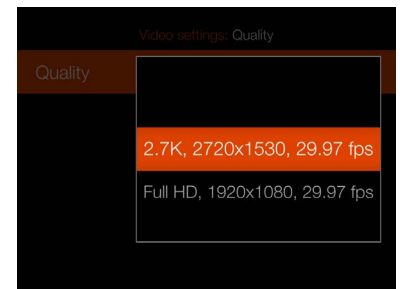
動画設定メニュー



動画クオリティ設定



解像度設定



クオリティ

解像度

以下から選択します。

2.7k (2720 x 1530ピクセル)

フルHD (1920 x 1080ピクセル)

フレームレートは29.97fpsです。

オーディオ

内部。 内部マイクの録音レベルを選択します。

次から選択します。

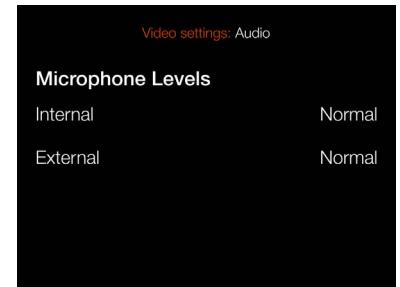
標準、-6 dB、-12 dB、-18 dBまたはミュート。

外部。 外部マイクの録音レベルを選択します。

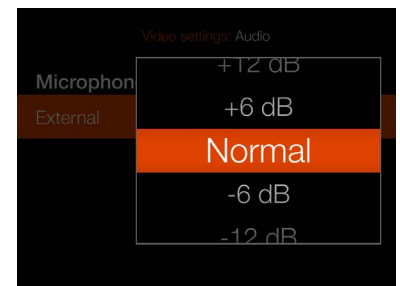
次から選択します。

+12 dB、+6 dB、標準、-6 dB、-12 dB、-18 dBまたはミュート。

オーディオ設定



オーディオレベル設定



ライブビュー

オーバーレイ

動画ライブビュー画面のオーバーレイを選択します。以下から選択します。

設定なし

グリッドやフォーカスピーキングのないライブビュー。

グリッド

動画ライブビュー画面に1/3グリッドを表示します。

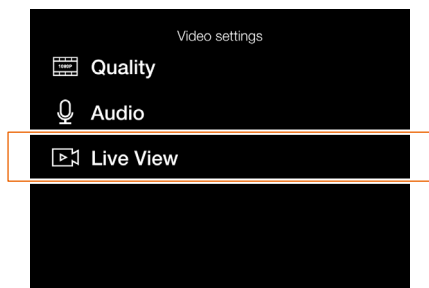
フォーカスピーキング

擬似色を使用してフォーカス内のエリアをハイライト表示します。詳細は、ページ87を参照してください。

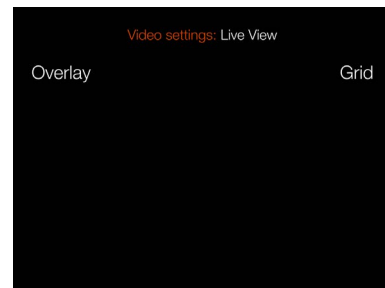
グリッド+フォーカスピーキング

グリッドとフォーカスピーキングを同時に表示します。

ビデオ設定メニュー



ライブビュー設定



オーバーレイ設定



注!

動画ライブビューの状態で、**Q**ボタンを押してオーバーレイを順番に変更することができます。

注!

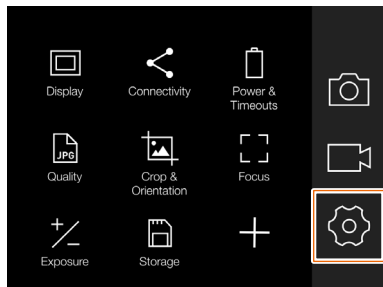
テザー撮影モードでは動画を録画できません。

グリッドが表示された動画ライブビュー画面



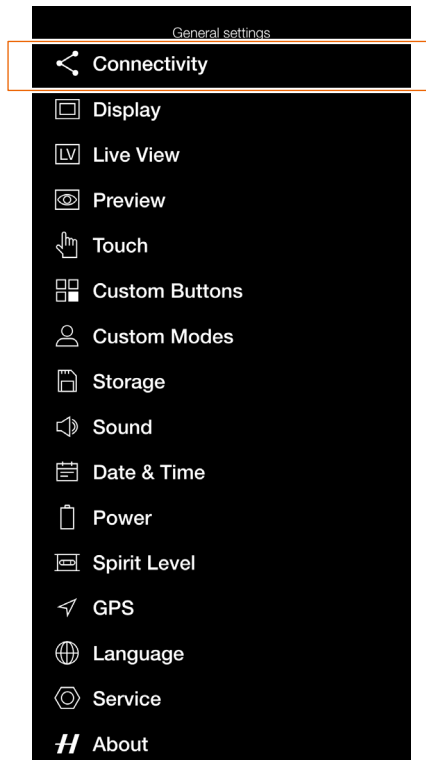
5.7 一般設定メニュー

メインメニュー

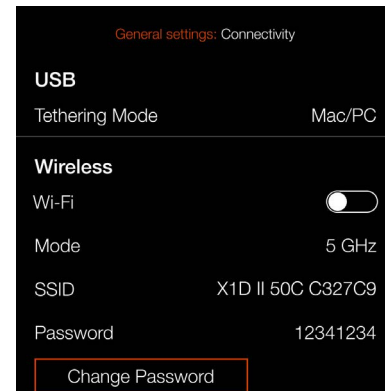


一般設定アイコン

一般設定メニュー



接続設定メニュー



メインメニュー→一般設定

- 1 タッチディスプレイの一般設定アイコンを押します。
- 2 「一般設定」メニューが表示されます。

右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

接続設定

メインメニュー→一般設定→接続

- 1 タッチディスプレイの一般設定アイコンを押します。
- 2 「一般設定」メニューが表示されます。
- 3 「接続」メニューを押します。

右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

USB設定

テザリングモード設定

Mac/PCまたはiOSを選択します。

カメラがUSB経由でiOSデバイスに接続されている場合は、**iOS**を選択します。コンピューターに接続するには **Mac/PC**を選択します。

ワイヤレス設定

Wi-Fi

オンまたはオフを選択します。

モード

2.4GHzか5GHzを選択します。

SSID

ワイヤレスネットワーク上のカメラのID。

パスワード

このパスワードを使用して、Wi-Fi経由でカメラに接続します。

パスワードを変更する

このボタンを押して、新しいパスワードを生成します。

注!

Wi-Fiを有効にすると、ディスプレイタイムアウトは一時的に60秒に増加します。この60秒間のタイムアウト中にユーザーが画面に触れるかボタンを押すと、ディスプレイのタイムアウトは標準値に戻ります。

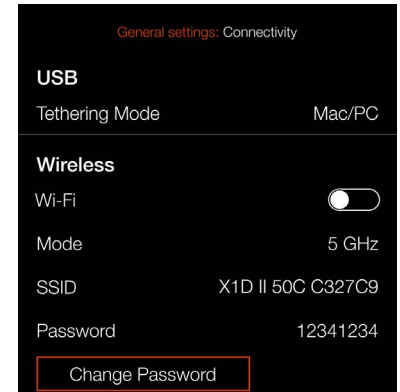
注!

地域によっては5GHzのWi-Fiは使用できません。

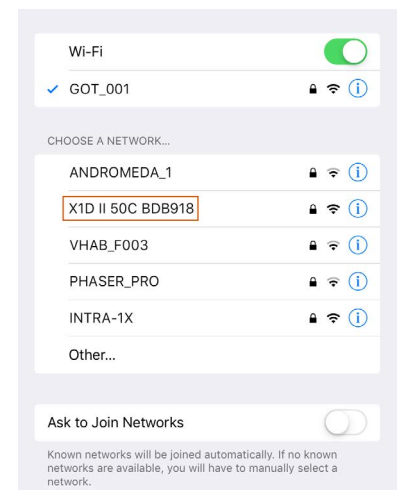
注!

地域によってはWi-Fiは使用できません。

接続設定メニュー

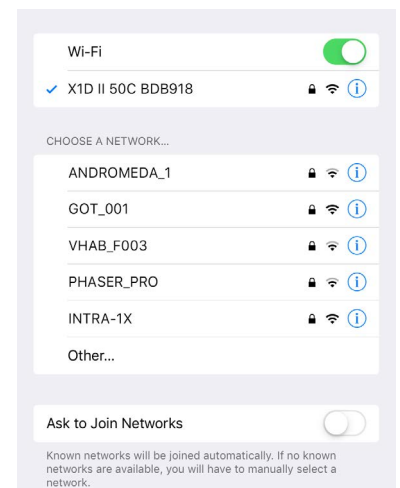


iOS上の Wi-Fiメニュー



四角：カメラSSIDの例

iOS上のWi-Fiメニュー



iOSデバイスにカメラが接続された状態

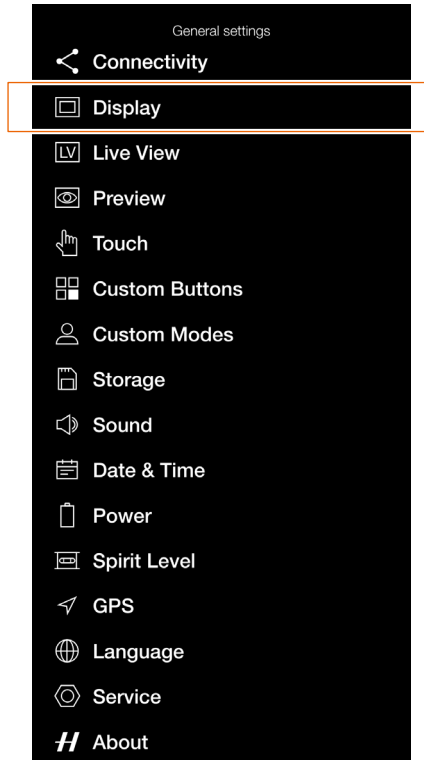
ディスプレイ

メインメニュー > 一般設定 > ディスプレイ

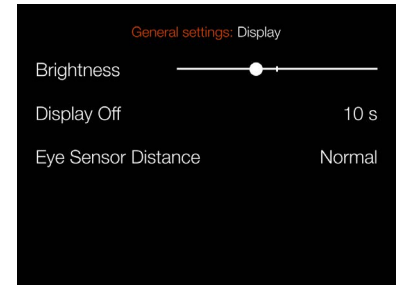
- 1 タッチディスプレイの一般設定アイコンを押します。
- 2 一般設定メニューが表示されます。
- 3 ディスプレイメニューを押します。

右にスワイプするか、[メニュー]または[終了]ボタンを押してメインメニューに戻ります。

一般設定メニュー



ディスプレイ設定メニュー



明るさ

リアディスプレイの全体的な明るさを制御します。白色のドットを左にスワイプすると画面が暗くなり、右にスワイプすると明るくなります。

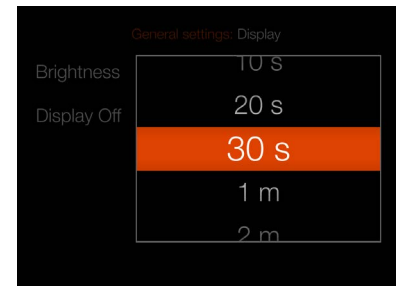
ディスプレイオフ

リアディスプレイをアクティブにする時間を選択します。
以下から選択します。
5秒、10秒、20秒、30秒、1分、2分、3分。

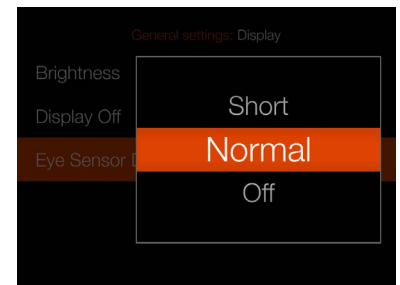
アイセンサーの距離

EVFのアイセンサーの感度を選択します。
以下から選択します。
ショート、標準、おおよびオフ。

ディスプレイオフ設定



アイセンサーの距離設定



ライブビュー

メインメニュー→一般設定→ライブビュー

- 1 タッチディスプレイの一般設定アイコンを押します。
- 2 「一般設定」メニューが表示されます。
- 3 「ライブビュー」メニューを押します。

右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

露出シミュレーション

A/S/P/□ (フルオート)

このボックスがチェックされている場合、ライブビューで最終画像がどのように見えるかをシミュレートします。チェックを外すと、明るさは露出補正の影響を受けません。

M

マニュアルモードで露出シミュレーションを使用するには、このボックスをオンにします。

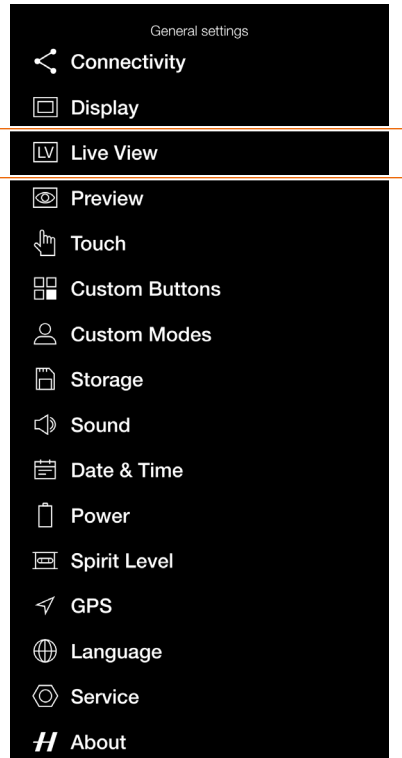
EVFのみ

このボックスをチェックすると、リアディスプレイのライブビューが無効になります。

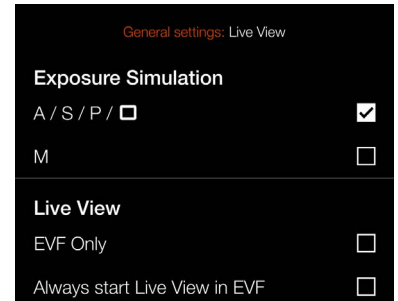
EVFで常にライブビューを開始する

このボックスをチェックすると、EVFに目を近づけたときに常にライブビューが開始されます。チェックを外すと、直前にリアディスプレイに表示されていたのと同じ画面が表示されます。

一般設定メニュー



ライブビュー設定メニュー



注!

カメラでフラッシュを使用すると、露出シミュレーションに正しい結果が表示されません。たとえば、屋内でフラッシュに合わせて絞りとシャッターを設定した場合、通常、露出シミュレーションではライブビューで暗すぎる画像が表示されます。フラッシュで写真を撮り始める前に、露出シミュレーションをオフにすることをお勧めします。

注!

オートフォーカスの動作中は被写体を分析するため、露出シミュレーションが無効になり、オートフォーカスシステムが最適な状態で動作するようになります。オートフォーカスの合焦後、露出シミュレーションが自動的に再びアクティブになります。

注!

露出シミュレーションがアクティブで、露出設定が実際の照明条件に対して非常に露出オーバーまたは非常に露出アンダーに設定されている場合、ライブビューには非常に明るい、または非常に暗い画像が表示されます。極端な場合、それは完全に露出オーバーの白のイメージまたは完全に露出アンダーの黒のイメージになります。このような場合、露出設定を調整しながら、ライブビュー画面左下のメーター表示を使用して、希望の露出に調整できます。

プレビュー

メインメニュー→一般設定→プレビュー

- 1 タッチディスプレイの一般設定アイコンを押します。
- 2 「一般設定」メニューが表示されます。
- 3 「プレビュー」メニューを押します。

右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

EVF

プレビューなし、0.5秒、1秒、2秒、4秒、8秒、または「押す」(表示維持)から選択します。

この選択は、最後の撮影後のプレビューの表示時間を設定します。この機能を無効にするには**プレビューなし**を選択します。「**押す**」はディスプレイが消灯するか、再生以外のボタンを押すまでプレビューの表示を保ちます。

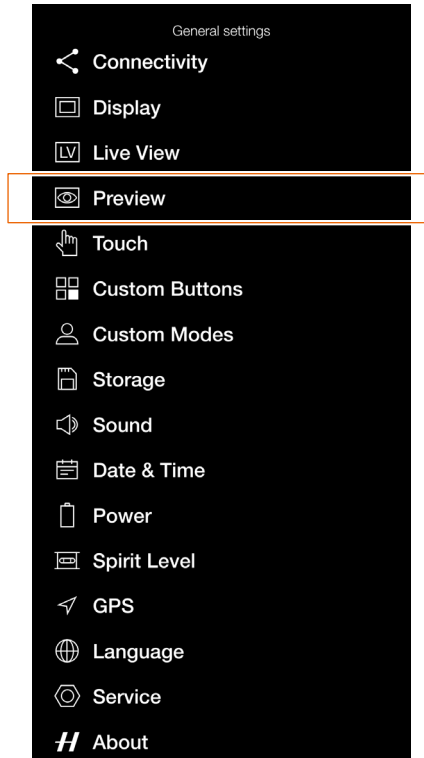
リアスクリーン

このボックスをオンにすると、各露出後にリアディスプレイにプレビューが表示されます。

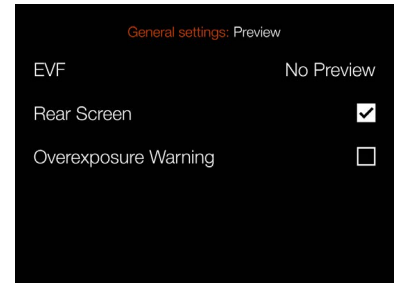
露出オーバー警告

このボックスがチェックされると、プレビュー画像上の露出オーバーに近いエリアが黒と白の点滅で表示されます。

一般設定メニュー



プレビュー設定メニュー



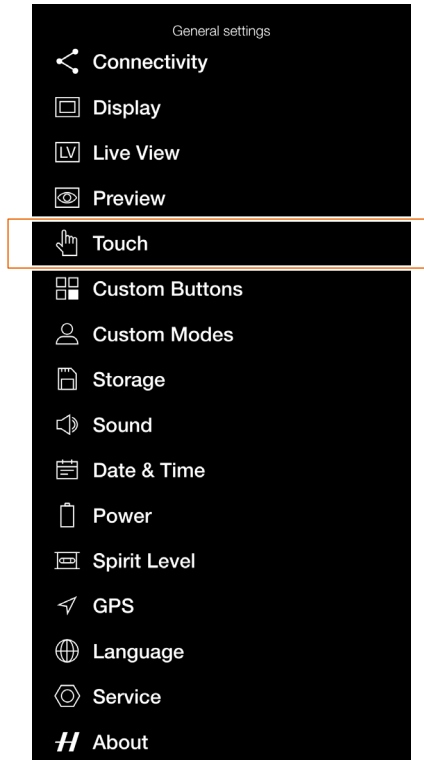
タッチ

メインメニュー→一般設定→タッチ

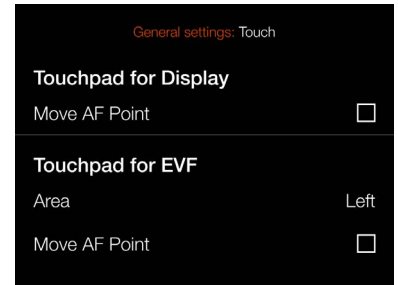
- 1 タッチディスプレイの一般設定アイコンを押します。
- 2 「一般設定」メニューが表示されます。
- 3 「タッチ」メニューを押します。

右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

一般設定メニュー



タッチ設定メニュー



ディスプレイ用タッチディスプレイ

AFポイントの移動

チェックすると、任意の場所をタップすることで、リアディスプレイ上でAFポイントを移動できます。ピンチまたはスプレッド操作によってAFポイントのサイズを変更することもできます。

EVF用タッチディスプレイ

エリア

タッチでのAFポイント選択に使用するリアディスプレイのエリアを選択します。以下の中から選択：

- 画面の左半分 (1)
- 画面の右半分 (2)
- 左上 (3)
- 右上 (4)
- 左下 (5)
- 右下 (6)

AFポイントの移動

チェックすると、EVFを通して見ているときにエリア設定で選択したエリア上で指をスライドさせることでAFポイントを移動できます。



カスタムボタン

メインメニュー > 一般設定 > カスタムボタン

- 1 タッチディスプレイの一般設定アイコンを押します。
- 2 一般設定メニューが表示されます。
- 3 カスタムボタンメニューを押します。

右にスワイプするか、[メニュー]または[終了]ボタンを押してメインメニューに戻ります。

カスタムボタン機能を使用すると、3つのボタンを再プログラムして別の機能にすることにより、頻繁に使用する機能により素早くアクセスできるようにします。

AF/MF

AF/MFボタンの設定

ISO/WB

ISO/WBボタンの設定

ストップダウン

ストップダウンボタンの設定

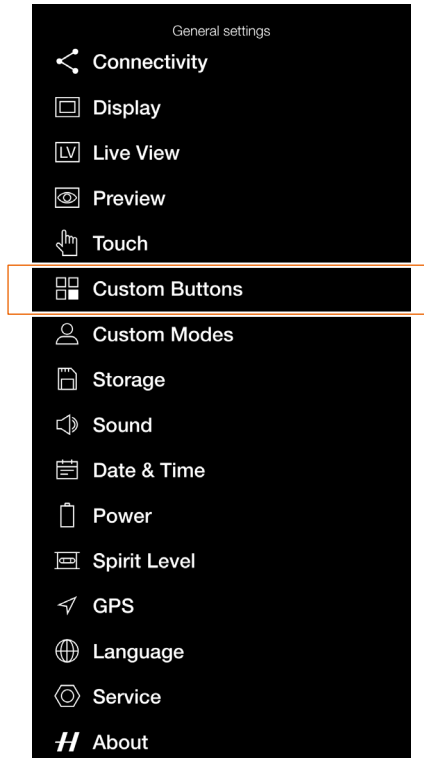
リスト内をスクロールし、必要な機能をタップして選択します。

カスタムボタンをリセット

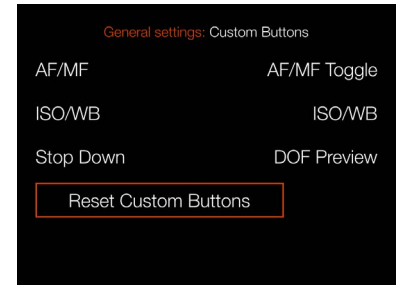
ボタン機能を工場出荷時のデフォルトに復元します。このボタンを押すと、確認ダイアログが表示されます。

長方形ボタンを押すと、設定がデフォルトに復元されます。また、×ボタンを押すと、設定を変更せずに終了します。

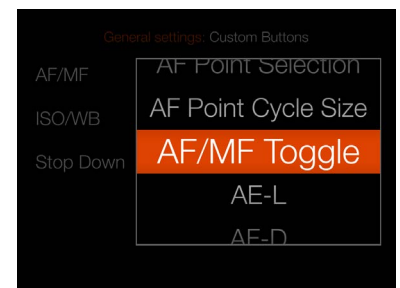
一般設定メニュー



カスタム機能設定メニュー



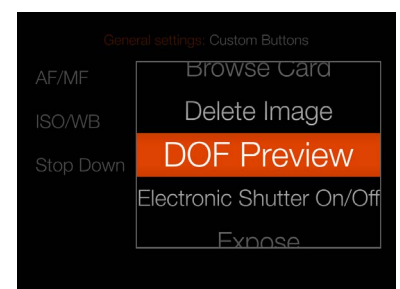
AF/MFボタンの設定



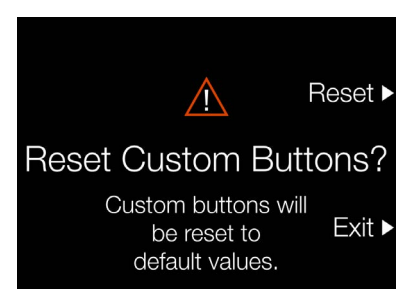
ISO/WBボタンの設定



ストップダウンボタンの設定



カスタムボタンのリセットの確認



カスタムモード

メインメニュー→一般設定→カスタムモード

- 1 タッチディスプレイの一般設定アイコンを押します。
- 2 「一般設定」メニューが表示されます。
- 3 「カスタムモード」メニューを押します。

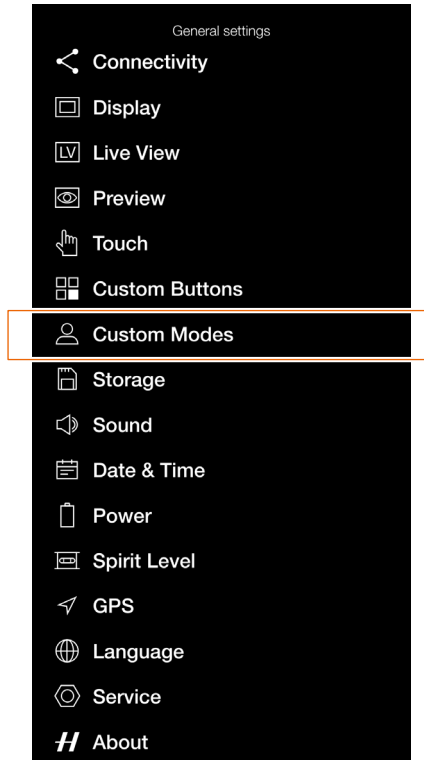
右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

カスタムモード機能は、その時のすべてのカメラ設定を3つの異なったメモリーに保存するために使用されます。さまざまな動作モードに合わせてカメラを事前にプログラムできます。これにより、さまざまな条件での使用を大幅に高速化でき、失敗のリスクも減らすことができます。

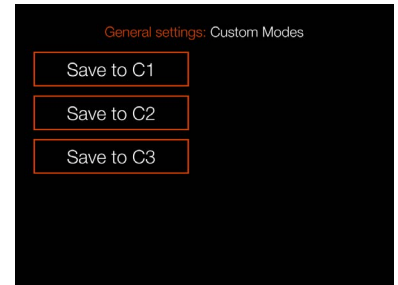
3つのメモリーである**C1**、**C2** そして**C3**はそれぞれモードダイヤル上のモードに対応しています。設定が**C1**に保存されている場合、モードダイヤルを**C1**位置に回すとこれらの設定をすぐに呼び出せます。

カメラの現在の設定をいずれかのメモリーに保存するには、対応するボタンをタップします。このメモリー内の以前の設定はすべて上書きされます。確認ダイアログで「保存」または「終了」を選択できます。

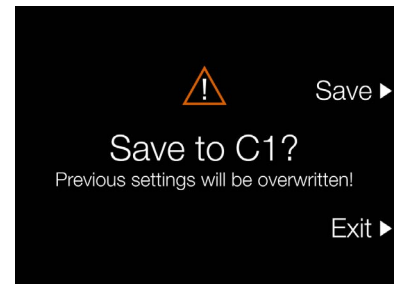
一般設定メニュー



カスタムモード設定メニュー



カスタムモードの確認ダイアログ



ストレージ

メインメニュー→一般設定→ストレージ

- 1 タッチディスプレイの一般設定アイコンを押します。
- 2 「一般設定」メニューが表示されます。
- 3 「ストレージ」メニューを押します。

右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

ストレージメニュー設定

カードのフォーマット

SD 1をフォーマットまたはSD 2をフォーマットします。

画像の保存先

ーメインスロット:

SD 1またはSD 2。

サブスロットストレージ

オーバーフローまたはバックアップ
(画像)

自動切換を選択すると、メインのカードがフルになると、自動的にサブのカードに切り換わります。

バックアップを選択すると、画像を両方のカードに保存します (RAWおよびRAW+JPG)。動画ファイルはバックアップされません。

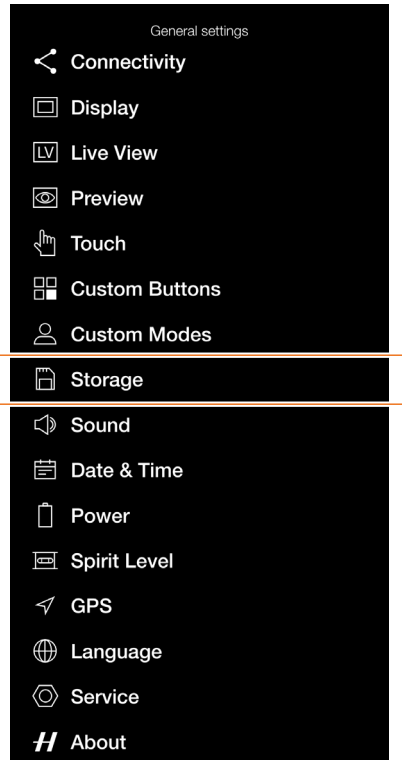
メモリーカードをフォーマットする方法

- 1 ストレージメニューで、フォーマットするカード、SD1またはSD2を選択します。
- 2 「カードのフォーマット」新規ダイアログが表示されます。
- 3 確定するには、☐ボタンを押して「フォーマット」を選択します。
- 4 ×ボタンを押せば、フォーマットせずに終了します。

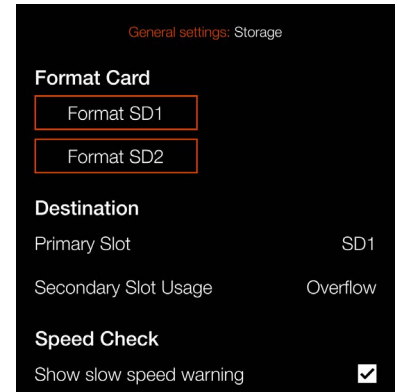
注!

「バックアップ」が選択され、2枚目のカードが挿入されていない場合、カメラは撮影がロックされます。撮影しようすると、メッセージが表示されます。コントロール画面には、残りのフレーム数ではなく、バックアップが見つからないというアイコンが表示されます。

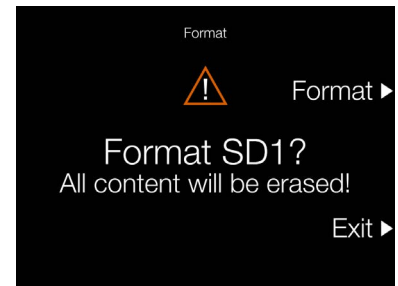
一般設定メニュー



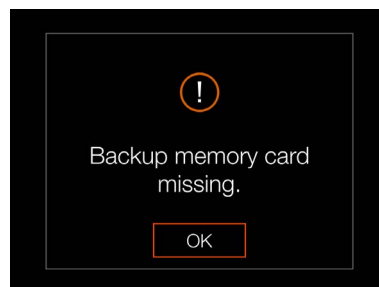
ストレージ設定メニュー



「SD1フォーマット」ダイアログ



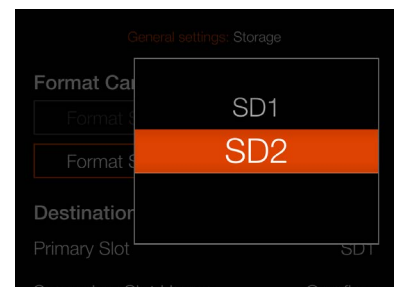
メッセージ



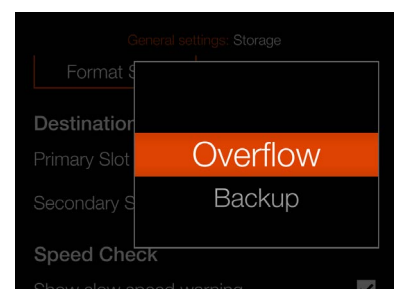
バックアップカードが無い場合のコントロール画面



「画像保存先」ダイアログ



「サブスロットストレージ」ダイアログ



サウンド

メインメニュー→一般設定→サウンド

- 1 タッチディスプレイの一般設定アイコンを押します。
- 2 「一般設定」メニューが表示されます。
- 3 「サウンド」メニューを押します。

右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

音量

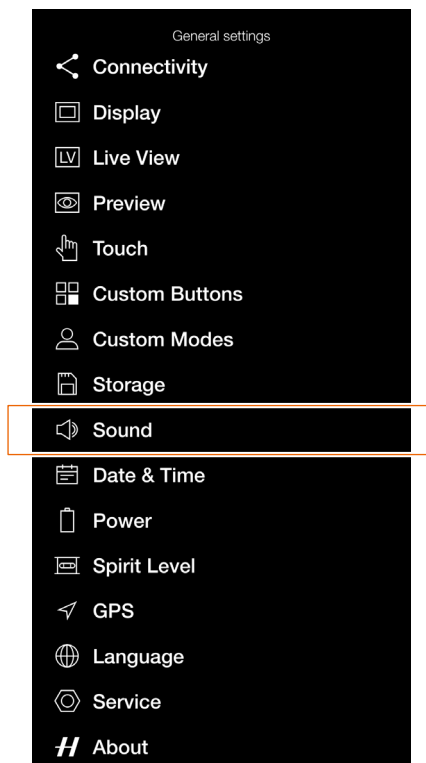
以下の中から選択：

オフ、低、中、高

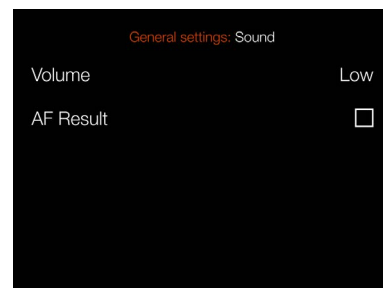
AFの結果

このボックスをチェックすると、AF完了時にサウンドが鳴り知らせます。AFが合焦した場合と失敗した場合ではカメラから再生されるサウンドは異なります。

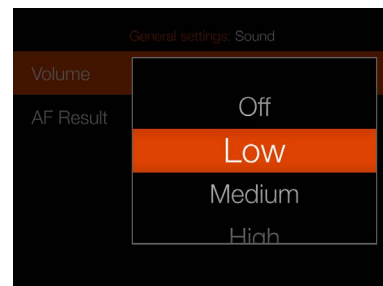
一般設定メニュー



サウンド設定メニュー



音量設定メニュー



日付と時間

メインメニュー→一般設定→日付と時間

- 1 タッチディスプレイの一般設定アイコンを押します。
- 2 「一般設定」メニューが表示されます。
- 3 「日付と時間」メニューを押します。

右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

日付と時刻メニュー設定

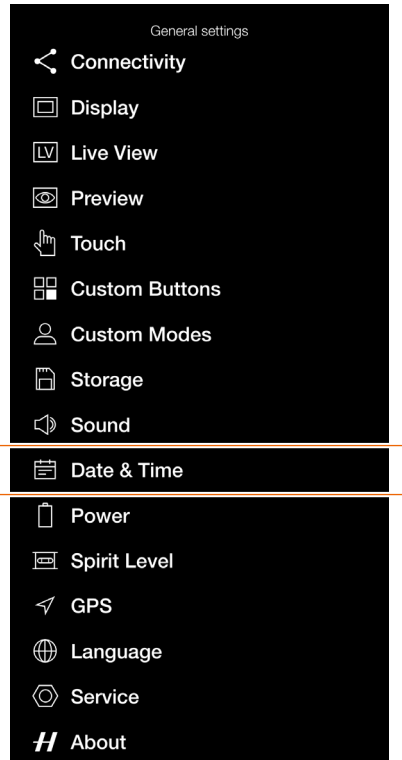
日付

ポップアップメニューを使用して年・月・日を変更して日付を設定します。

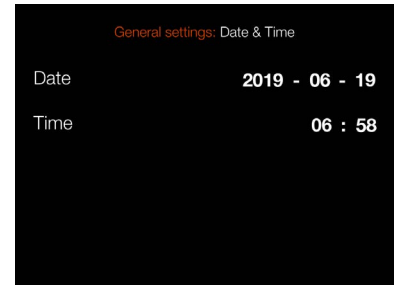
時刻

ポップアップメニューを使用して時間と分を変更して時刻を設定します。

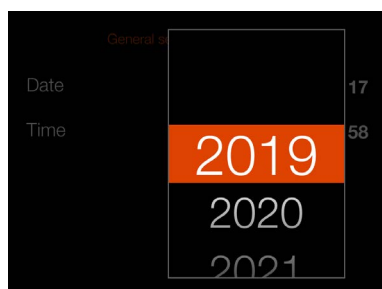
一般設定メニュー



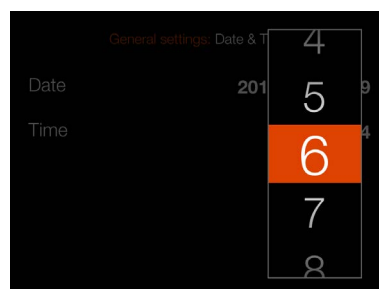
日付と時間メニュー



年の設定



月の設定



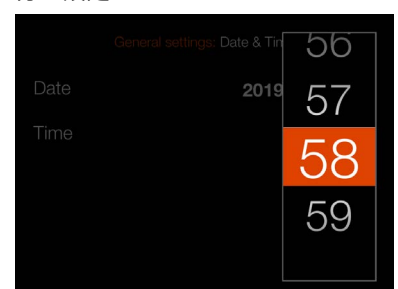
日の設定



時の設定



分の設定



電力

メインメニュー→一般設定→パワー

- 1 タッチディスプレイの一般設定アイコンを押します。
- 2 「一般設定」メニューが表示されます。
- 3 「パワー」メニューを押します。

右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

電力設定

パワーオフ

カメラが自動的にオフになるまでの時間を設定します。

以下の中から選択：

5分、10分、30分、使用しない。

テザリング時の電源オフ

コンピューターに接続したときにカメラが自動的にオフになるまでの時間を設定します。

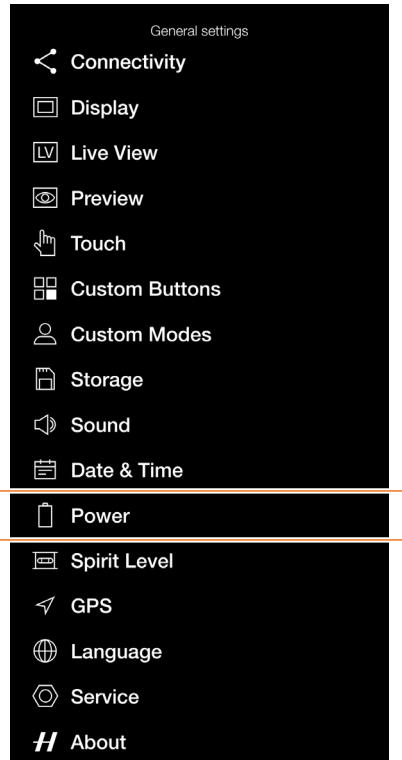
以下の中から選択：

5分、10分、30分、使用しない。

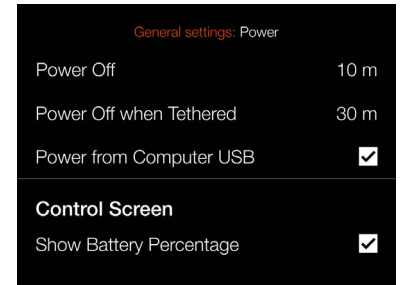
パソコンのUSBから電源供給

チェックすると、USBデバイスからカメラに電源が供給されるようになります。これは、コントロール画面とライブビュー画面のバッテリーの横にあるシンボル **(A)** で表示されます。

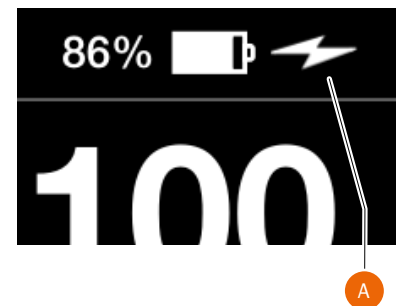
一般設定メニュー



パワー設定メニュー



USB電源接続時の表示



制御スクリーン

「バッテリーパーセンテージを表示する」設定

このボックスがチェックされている場合、バッテリー充電レベルの概算値がパーセントでバッテリーアイコンの横に表示されます。

注!

USBからカメラへの電源は部分的に供給されるだけです。充電済みのカメラバッテリーはこの場合でも必要です。

注!

USBホストデバイスからの電源のみに対応しています。

バッテリーのパーセント値は表示されていません



バッテリーのパーセント値が表示されます



水準器

メインメニュー→一般設定→水準器

カメラには加速度計が搭載されています。加速度計は、水平軸 (A) と垂直軸 (B) に対するカメラの傾きの測定に使用されます。

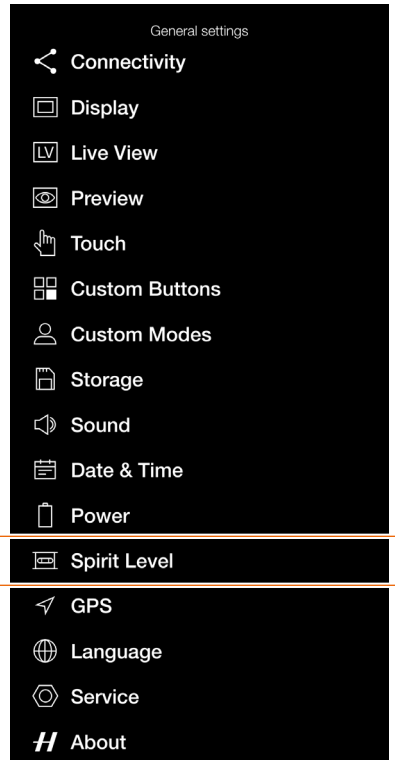
水準器に従ってカメラを配置する方法

- 1 タッチディスプレイの一般設定アイコンを押します。
- 2 「一般設定」メニューが表示されます。
- 3 「水準器」メニューを押します。
- 4 白塗りの丸が中心に来て緑になるまで、カメラの左右および上下の傾きを調整します。

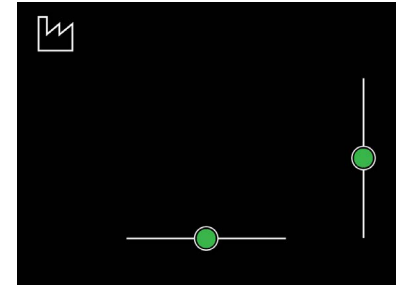
注!

ライブビュー中水準器をオーバーレイ表示するには□ボタンを押し表示を切り替えます。

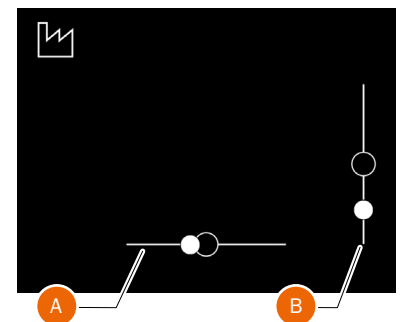
一般設定メニュー



カメラが水平、垂直なときの水準器



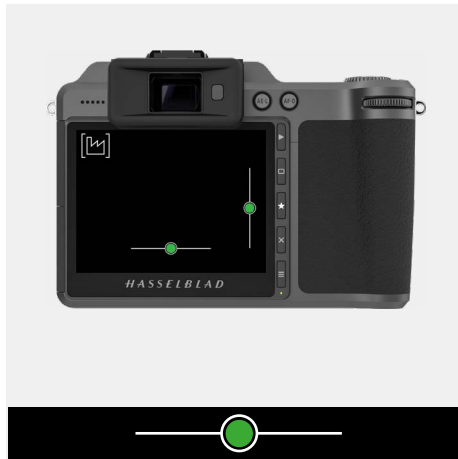
カメラが右に少し、下にさらに傾いているときの水準器。



カメラが左に傾いている。



カメラが水平および垂直に適正に配置されている。



カメラが右に傾いている。



カメラが上に傾いている。



カメラが縦方向に適正に配置されている。



カメラは下に傾いている。



水準器のキャリブレーション

メインメニュー→一般設定→水準器

水準器は工場出荷時モードまたはユーザーモードに設定できます。ユーザーモードでは、水準器はユーザーによってキャリブレーションできます。これを使用して、特定のカメラ配置に戻ることができます。工場出荷時モードでは、工場出荷時のキャリブレーションが使用されます。



工場出荷時モード。



ユーザーモード。

水準器のキャリブレーション方法

- 1 メインメニューディスプレイの一般設定アイコンを押します。
- 2 「一般設定」メニューが表示されます。
- 3 「水準器」メニューを押します。
- 4 上部左隅のアイコン (A) を押します。
- 5 水準器ダイアログが表示されます。
- 6 横方向と縦方向の両方について慎重にカメラの位置を合わせます。
- 7 「キャリブレーション」 (B) を押します。
- 8 2つの白い丸が中心に移動します。中心位置に来ると、緑色に変わります。

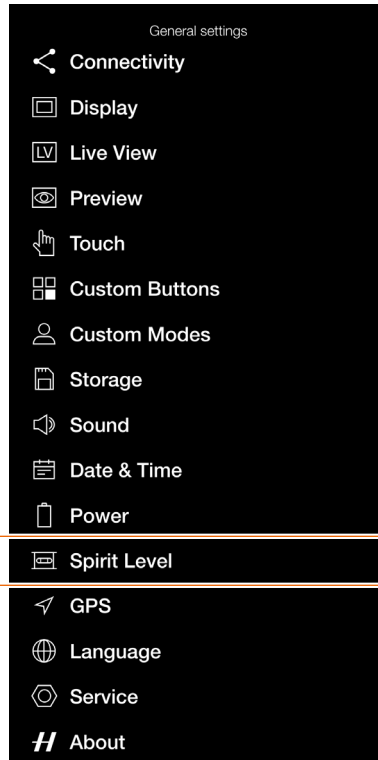
右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

水準器を工場出荷時キャリブレーションにリセットする方法

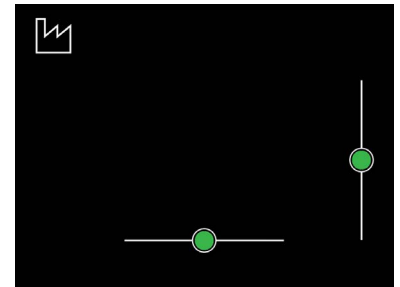
- 1 メインメニューディスプレイの一般設定アイコンを押します。
- 2 「一般設定」メニューが表示されます。
- 3 「水準器」メニューを押します。
- 4 上部左隅のアイコン (A) を押します。
- 5 水準器ダイアログが表示されます。
- 6 「工場設定」アイコン (C) を押します。
- 7 これで「工場設定」アイコン (D) が表示され、水準器は工場出荷時キャリブレーション設定にリセットされます。

右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

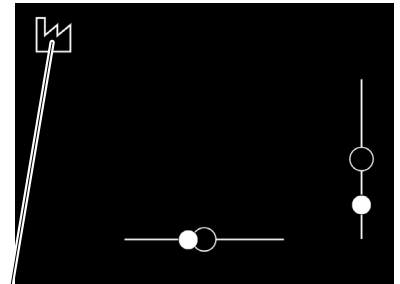
一般設定メニュー



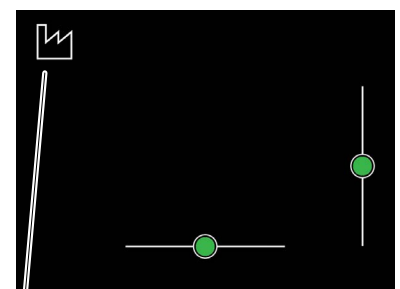
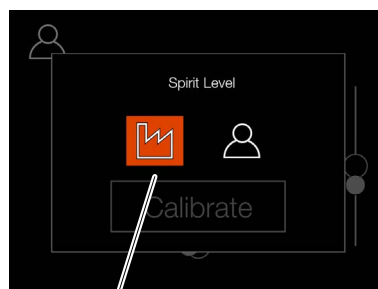
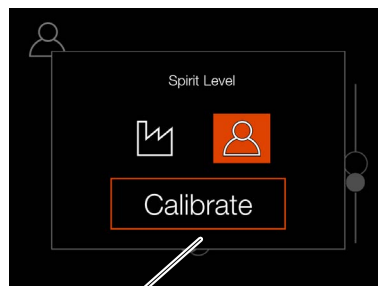
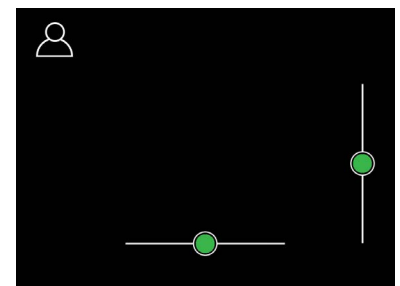
カメラが水平、垂直なときの水準器



カメラが右に少し、下にさらに傾いているときの水準器。



ユーザーによりキャリブレーションされたときの水準器



GPS

メインメニュー→一般設定→GPS

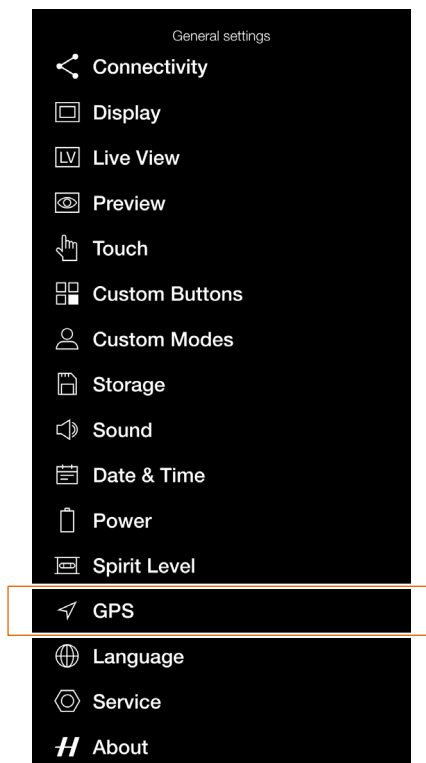
- 1 タッチディスプレイの一般設定アイコンを押します。
- 2 「一般設定」メニューが表示されます。
- 3 「GPS」メニューを押します。

右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

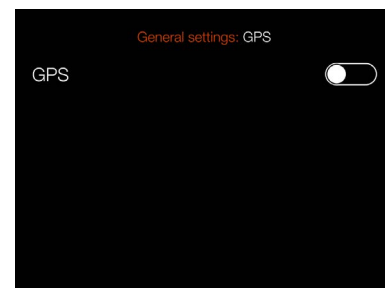
GPS設定

「オン」または「オフ」を選択します。
「オン」に設定すると、GPSデータが画像のメタデータに含まれます。

一般設定メニュー



GPSメニュー



言語

メインメニュー→一般設定→言語

- 1 タッチディスプレイの一般設定アイコンを押します。
- 2 「一般設定」メニューが表示されます。
- 3 「言語」メニューを押します。

右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

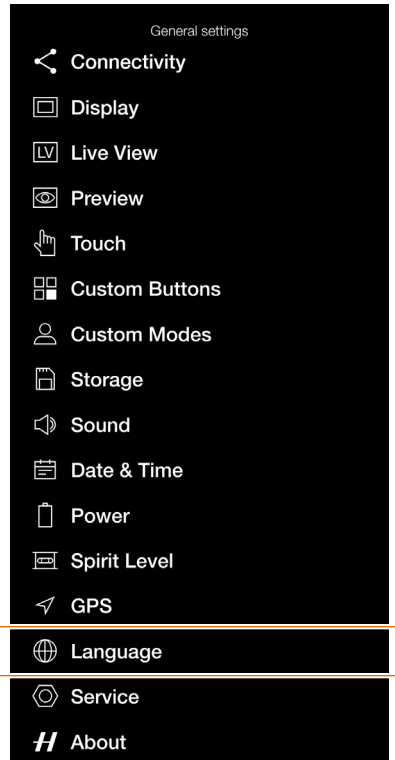
言語の変更方法

- 1 タッチディスプレイでメニューボタンを押します。
- 2 「一般設定」に移動します。
- 3 「言語」に移動します。
- 4 言語を選択します。
- 5 ポップアップの外側をクリックしてポップアップメニューを閉じます。

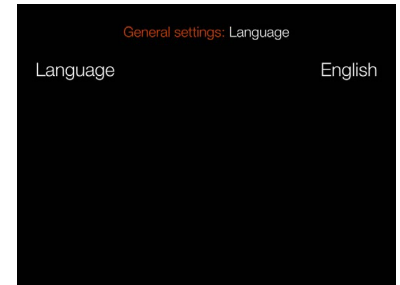
使用可能言語：

英語
スペイン語
フランス語
ドイツ語
イタリア語
スウェーデン語
ロシア語
日本語
簡体字中国語
繁体字中国語
韓国語

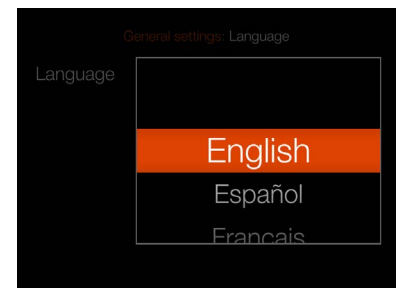
一般設定メニュー



言語メニュー



言語設定



注!

ユーザーが理解できない言語にカメラが設定されている場合は、156ページを解決のために参照してください。

サービス

メインメニュー→一般設定→サービス

- 1 タッチディスプレイの一般設定アイコンを押します。
- 2 「一般設定」メニューが表示されます。
- 3 「サービス」アイコンを押します。

右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

サービスメニュー

ファームウェア更新

SDカード内のファームウェアファイルから更新を行います。

ログデータ

「保存」を押して、アフターサービス用にログデータを記録します。

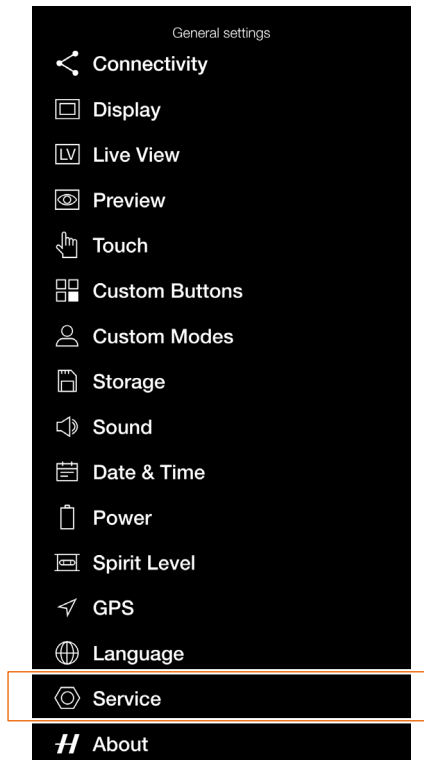
初期設定

設定をすべてリセットします。

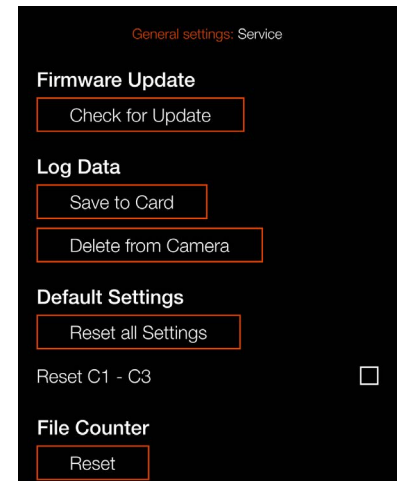
ファイルカウンター

画像番号をリセットします。

一般設定メニュー



サービスメニュー



ファームウェア更新

メインメニュー→一般設定→サービス→アップデートの確認

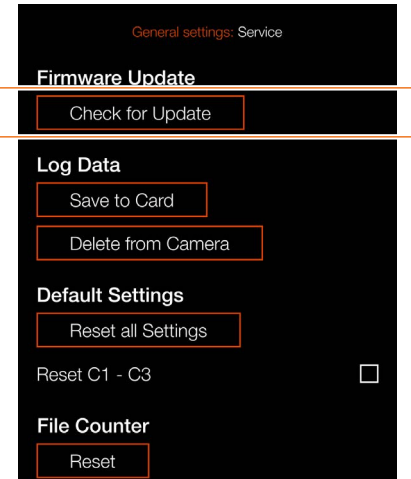
- 1 タッチディスプレイの一般設定アイコンを押します。
- 2 「一般設定」メニューが表示されます。
- 3 「サービス」メニューを押します。
- 4 「アップデートの確認」ボタンを押します。
- 5 カード内に保存されている更新ファイルが表示されます。

右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

X1D IIファームウェアの更新手順

- 1 最新のX1D IIファームウェアを www.hasselblad.com からダウンロードします。
- 2 ファームウェアファイルをSDカードに保存します。
- 3 カメラにSDカードを差し込みます。
- 4 メインメニューから「一般設定」を選択します。
- 5 サービス/ファームウェア更新/アップデートの確認を選択します。
- 6 表示されるファームウェアファイル名と番号がダウンロードした最新のファームウェアファイルであることを確認します。
- 7 「更新」を選択します。
- 8 「ファームウェア更新」ダイアログで「更新」を選択して、アップデートを開始します。
- 9 更新中には、「更新中」というテキストがディスプレイに表示されます。
- 10 更新中は、カメラの電源を切らないください。
- 11 更新には数分間かかります。
- 12 更新が終了すると、このテキストが表示されます。「更新が完了しました。バッテリーを取り外し、再挿入してください。」
- 13 バッテリーを外してから、挿入しなおします。
- 14 カメラを起動します。
- 15 新しいファームウェアがインストールされました。

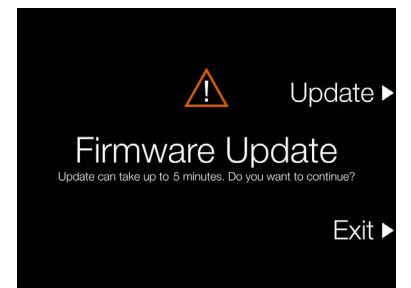
サービスメニュー



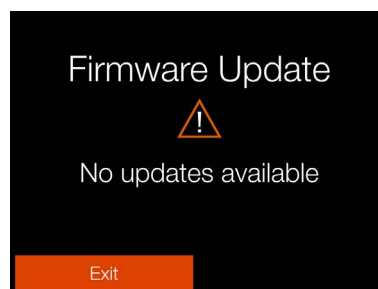
「アップデートの確認」ダイアログ



「ファームウェア更新」ダイアログ



アップデートが利用できない場合



レンズファームウェア更新

メインメニュー→一般設定→サービス→アップデートの確認

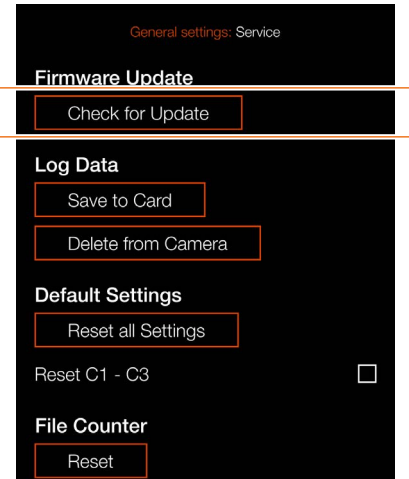
- 1 タッチディスプレイの設定アイコンを押します。
- 2 「一般設定」メニューが表示されます。
- 3 「サービス」メニューを押します。
- 4 「アップデートの確認」ボタンを押します。
- 5 カード内に保存されている更新ファイルが表示されます。

右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

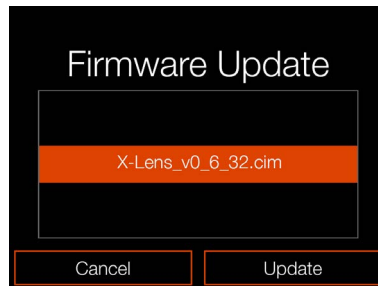
レンズファームウェア更新の手順

- 1 レンズをカメラに取り付けます。
- 2 最新のXCDレンズファームウェアを www.hasselblad.com からダウンロードします。
- 3 ファームウェアファイルをSDカードに保存します。
- 4 カメラにSDカードを差し込みます。
- 5 メインメニューから「一般設定」を選択します。
- 6 サービス/ファームウェア更新/アップデートの確認を選択します。
- 7 表示されるファームウェアファイル名と番号がダウンロードした最新のファームウェアファイルであることを確認します。
- 8 「更新」を選択します。
- 9 「ファームウェア更新」ダイアログで「更新」を選択して、アップデートを開始します。
- 10 更新中には、「更新中」というテキストがディスプレイに表示されます。
- 11 更新中は、カメラの電源を切らないください。
- 12 更新には数分間かかります。
- 13 更新が完了すると、このテキストが表示されます：
「アップデートが完了しました！」。
- 14 新しいレンズファームウェアがインストールされました。

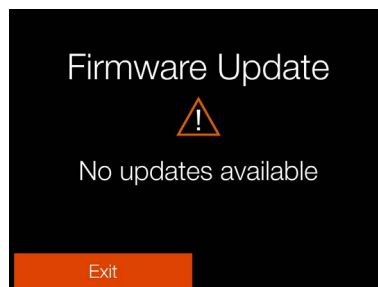
サービスメニュー



更新確認ダイアログ



アップデートが利用できない場合



ログデータ

メインメニュー→一般設定→サービス→ログデータ

- 1 タッチディスプレイの一般設定アイコンを押します。
- 2 「一般設定」メニューが表示されます。
- 3 「サービス」メニューを押します。
- 4 「カードに保存する」ボタンを押します。
- 5 カメラのログデータが保存されます。

右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

ログデータの設定

カードに保存する

カメラのログデータメモリーの内容をSDカードに保存します。

カメラから削除する

カメラ内のログデータの履歴を消去します。

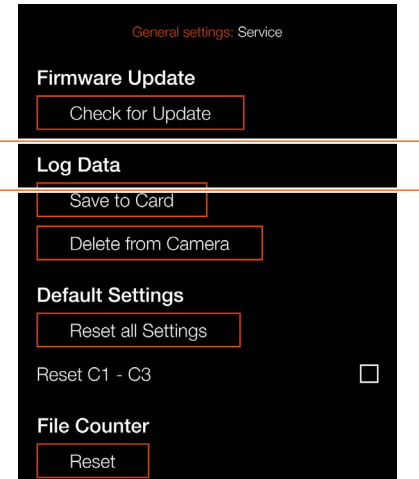
ログデータの保存方法：

- 1 メニューボタンを押します。
- 2 「一般設定」に移動します。
- 3 「サービス」に移動します。
- 4 「ログデータ」に移動します。
- 5 「カードに保存する」ボタンを押します。
- 6 「ログデータを保存する」により、ログファイルがSD1カードかSD2カードに保存されます。
- 7 「メニュー」ボタンを押して終了します。

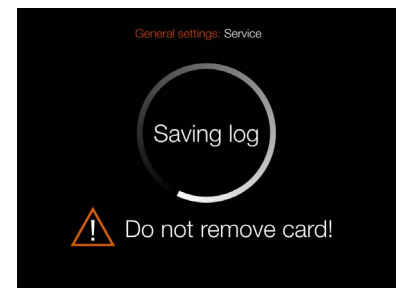
ログデータを削除する方法：

- 1 メニューボタンを押します。
- 2 「一般設定」に移動します。
- 3 「サービス」に移動します。
- 4 「ログデータ」に移動します。
- 5 「カメラから削除する」ボタンを押します。
- 6 確認ダイアログで、「削除」(□ボタン)を押します。
- 7 メニューボタンを押して終了します。

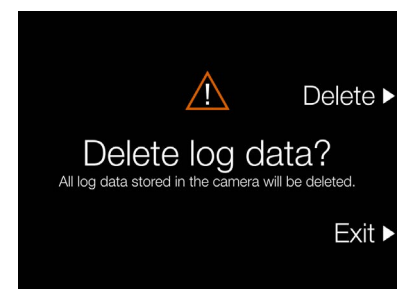
サービスメニュー



ログデータを保存する



ログデータの削除確認ダイアログ



初期設定

メインメニュー→一般設定→サービス→初期設定

- 1 タッチディスプレイの「一般設定」アイコンを押します。
- 2 「一般設定」メニューが表示されます。
- 3 「サービス」メニューを押します。
- 4 「すべての設定をリセット」ボタンを押します。
- 5 設定のリセットが確認されます。

右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

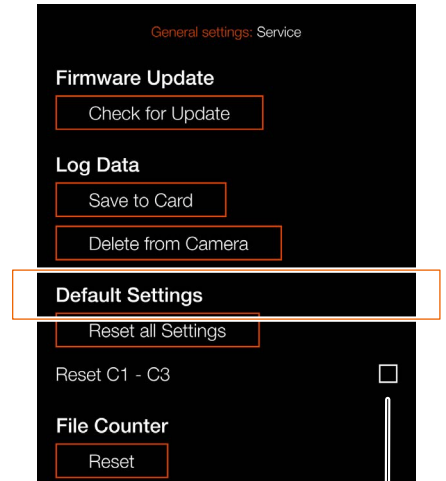
すべての設定を初期設定にリセットする方法:

- 1 メニューボタンを押します。
- 2 「一般設定」に移動します。
- 3 「サービス」に移動します。
- 4 「すべての設定をリセット」を押します。
- 5 「すべての設定をリセット」確認ダイアログが表示されます。
- 6 カスタムモードC1、C2、C3の内容もリセットする場合は、「すべての設定のリセット」を押す前にチェックボックス **(A)** にチェックを入れます。
- 7 「リセット」を選択して、すべての設定をリセットします。
- 8 確認後、すべての設定が初期値にリセットされます。

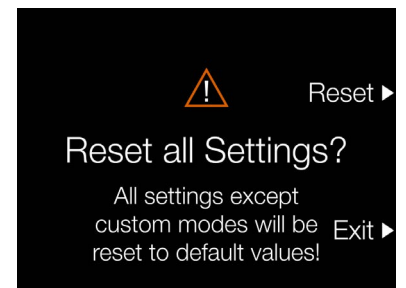
注!

リセットせずに終了するには、「終了」を選択します。

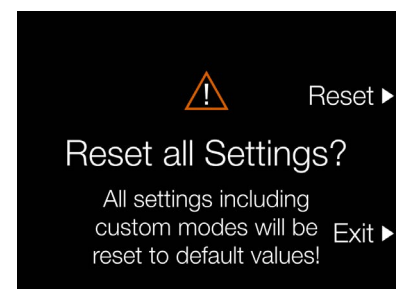
サービスメニュー



「すべての設定をリセット」ダイアログ C1-C3はリセット対象として選択しない場合。



「すべての設定をリセット」ダイアログ C1-C3はリセット対象として選択する場合。



ファイルカウンターのリセット

メインメニュー→一般設定→サービス→ファイルカウンター

- 1 タッチディスプレイの「一般設定」アイコンを押します。
- 2 「一般設定」メニューが表示されます。
- 3 「サービス」メニューを押します。
- 4 「ファイルカウンター」の「リセット」を選択します。

右にスワイプするかメニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

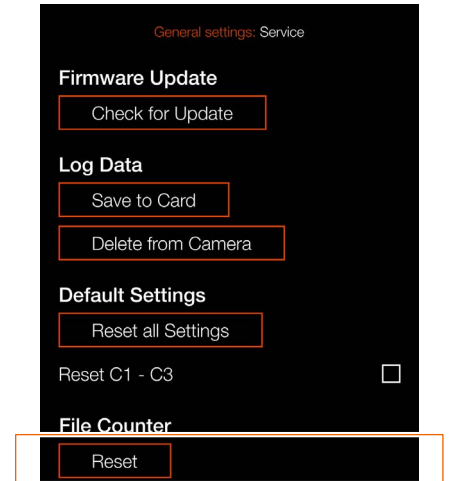
ファイルカウンターをリセットする方法：

- 1 メニューボタンを押します。
- 2 「一般設定」に移動します。
- 3 「サービス」に移動します。
- 4 「ファイルカウンター」の「リセット」を選択します。確認のダイアログが表示されます。
- 5 「リセット」の□ボタンを押します。
- 6 確認後、ファイルカウンターがリセットされ、次の撮影画像（または動画録画）にB00000001の番号が付けられます。
- 7 リセットの実行時にメモリーカードの現在のフォルダーが空でない場合、メモリーカードに新しいフォルダーが作成されます。これは、撮影された2つの画像が同じ名前とファイル番号でラベル付けされる可能性を避けるために行われます。

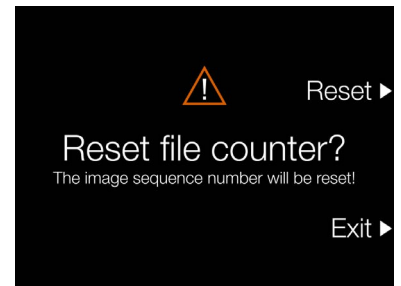
注！

挿入され保存先に指定されたSDメモリーカードに画像が存在する場合、新しいフォルダーが作成されます。

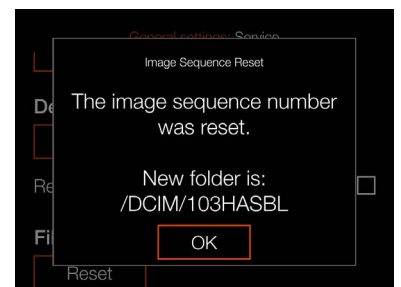
サービスメニュー



確認ダイアログ



「ファイルカウンタリセット」ダイアログ



情報

メインメニュー > 一般設定 > 情報

- 1 タッチディスプレイの一般設定アイコンを押します。
- 2 一般設定メニューが表示されます。
- 3 一般設定情報アイコンを押してください。

右にスワイプするか、[メニュー]または[終了]ボタンを押してメインメニューに戻ります。

情報メニュー設定

カメラモデル

カメラモデル名。

カメラファームウェア

情報ボックスには、インストールされているファームウェアバージョンが表示され、最新のファームウェア (Hasselbladのホームページからダウンロードできる) の有無を確認できます。

レンズファームウェア

レンズファームウェア (v0.5.39) は情報メニューに表示されます。

シリアルナンバー

カメラのシリアルナンバー。

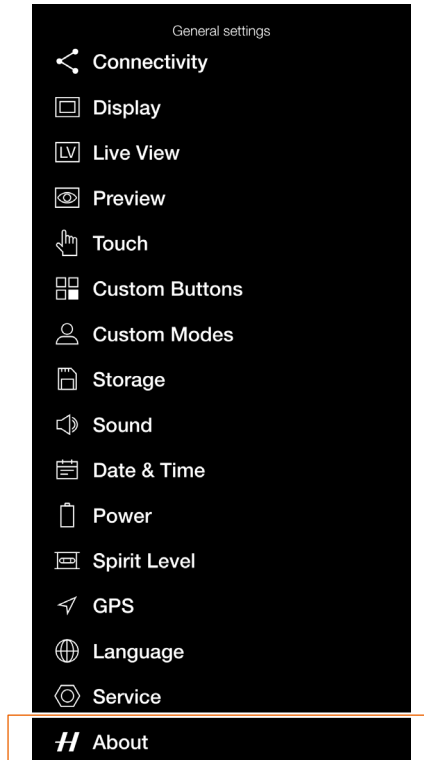
ライセンス

利用可能なライセンスが表示されます。詳細については、各行をタップしてください。

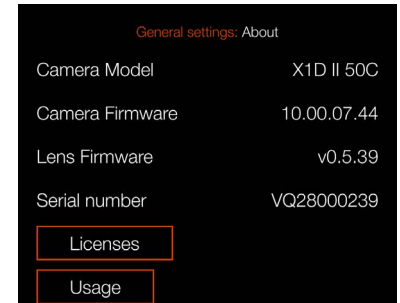
使用方法

現在取り付けられているレンズ露出の合計数を表示します。この例では、右側にある3905です。

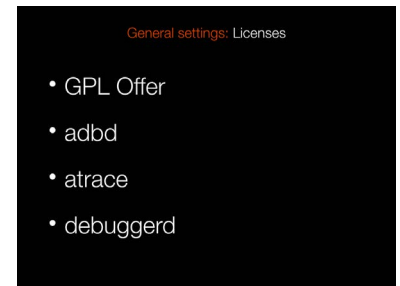
一般設定メニュー



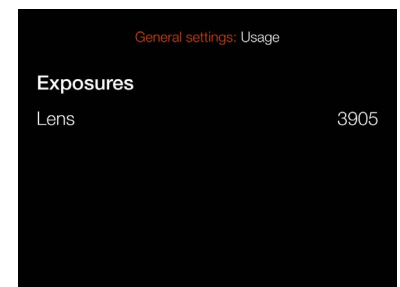
情報メニュー



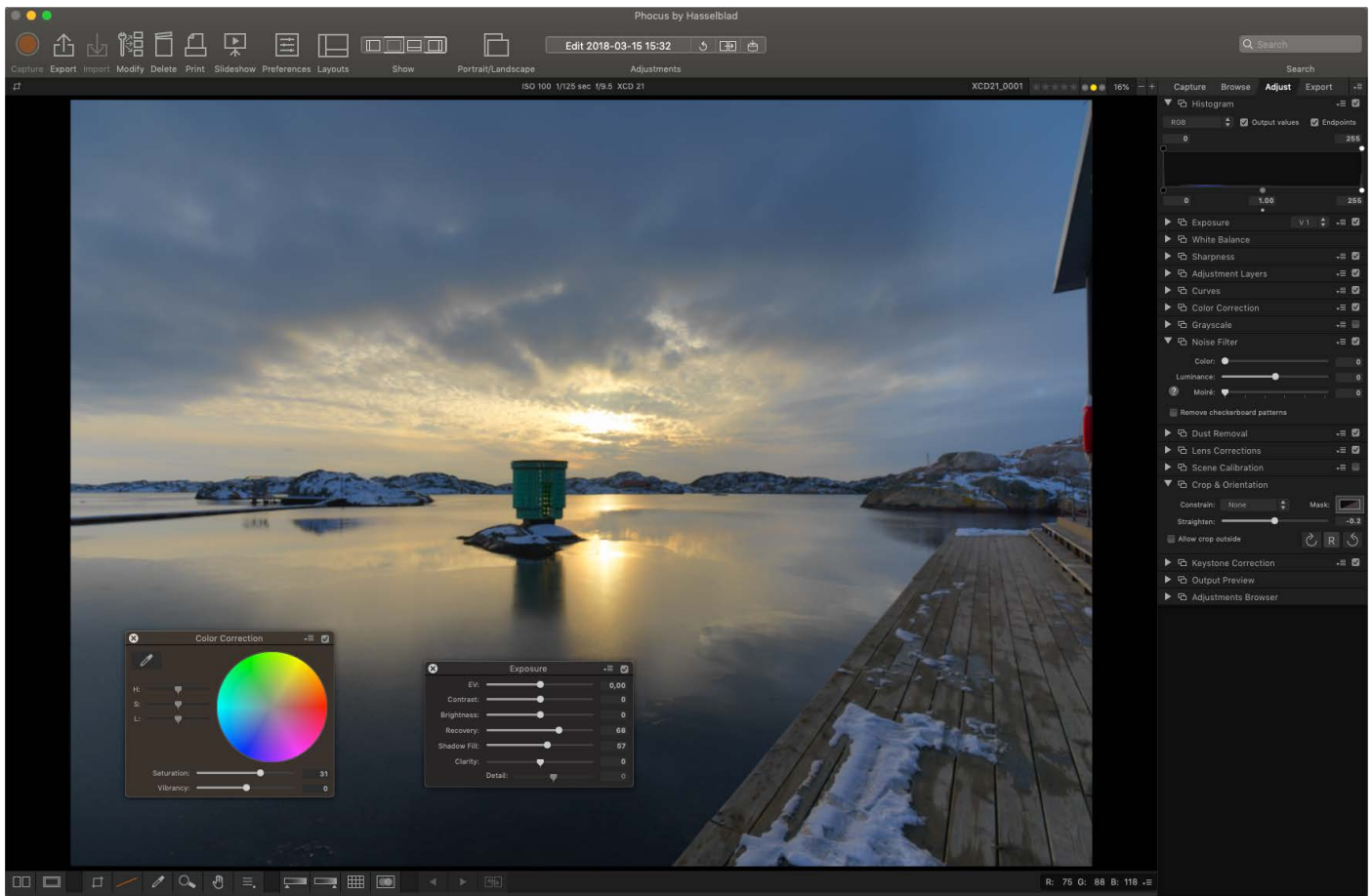
ライセンスダイアログ



使用方法ダイアログ



6.1 PHOCUSの概要



Phocus

Phocusは、撮影処理およびファイル管理のアプリケーションで、主にHasselblad RAW 3Fファイルの取扱いを目的としています。Phocusには、Mac用とWindows用の両方があります。

プロフェッショナル画像クオリティ

Phocusは、Hasselbladナチュラルカラーソリューション (HNCS) をデジタルレンズ補正 (DAC: Digital Auto Correction) と組み合わせて、高品質なデジタル画像を提供します。Phocusを用いると、非常に高い解像度の画像でさえも発生しがちなモアレが、RAWデータ上で自動的に除去されます。画像のクオリティには影響を与えず、編集作業の時間節約につながります。数多くのリモート機能を提供するPhocus リモートカメラコントロールを用いると、効率のいいテザー撮影が行えます。たとえば、リモートフォーカス、ライブビュー、絞りや露出時間のコントロールがあります。

PHOCUSの特長

プロフェッショナル画像クオリティ

- ハッセルブラッド ナチュラルカラーソリューション (HNCS)
- Xシステム、Hシステム、Vシステム用レンズのデジタルレンズ補正 (DAC) X1D IIカメラは、XおよびHレンズシステムにフルに対応しています。VシステムおよびXPanシステムのレンズは、電子シャッターで使用できます。

専用ツール

- 高度なテザー接続カメラコントロール。
- Phocus Mobile 2*。次のページをご覧ください。
- シーンキャリブレーション・リプロダクションツール。
- 最先端のモアレ除去。
- 白飛び軽減、黒つぶれ軽減、鮮明度、ゴミ除去ツール。
- 項目別の微細な調整。
- 直感的なインターフェイス。
- 個別のワークフローにあわせた広範なカスタム可能なオプション。
- 画像補正值、キーワード、ワークフロー設定のインポート/エクスポート。
- 高品質プリント。
- スライドショー。
- 150機種を超えるデジタルカメラのRAWファイルに対応**。
- テザー接続されたカメラは、Phocusに画像をインポートするためのカードリーダーとして利用可能。

形式を処理できます。サードパーティファイルについては、すべての調整機能が利用できるわけではありません。

最高の画像クオリティ

Phocusは、Hasselbladナチュラルカラーソリューション (HNCS) をデジタルレンズ補正 (DAC: Digital Auto Correction) と組み合わせ、高品質なデジタル画像を提供します。Phocusを用いると、非常に高い解像度の画像でさえも発生しがちなモアレが、RAWデータ上で自動的に除去されます。画像のクオリティには影響を与えず、編集作業の時間節約につながります。数多くのリモート機能を提供するPhocus リモートカメラコントロールを用いると、効率のいいテザー撮影が行えます。たとえば、リモートフォーカス、ライブビュー、絞りや露出時間のコントロールがあります。

* Phocus Mobile 2は、Appleアプリストアで無料でダウンロードできます。

** macOS の対応RAW処理に基づいています。

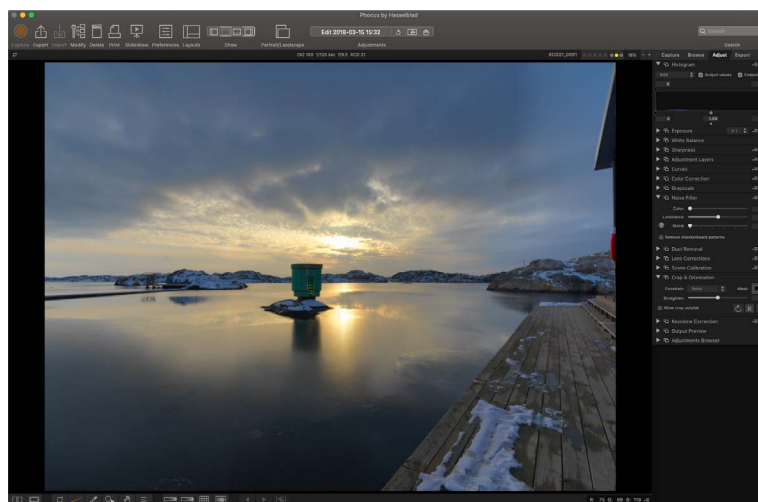
注!

Phocusは、ライセンスフリーのソフトウェアで、無制限にインストールができ、使用のための登録は必要ありません。

様々なファイルと同じ環境で

Phocusでは、ファイルのインポート元に関わらず、画像のインポートと作業を同じ直観的な処理環境で行うことができます。あらゆる種類のRAW形式や非RAW形式を表示、調整、処理できます。

Phocusは、150機種を超えるカメラのRAWファイルに対応します**。
たとえば、TIFF、JPEG、DNG、PNGなどの最も一般的なファイル



6.2 パソコンに接続する

- 1 USB 3ケーブルをパソコンのUSBポートに接続します。
- 2 カメラの端子カバーを開きます。
- 3 USB 3ケーブルをカメラのUSBポートに接続します。

Phocusから撮影を始めると、パソコンは信号をX1D IIカメラに送信し、シャッター（および使用していればストロボ/フラッシュ）を切ります。次にカメラは、撮影画像をUSB接続を経由してパソコンに送信し、そこで画面に表示され、パソコンのハードディスクで現在選択されているフォルダー内に16ビット3Fファイルとして保存されます。

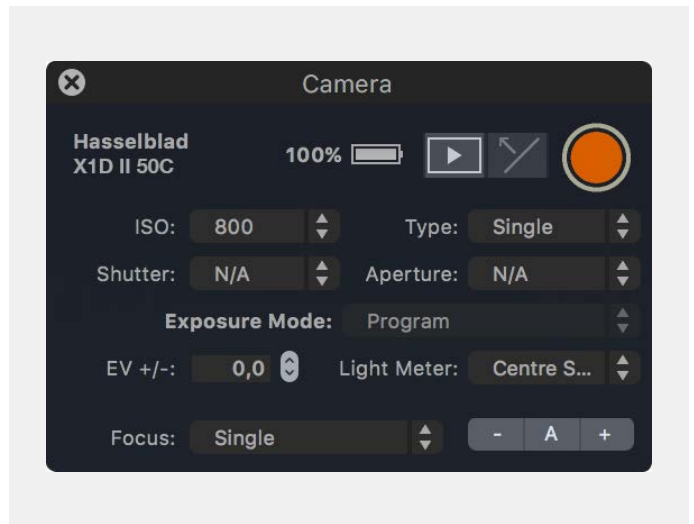
注!

パソコンに接続した場合は、次が適用されます。

- Phocusから撮影するように選択した場合、ISO、絞り、露出時間を含むすべての露出設定はPhocusから制御されます。また、ライブビュー、リモートフォーカスなどの追加ツールも利用できます。詳細は、Phocusユーザーマニュアルを参照してください。

注!

コンピューターに接続するときは、テザー撮影モードがMac/PCに設定されていることを確認してください。詳細は、122ページを参照してください。

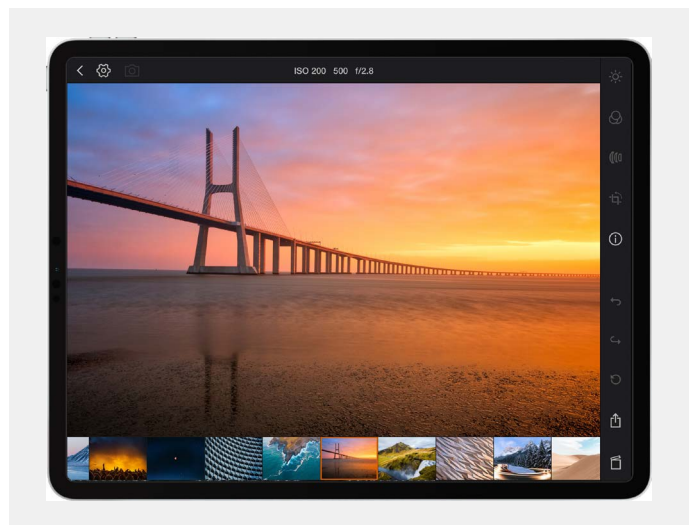


6.3 IPAD PROに接続する

USBケーブルを介したテザー撮影は、USB-Cポートを装備したiPad Proで、またはLightning to USB 3アダプターを使用している場合に使用できます。USB-C to Lightningケーブルも機能しますが、USB 2の速度しか提供しません。カメラからiPadにUSB-C to Cケーブルを接続し、Phocus Mobile 2アプリを起動します。詳細は次のページをご覧ください。

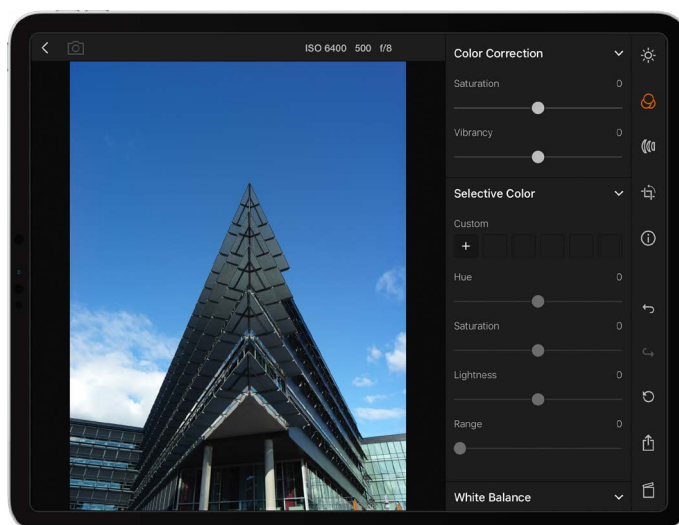
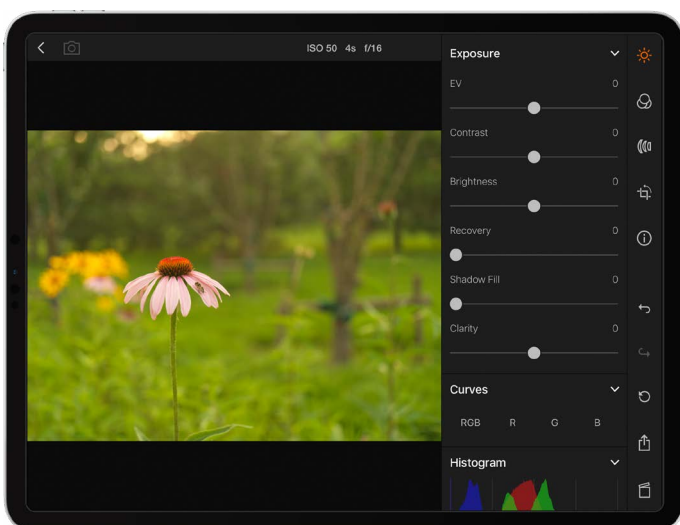
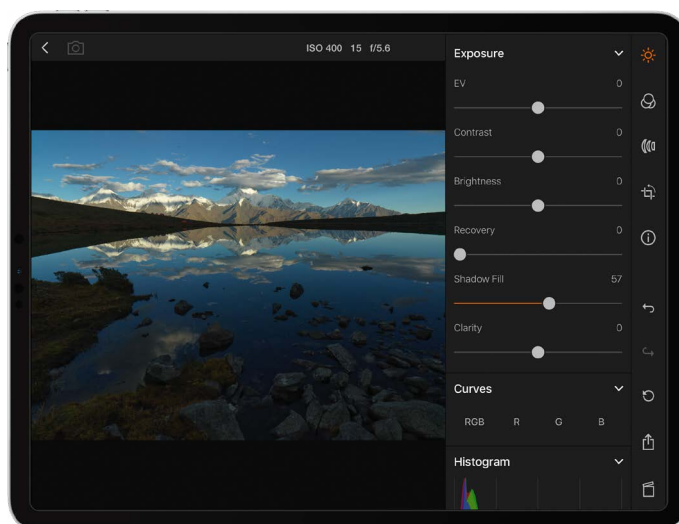
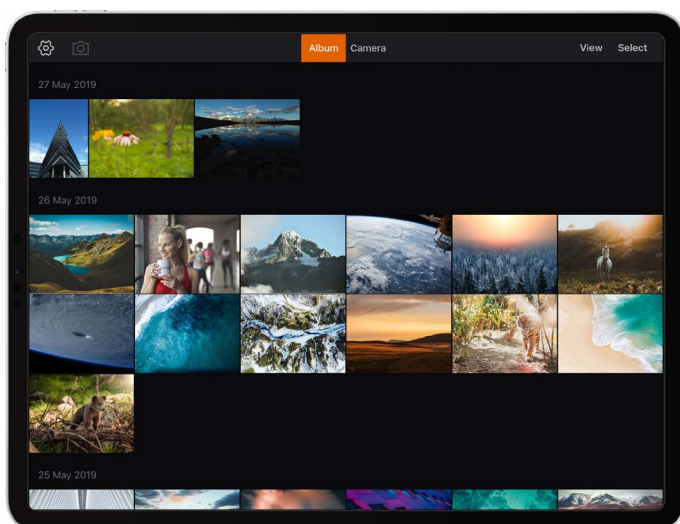
注!

iPadに接続するときは、テザー撮影モードがiOSに設定されていることを確認してください。詳細は、122ページを参照してください。



PHOCUS MOBILE 2

Phocus Mobile 2は、オリジナルのPhocus Mobile iOSアプリケーションを継承し、多くの新機能を追加しています。最大の特長として、USB接続とWi-Fi接続の両方への対応を追加し、iOSデバイスに直接画像をキャプチャできるようになり、フル解像度での画像編集とエクスポートを提供します。将来的にiPhoneとiPadの両方での対応を予定していますが、画像編集機能にはiPad Proか、または2GB以上のRAMを搭載した最新のiPad Airモデルのいずれかが必要です。X1D II 50Cおよび将来的なカメラモデルをサポートします。これより前の機種には、オリジナルのPhocus Mobileアプリが必要です。詳細については、hasselblad.com/phocusmobile2を参照してください。



PHOCUSとHASSELBLADの画像ファイル

X1D IIはファイルを撮影した時、それをHasselblad RAW形式ファイルとして、またはHasselblad RAW+JPEG形式で同時に保存できます。

Hasselblad RAWファイルはまず、メディア内にはHasselblad独自の形式である3FR形式で保存されます。3FRファイルには、カメラで撮影された時と全く同一のデジタル化されたRAW画像が含まれています。3FR情報は、完全な現像をするには、さらにパソコンの処理（Phocusによる処理など）を必要とします。Phocus経由で取り込んで現像した場合、3FRファイルはHasselblad 3Fファイルとなり、各ファイルには「.fff」の拡張子がつけられます。他のRAW現像ソフトで現像した場合、3FRファイルは3Fには変換されませんが、要件に応じて、TIFF、PSDに直接エクスポートすることができます。PhocusまたはPhocus Mobile 2にテザー接続して作業するときには、3FRファイルは自動的に処理されて、パソコンにバックグラウンドで保存され、ハードディスクでは選択的な調整やエクスポートが可能な3Fファイルとして表示されます。SDカードに保存されている3FRファイルは、以下のソフトウェアを用いて処理することができます。

Hasselblad Phocus
Adobe Camera Raw
Adobe Lightroom

撮影ファイルは、後でPhocusやその他のソフトウェアで処理するために3FRファイルとしてSDカードから直接保存できるほか、3Fファイルとしても保存される場合もあります（テザー接続した撮影やPhocusを介してインポートされた3FRファイルの結果として）。どの場合でも、オリジナルの3FR/3Fファイルを保持しておくことで、将来的にPhocusやその他のソフトウェアの新しいバージョンが出た際、それらで再処理して、より改良された機能による利点を得ることが可能です。

混合フォーマット

また、Phocusはそのほとんどどのファイル形式（一般形式や各社の独自形式）を処理できます。これにより、選択すれば、通常のPhocusワークフローに他の形式のファイルを含めることができるようになります。あるいは必要に応じて、上述のとおり、Adobe/AppleのワークフローでHasselbladのファイルを処理することもできます。

注!

最良の画像結果を得るには、Hasselblad Phocusソフトウェアを使用してください。他のデジタルイメージソフトウェアでも同様の結果が得られますが、Hasselblad Phocusソフトウェアとまったく同じではありません。



アクセサリの詳細なリストについては、以下を参照してください
<https://www.hasselblad.com/x-system-accessories/>

XHレンズアダプター

CP.QT.00000290.01

XHレンズアダプターを使用すると、HCまたはHCDレンズをX1D IIカメラに取り付けることができます。

XHレンズアダプターは、X1D IIに使用するレンズの選択の幅を広げ、これには12種のHシステムHC/HCDレンズすべてと、マクロコンバーターや3つのエクステンションチューブを含むアクセサリが含まれます。

HC/HCDレンズのラインナップには、24 mm広角レンズ、300 mm望遠レンズ、浅い被写界深度範囲と美しい滑らかなボケ味が表現できる大口径100 mm f 2.2レンズが含まれます。

注!

現在、X1D IIカメラは、HC 120マクロを除くすべてのHC/HCDレンズでXHレンズアダプターでのオートフォーカスに対応しています。X1D-50Cの場合、ファームウェアバージョン1.21.0以降が必要です。コンバーターと接写リングもAFで使用できます。

注!

ファームウェア18.0.0以降を搭載したHC/HCDレンズのみがAF機能対応にアップデートできます。古いファームウェアのレンズには古いハードウェアが搭載されており、このファームウェアでは更新できません。マニュアルフォーカスモードでのみ使用できます。

XVレンズアダプター

CP.HB.00000241.01

XVレンズアダプターは、ハッセルブラッドVシステムレンズをX1D IIに取り付けるために使用します。すべてのVシステムレンズ (C、CF、CFi、CFE、CB、F、およびFE) に対応

注!

使用には、X1D IIの電子シャッター機能を有効にする必要があります。詳細は、106ページを参照してください。

注!

フォーカスピーキングまたは100%拡大表示を使用して、手動フォーカスを補助できます。

注!

Vシステムレンズのレンズ補正は、Phocusバージョン3.4以降で使用できます。それらは手動で選択する必要があることに注意してください。

トライポッドマウントリング75MM

CP.HB.00000217.01

トライポッドマウントリングは、XH/XVレンズアダプターとXコンバーター1.7に適合するように設計されており、長さや重さのあるHC/HCDまたはVシステムレンズをXシステムカメラボディに付けて使用する場合に補助的なサポートを提供します。トライポッドマウントリングは、1/4"および3/8"三脚ネジまたはハッセルブラッドクイックカップリングプレートHに取り付けることができます。



XPANレンズアダプター

CP.HB.00000036.01

XPanレンズアダプターは、XPanカメラ用レンズを取り付けるために使用されます。利用可能なXPanレンズは、5.6/30mm、4/45mm、および4/90mmです。

注!

XPanレンズにはシャッターは内蔵されていません。したがって、カメラの電子シャッターが有効になっている場合にのみ使用できます。詳細は、106 ページを参照してください。

注!

フォーカスピーキングまたは100%拡大表示を使用して、マニュアルフォーカスを補助できます。



レリーズコードX

CP.HB.00000242.01

ハッセルブラッドレリーズコードXを使用すると、シャッターのリモート制御が可能になり、揺れや振動をなくすのに役立ちます。丈夫な布で包まれた90cm (36インチ) ケーブルがX1D IIのマイク入力に接続され、簡単なシングルボタン操作により、振動を最小限に抑えることができます。丈夫な金属構造とスリムで人間工学に基づいたデザインは、手に快適にフィットします。レリーズコードXには、小さな革製キャリーポーチが付属しています。



バッテリー充電ハブ

CP.HB.00000397.01 (EMEA)

CP.HB.00000395.01 (イギリス)

CP.HB.00000392.01 (北米/日本)

CP.HB.00000396.01 (中国)

CP.HB.00000393.01 (韓国)

CP.HB.00000394.01 (オーストラリア/ニュージーランド)

ハッセルブラッドのバッテリー充電ハブは、バッテリー充電プロセスを合理化し、これには2つのバッテリーの同時充電をサポートするデュアルスロットが含まれています。内蔵USB Type-Cコネクタは、付属の電源を経由した、または一般的な外部USBバッテリー（別売）からの電源供給に対応します。正面のLEDが充電時のステータスと容量を示します。あるいは、バッテリーを挿入してボタンを1つ押すだけで、バッテリー充電ハブをバッテリーレベルの確認に使用できます。



7.1 オプションのHCLレンズアクセサリ

13、26、52MM エクステンションチューブH

CP.QT.00000228.01 13 mmエクステンションチューブH

CP.QT.00000223.01 26 mmエクステンションチューブH

CP.QT.00000233.01 52 mmエクステンションチューブH

エクステンションチューブは、近接撮影時のフォーカシング距離を短くするために、XHレンズアダプターとHCLレンズの間に装着されます。13mm、26mm、52mmの3通りのサイズが用意されています。X1D IIにはTTL測光システムが搭載されているため、近接撮影時の露出倍数の補正は自動的に行われます。



コンバーターH 1.7X

CP.QT.00000239.01

コンバーターH 1.7xは、XHレンズアダプターとHCLレンズの間に装着されます。装着時、コンバーターH 1.7xは、レンズの焦点距離を1.7x倍にします。ハッセルブラッドHレンズシリーズの光学群と同じ優れた光学的品質および機械的品質を備えています。



チルト/シフトアダプターHTS 1.5X

CP.QT.00000232.01

HTS 1.5xは、HCD24、HCD28、HC35、HC50、HC80、およびHC100レンズで動作するように設計されています。着用に伴い焦点距離は1.5倍になり、±10度のチルトと±18 mmのシフトが可能です。X1D IIでのAFは、アダプターがチルトおよび/またはシフトに設定されている場合でも機能します。X1D IIを使用している場合、チルトとシフトの量についてのメタデータは画像ファイルに追加されず、Phocusでは自動レンズ補正は適用されません。これは、H5DおよびH6Dカメラに固有の機能です。



7.2 オプションのアクセサリ

プロシェードV/H 6095

CP.QT.HB000021.01

迷光に対して非常に効率的な保護が得られる調節可能なベローズ式レンズシェードです。コンパクトで平坦になる折り畳み式のデザインで、機材ケース内の空間が節約されます。ガラスフィルター、ゼラチンフィルター、プラスチックフィルター用のフィルターホルダーも備わっています。



プロシェードアダプター

CP.QT.HB0000024.01 プロシェードアダプター67mm
 CP.HB.00000073.01 プロシェードアダプター77mm
 CP.QT.HB0000025.01 プロシェードアダプター95mm
 HCレンズ用のバヨネットマウントを備えた67 mm、77 mm、95 mm径のアダプターです。確実に安心できる取り付けのためのロックが備わっています。



UVスカイフィルター

CP.HB.00000024.01 フィルターUV-Sky 67 mm
 CP.HB.00000086.01 フィルターUV-Sky 77 mm
 CP.HB.00000087.01 スリムフィルターUV-Sky 95 mm
 紫外線を吸収し、色に影響を与えずに青色のもやを低減します。また、レンズ表面を保護します。厳しい条件下でカメラを使用する場合に特に推奨されます。さまざまなレンズに合うよう3通りのサイズ (67mm、77mm、95mm) があります。



偏光フィルター

CP.HB.00000089.01 偏光フィルター67 mm
 CP.HB.00000090.01 偏光フィルター77 mm
 CP.HB.00000091.01 偏光フィルター95 mm
 非鏡面反射やグレアを減少させます。全般に色の飽和度を増大します。青空を強調することができます。3つのサイズがあります。



Xカメラショルダーストラップ

CP.QT.00000207.01
 滑り止め裏地付きの幅広カメラストラップです。



Xカメラブラックレザーショルダーストラップ

CP.QT.00000418.01
 ワイドレザーストラップです。



トライポッドクイックカプリングH

CP.HB.00000070.01
 このアクセサリを三脚に取り付けると、カメラをすばやく取り付け/取り外しできるようになります。カメラは正確かつ再現可能な位置にしっかりと固定されます。トライポッドマウントリング75 mmとの組み合わせで使用可能です。

内蔵された2個の水準器がカメラの水平位置決めを容易にします。トライポッドクイックカプリングHは、1/4インチと3/8インチの三脚ネジ穴にフィットし、セーフティーキャッチ付きです。すべてのHシステムカメラと事実上すべてのVシステムカメラに適合します。Xシステムカメラは、クイックカプリングプレート (CP.QT.00000212.01) を使用してマウントできます。



8.1 不明な言語からの変更

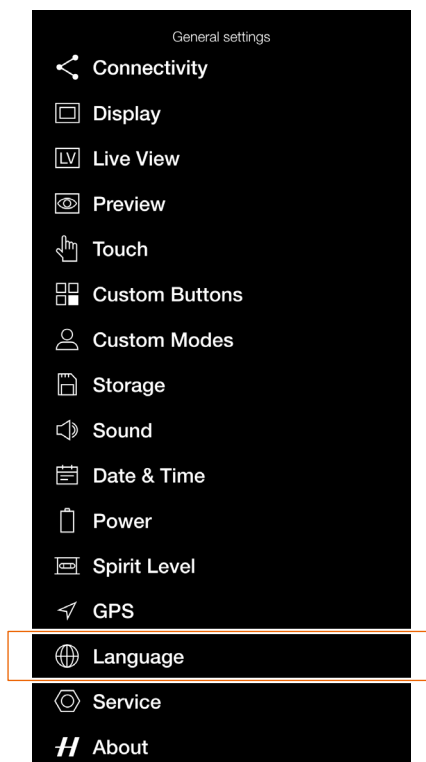
メインメニュー→一般設定→言語

- 1 タッチディスプレイの[一般設定]アイコンを押します。
- 2 一般設定メニューが表示されます。
- 3 地球儀アイコンのあるメニュー項目（下から3番目の「言語」）に移動します。
- 4 下にスクロールして言語を選択します。

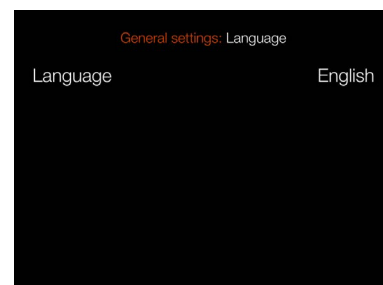
右にスワイプするか、メニュー/EXITボタンを押し、メインメニューに戻ります。

136ページも参照してください。

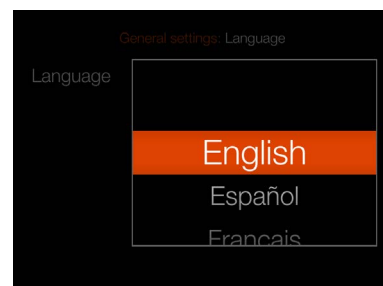
一般設定メニュー



言語メニュー



言語設定



8.2 エラーメッセージ

エラーメッセージが表示される場合

- 1 カメラからコンポーネントを取り外します。
- 2 コンポーネントをカメラに再び取り付けます。

それでもエラーメッセージが表示される場合

- 1 バッテリーを取り外します。
- 2 接続されているUSBケーブルを取り外します。
- 3 10秒間待機します。
- 4 バッテリーを再度取り付けます。
これで、カメラのプロセッサがリセットされます。

それでもエラーメッセージが表示される場合

- 1 エラーメッセージをメモします。
- 2 最寄りのHasselblad販売店にお問い合わせください。

8.3 センサーフィルターのクリーニング

注意！

コンポーネントをカメラから着脱する際は、慎重に行ってください。データバス接続部の損傷を防止できます。

注意！

レンズを取り外す際には、カメラ開口部に異物が入らないようにしてください。カメラ開口部は非常に精密です。機材の損傷を防ぐのに役立ちます。

レンズを取り外してセンサーを清掃します

- 1 USB 3ケーブルが接続されている場合、取り外します。
- 2 レンズ取り外しボタンを押したままにします。
- 3 レンズを反時計回りに回します。
- 4 レンズを取り外します。
- 5 清浄な圧縮空気を用いて、IRフィルターの外面を慎重に掃除します。

注意！

IRフィルターのガラスを清掃するため缶入り圧縮空気を使用する場合、使用する前に説明書を注意深くお読みください。フィルターの損傷を防ぐのに役立ちます。

圧縮空気を使用しても問題がすべて解決されず、画像にまだホコリが見られる場合は、IRフィルターの内側またはCMOS自体にほこりが付着している可能性があります。ハッセルブラッド販売店にお問い合わせください。

注意！

埃などの理由でもセンサーの前部にあるガラスIRフィルターは取り外さないでください。機材の損傷が生じることがあります。

8.4 レンズガラスの表面のクリーニング

埃を除去する**注意！**

ガラス表面に指で触れないでください。機材の損傷が生じることがあります。

レンズガラスに埃がある場合、以下の手順に従います。

- 1 ブロアーで埃を取り除きます。
- 2 それでも問題が解決しない場合は、非常に柔らかいレンズブラシでほこりを取り除いてください。

染みを除去する**注意！**

ガラス表面に指で触れないでください。機材の損傷が生じることがあります。

レンズガラスに染みがある場合、以下の手順に従います。

- 1 染みを除去する方法が定かでない場合には、現地の Hasselblad 認定サービスセンターまでお問い合わせください。
- 2 レンズガラスを高品質のレンズ洗浄液で洗浄します。

8.5 ハッセルブラッドX1Dユーザーガイドに関する情報

このユーザーガイドの情報は、情報提供のみを目的としています。情報および3D製品の画像と写真は、予告なしに変更される場合があります、Victor Hasselblad ABの責務と解釈されるべきではありません。

更新情報

このユーザーガイドの最新版は定期的に発行されます。最新版については、www.hasselblad.comを確認してください。

3D製品画像

このユーザーガイドのX1D II製品画像は、Hasselblad X1D IIで撮影されたものではありません。見やすいよう3Dで作成されています。これらの画像は図解することのみを目的とし、Hasselblad X1D IIによる画像品質を表現することを意図するものではありません。

商標

Hasselblad、Phocus、Phocus Mobileは、Victor Hasselblad ABの商標です。

AdobeおよびAdobe Photoshopは、Adobe Systems, Inc.の商標であり、Macintosh、Mac OS、iPhone®、iPad®、iPod Touch®は、Appleの商標です。

Canon、Nikon、Leica、Sony、Fuji、Olympusは、各社の商標です。

著作権

このユーザーガイドのテキストの著作権はすべてVictor Hasselblad ABに帰属します。

このユーザーガイドにある画像の著作権は、特定の写真家ではなく、Victor Hasselblad ABに帰属します。このマニュアルのテキストは、Victor Hasselblad ABの明示的な許可なく転載や再利用することはできません。

このマニュアルの画像は、その著作権を有する写真家の明示的な許可なく、転載や再利用することはできません。

Victor Hasselblad ABは、このユーザーガイドに記載されている誤りや不正確さについていかなる義務および法的責任も負いません。Victor Hasselblad ABは、Hasselbladのソフトウェアや製品の使用中、あるいは使用の結果として発生した損失や損害についていかなる義務および法的責任も負いません。

Copyright ©2019 Victor Hasselblad AB. All rights reserved.